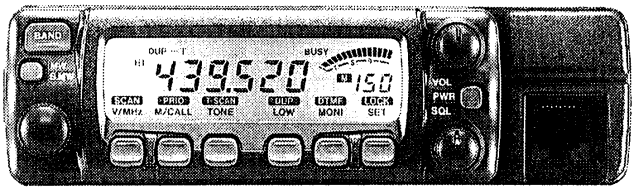
ICOM

取扱説明書

144MHz/430MHz
FM TRANSCEIVER

IC-207
IC-207D



この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

Icom Inc.

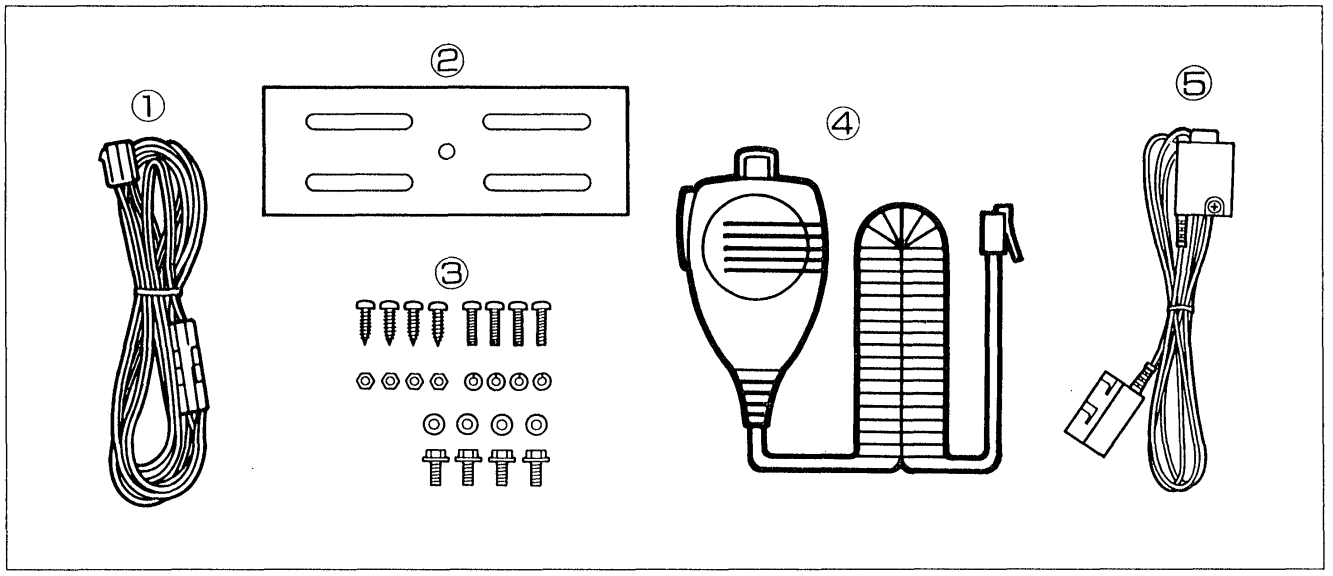
はじめに

このたびはIC-207/IC-207Dをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、VHF帯（144MHz）、UHF帯（430MHz）の2バンドを搭載し、バンドの切り替えにより、シングルバンドで運用する簡単操作のFMトランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

付属品



①DC電源コード……1
②車載ブラケット……1
③車載ブラケット用ビス一式……1
④マイクロホン（HM-78）……1
⑤コントローラー延長ケーブル（3.5m）……1

●取扱説明書
●愛用者カード
●保証書

目　次

1．安全にお使いいただくために ―― 4
2．各部の名称と機能 ―― 7
2－1　前面パネル(コントローラー) ……7
2－2　マイクロホン（HM-78) ……9
2－3　ディスプレイ……10
2－4　後面パネル……11
3．設置と接続 ―― 12
3－1　マイクロホンの接続 ……12
3－2　コントローラー(前面パネル)の外しかた ……12
3－3　車載時の設置のしかた……13
3－4　セパレート運用時の接続方法……14
3－5　電源の接続……15
3－6　アンテナの接続……16
4．基本操作のしかた ―― 17
4－1　バンド(144/430MHz帯)の設定……17
4－2　操作モードの切り替えかた……18
4－3　周波数の設定のしかた(VFOモード) ……19
4－4　チューニングステップを変えるには ……20
4－5　受信のしかた……21
4－6　送信のしかた……23
■　送信出力の設定のしかた ……24
5．メモリー／コールチャンネルについて ―― 25
5－1　M-CH(メモリーチャンネル)について ……25
5－2　M-CHの呼び出しかた ……25
5－3　メモリー(書き込み)のしかた……26
5－4　M-CHの内容を他のM-CHに書き込むには……27
5－5　M-CHの内容をVFOで使うには……28
5－6　M-CHの内容を書き替えるには……29
5－7　メモリークリア(消去)しかた……30
5－8　コールチャンネルの使いかた……31
5－9　ログ(LOG)メモリーの使いかた ……32
6．スキャンのしかた ―― 34
6－1　スキャンについて……34
6－2　スキャン操作をする前に ……34
6－3　フルスキャンのしかた……35
6－4　プログラムスキャンのしかた……36
6－5　メモリー(スキップ)スキャンのしかた……38
6－6　プライオリティスキャンのしかた……40
6－7　トーンスキャンのしかた ……42

目　次

7. レピータの運用(オートレピータ) ——— 43
　7－1　レピータについて……43
　7－2　レピータの使いかた(UHF帯)……43
8. SETモード ——— 45
　8－1　SETモードの設定項目……45
　8－2　SETモードの操作のしかた……46
　8－3　SETモードの項目別詳細……47
9. イニシャルセットモード ——— 50
　9－1　イニシャルセットモードの設定項目……50
　9－2　イニシャルセットモードの操作のしかた……51
　9－3　イニシャルセットモードの項目別詳細……52
10. 各種の通信機能と使いかた ——— 57
　10－1　デュプレックスの運用……57
　10－2　DTMFメモリー機能の使いかた……59
　10－3　トーンスケルチ／ポケットビープ機能……62
　10－4　パケット通信について……63
11. その他便利な機能 ——— 65
　11－1　ユーザーファンクションの使いかた……65
　11－2　操作スイッチのロックのしかた……66
　11－3　ビープ音について……66
　11－4　30秒タイマー機能について……66
12. オプションマイクについて ——— 67
　12－1　多機能マイク(HM-98)の使いかた……67
　12－2　ワイヤレスマイク(HM-90)の使いかた……77
13. 保守について ——— 82
　13－1　オールリセットのしかた……82
　13－2　パーシャルリセットのしかた……83
　13－3　ヒューズの交換……83
14. 免許の申請について ——— 84

15. 定格 ——— 86
16. トラブルシューティング ——— 87
■　アフターサービスについて ——— 88
　IC-207シリーズのオプション一覧表 ——— 89

安全にお使いいただくために

■安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

●警告、注意の意味は、以下のようになっています。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、「使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、「使用者および周囲の人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■以下の警告、注意事項をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠警告

●万一「煙が出ている」「変なにおいがする」などの異常状態のまま使用すると、火災の原因となることがあります。
すぐに電源スイッチを切り、電源接続プラグを抜き、販売店または弊社営業所サービス係に点検をご依頼ください。

●雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、電源コードには、絶対にさわらないでください。
感電事故のおそれがあります。

●指定の電源電圧（直流13.8V）以外の電圧で使用しないでください。
火災、感電などの原因となります。

●指定外のヒューズは絶対に使わないでください。また、ヒューズのない電源コードを使用しないでください。
発火、火災などの原因となりますので、弊社指定の電源コードをご使用ください。

●お客様による修理や改造は、絶対にしないでください。
火災、感電などの原因となります。

●運転中は、本機の操作をしないでください。
交通事故の原因となるおそれがあります。

●車を運転中は、大きな音量で使用しないでください。
踏切の警報や他の車のクラクション、その他の警報が聞きとれず、交通事故のおそれがあります。

●大きな音量で、ヘッドセットやイヤホンを使わないでください。
連続して大きな音で使用していると、耳に傷害を与えるおそれがあります。

●電源コードやプラグが傷ついたり、プラグの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
ショートして発火のおそれがあります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理にまげたり、ひっぱったり、ねじったり、加熱したりしないでください。
ショートして発火のおそれがあります。

1 安全にお使いいただくために

⚠注意

●長時間使用すると、放熱器の温度が高くなります。（故障ではありません）
身体を触れないでください。
火傷のおそれがあります。

●子供や周囲の人が、放熱器に触れないようご注意ください。
火傷のおそれがあります。

●本機の内部に、金属物や線材などを挿入しないでください。
ショートして発火のおそれがあります。

●本機や接続ケーブルの上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
破損したり、ショートして発火のおそれがあります。

●電源コードを接続する際は、極性（プラス、マイナス）をまちがえないでください。
発火事故のおそれがあります。

●電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
感電やショートして発火のおそれがあります。

●機器用プラグに、金属片やゴミを付着させないでください。
ショートして発火のおそれがあります。

●長時間使用しない場合は、安全のため、電源を切っておいてください。

お願い

●本装置は、厳重な品質管理のもとに、生産・出荷されておりますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早く、お買い求めいただいた販売店、または、弊社営業所へお申し付けください。

●本装置の仕様は、日本国内向けとなっておりますので、海外では使用できません。

●機器の清掃には、シンナーやベンジンは絶対に使わないでください。
通常は乾いた布で、汚れのひどいときは水でうすめた中性洗剤をひたして拭いてください。

●直射日光にあたるところに、長時間放置しないでください。
炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。
また、真冬は車内の温度を上げてからご使用ください。

●機器内部のコアやトリマーをさわらないでください。
完全調整していますので、お客様が調整すると故障の原因となります。

◎本取扱説明書は、改良のため予告なく変更することがあります。

電波を発射するまえに

●アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

> 参考　無線局運用規則　第9章　アマチュア局の運用
> 第258条　アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。以下省略

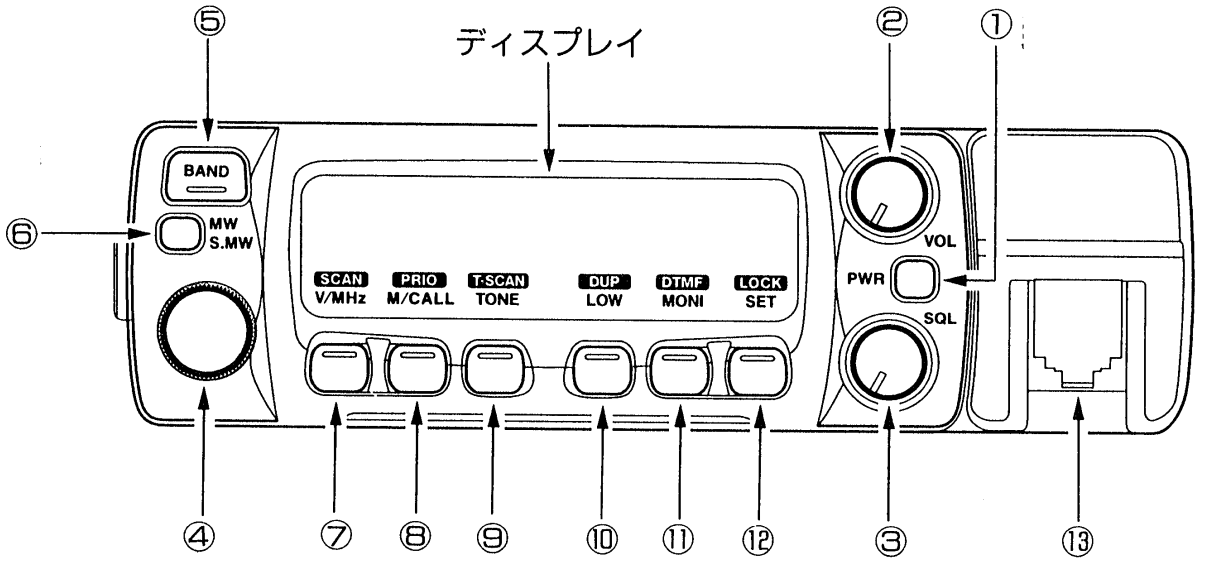
●障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検し、障害に応じて弊社サービス窓口やお買い上げの販売店などに相談して、適切な処置をしてください。

●受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい問題もあります。
日本アマチュア無線機器工業会（JAIA）、および㈳日本アマチュア無線連盟（JARL）では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会 （JAIA）	〒170　東京都豊島区巣鴨1-10-5　第2川端ビル TEL 03-3944-8611
㈳日本アマチュア連盟 （JARL）	〒170-78　東京都豊島区巣鴨1-14-5 TEL 03-5395-3111

2 各部の名称と機能

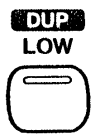
2−1 前面パネル〔コントローラー〕



●⑦〜⑫のスイッチの名称は、ディスプレイの下段に表示しています。
白ぬき文字で表示している機能はスイッチを長く（1秒以上）押します。

下表の□（アミカケ部）は、スイッチを長く押したときの機能です。

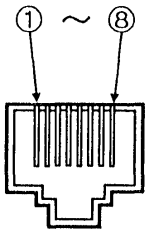
No.	スイッチの名称		おもなはたらき
①	PWR	POWER (電源)スイッチ	本機の電源スイッチです。 1回押すごとにON/OFFします。
②	VOL	VOL(音量) ツマミ	受信者の音量を調整するツマミです。 (☞P21) 聞きやすいところにセットしてください。 ※リモコンマイク（オプション）で調整するとき、そのレベルをディスプレイのS/RFインジケーターと数値で表示します。 (☞P71)
③	SQL	SQL(スケルチ) ツマミ	受信していないときの、雑音をなくすスケルチ調整ツマミです。 (☞P21) 通常は“BUSY”表示が消灯（雑音が消える）位置にセットしておきます。 ※リモコンマイクで調整するとき、そのレベルをディスプレイのS/RFインジケーターを数値で表示します。 (☞P71) スケルチツマミはアッテネーター(減衰器)としても動作します。 (☞P22)

④		ダイヤルツマミ	運用周波数やメモリーチャンネル（M-CH）の設定を行うツマミです。 ●VFOモード→運用周波数の設定 (☞P19) ●メモリモード→M-CHの設定 (☞P25)
⑤		BAND(バンド)スイッチ	バンド（144/430MHz帯）を切り替えるスイッチで、操作モードにより次の動作になります。 ●VFOモード時はバンド切り替え (☞P17) ●CALL-CH「1」と「2」の切り替え (☞P31) ●スキャン中のスキャン範囲切り替え (☞P37)
⑥		MW(メモリーライト)スイッチ	M-CHへ書き込みをするスイッチです。 (☞P26) また、M-CHの内容をVFOに転送することもできます。 (☞P28)
		S.MW(セレクトメモリー)スイッチ	メモリー書き込み操作時、書き込みをするM-CHを選択できる状態にするスイッチです。 (☞P26)
⑦		SCAN(スキャン)スイッチ	各種スキャンのスタート/ストップを行うスイッチです。 (☞P34)
		V(VFO)/MHzスイッチ	周波数を設定するための、VFOモードにするスイッチです。 (☞P18) VFOモード時、このスイッチは1MHzの周波数ステップにします。 (☞P20)
⑧		PRIO(プライオリティ）スイッチ	プライオリティスキャンのスタート/ストップを行うスイッチです。 (☞P40)
		M/CALL(メモリー/コール)スイッチ	メモリーモードまたはコールチャンネルモードにするスイッチです。 (☞P18)
⑨		T-SCAN(トーンスキャン)スイッチ	特定周波数で使われているトーン周波数を探す、トーンスキャンのスタート/ストップを行うスイッチです。 (☞P42)
		T(トーン)スイッチ	トーンエンコーダーやトーンスケルチ機能の運用モードにするスイッチです。 (☞P62)
⑩		DUP(デュプレックス)スイッチ	デュプレックス運用モードにするスイッチです。 (☞P57) 1秒以上押ごとに、DUP−(マイナス）→DUP（プラス）→シンプレックスを切り替えます。
		LOW(ロ ー パ ワ ー)スイッチ	送信出力を切り替えるスイッチです。 (☞P24) HI/MID-HI/MID-LO/LOの4段階に切り替えることができます。

⑪	DTMF MONI	DTMFスイッチ	DTMFメモリーおよびDTMFコードの設定を行うスイッチです。(☞P59)
		MONI(モニター)スイッチ	強制的にスケルチが開く受信モニターを行うスイッチです。(☞P22) スケルチで消された弱い信号を聞きやすくします。
⑫	LOCK SET	LOCK(ロック)スイッチ	スイッチの操作を無効にする、ロック機能を“ON”にするスイッチです。(☞P66)
		SET(セット)スイッチ	各種の運用条件を設定する、SETモードにするスイッチです。(☞P46)
⑬		マイクコネクター	付属のマイクロホンまたはオプションのマイクを接続するコネクターです。

2-2 マイクロホン（HM-78）

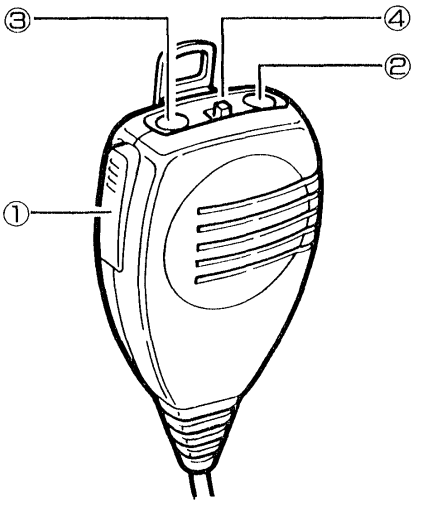
■マイクコネクターの接続(正面から見た図)



(正面から見た図)

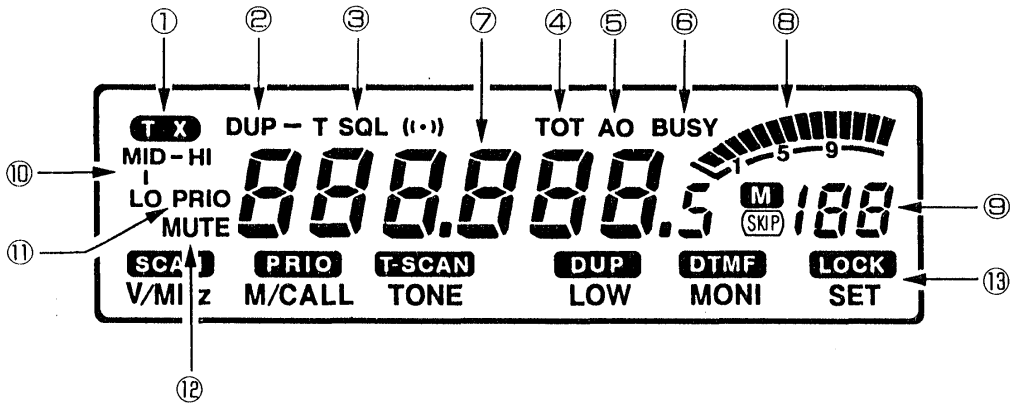
①+8V	+8V(10mAの出力)
②MIC U/D	HM78のUP/DN信号入力
③EXTMIC	HM-90/98の接続判断信号入力
④PTT	PTTの入力信号
⑤MICE	マイクのアース
⑥MIC	マイクの信号入力
⑦E	PTTのアース
⑧MICIN	HM-90/98の制御信号入力

※HM-90/98はオプションのリモコンマイクです。



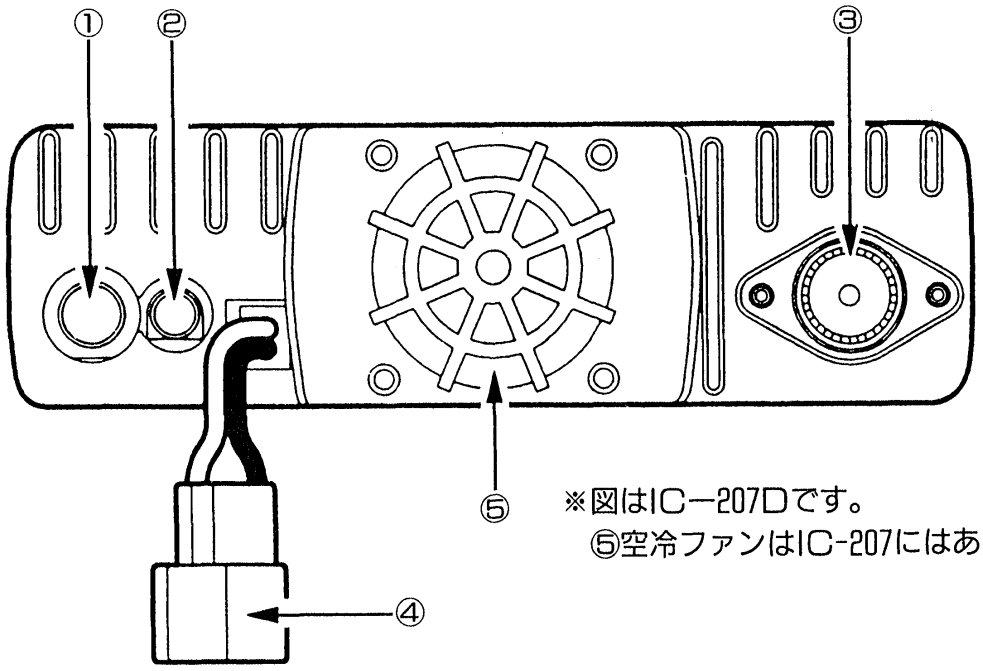
No.	表　示	表 示 の 内 容
①	PTT(プッシュ・ツー・トーク) スイッチ	送信と受信を切り替えます。 スイッチを押しながらマイクに向かって話しかけてください。 スイッチを離すと受信に戻ります。
② ③	UP(アップ) DN(ダウン) スイッチ	●VFOモード時は、周波数のアップ/ダウンができます。 ●メモリーモード時は、M-CHのアップ/ダウンができます。 ●0.5秒以上押すと、スキャン動作になります。 ●ユーザーファンクションとして、使用することもできます。(☞P65)
④	LOCK(ロック) スイッチ	UP/DNスイッチの有効/無効を切り替えるスイッチです。 ON側に切り替えると、UP/DNスイッチの動作を無効にします。

2-3 ディスプレイ



No.	表　示	表　示　の　内　容
①	T X	送信中であることを表示します。
②	DUP – T	レピータ運用状態であることを表示します。(430MHz帯)
③	T SQL (•))	トーンスケルチ/ポケットビープ機能の運用中を表示します。
④	TOT	送信時のタイムアウトタイマー機能が“ON”になっていることを表示します。
⑤	AO	オートパワーオフ機能が“ON”になっていることを表示します。
⑥	BUSY	受信状態でスケルチが開いているときに点灯します。 モニター機能動作中は点滅します。
⑦	888.888.5	●通常は運用周波数を表示します。 ●SETモード時は、セット項目の内容を表示します。 ●DTMF運用時のメモリー内容を表示します。
⑧	1 5 9	●受信時は、受信信号の強さを示すSメーターとして表示します。 ●送信時は、送信出力を示すインジケーターとして表示します。 ●リモコンマイクの音量/SQLレベルも表示します。
⑨	M SKIP 188	●メモリーモードとチャンネル番号を表示します。 ●コールチャンネル時は“C1”または“C2”を表示します。 ●メモリースキャンの“SKIP”チャンネルを表示します。
⑩	MID – HI LO	送信出力を4段階で表示します。 HI, MID-HI, MID-LO, LOの表示を行います。
⑪	PRIO	プライオリティスキャンが動作中であることを表示します。
⑫	MUTE	受信ミュート状態になっていることを表示します。(リモコンマイク)
⑬	スイッチ表示部	ディスプレイの下にあるスイッチの名称を表示しています。 ●上段白ぬき文字の表示は、長く（約1秒）押すスイッチです。 ●下段の表示は、短く押すスイッチの名称です。

2−4 後面パネル



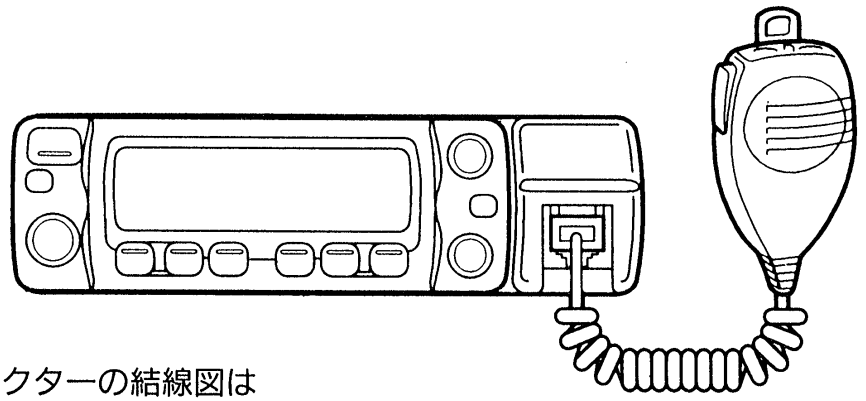
※図はIC−207Dです。
⑤空冷ファンはIC-207にはありません。

①	データ端子 (ミニDIN)	データ専用のミニDIN6PIN端子です。 パケット通信のTNCを接続します。
②	外部スピーカー ジャック	外部スピーカーを接続するジャックです。 インピーダンスは8Ωです。 外部スピーカーを接続すると、内蔵スピーカーは動作しません。
③	アンテナコネクター (144MHz/430MHz)	アンテナを接続するコネクターです。 インピーダンス50Ωのアンテナを、M型コネクターで接続します。 ●本機はデュプレクサーを内蔵していますので、市販のデュアルバンドアンテナ(144/430MHz帯)を使用してください。
④	電源コネクター (DC13.8V)	DC13.8Vの電源を接続するコネクターです。 付属のDC電源コードを使用して、車載時はカーバッテリーに、屋内運用時はDC13.8Vの外部電源装置に接続してください。
⑤	空冷ファン (IC−207Dのみ)	放熱のためのファンです。 送信時、自動的に動作させるオートと、電源ONと同時に動作する連続動作の切り替えが、イニシャルセットモードで選択することができます。 (☞P54)

3−1 マイクロホンの接続

付属のマイク（HM-78）または、オプションの多機能マイク（HM-98）は、本体のマイクコネクターに接続してください。

●マイクロホンの接続プラグを、本体マイクコネクターに差し込んでください。
※“カチッ”と音がするまで、奥の方へ差し込みます。

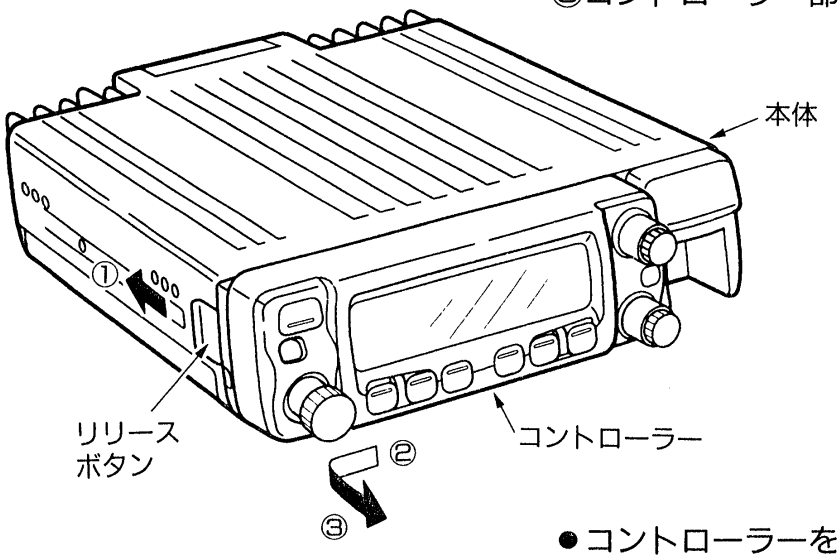


※マイクコネクターの結線図は
☞P9をご覧ください。

3−2 コントローラー（前面パネル）の外しかた

セパレート運用時、下記のようにしてコントローラーを外します。

①本体側のリリースボタンを奥の方へ押しながら
②コントローラー部を左へスライドさせます。
③コントローラー部を前方へ引き出します。



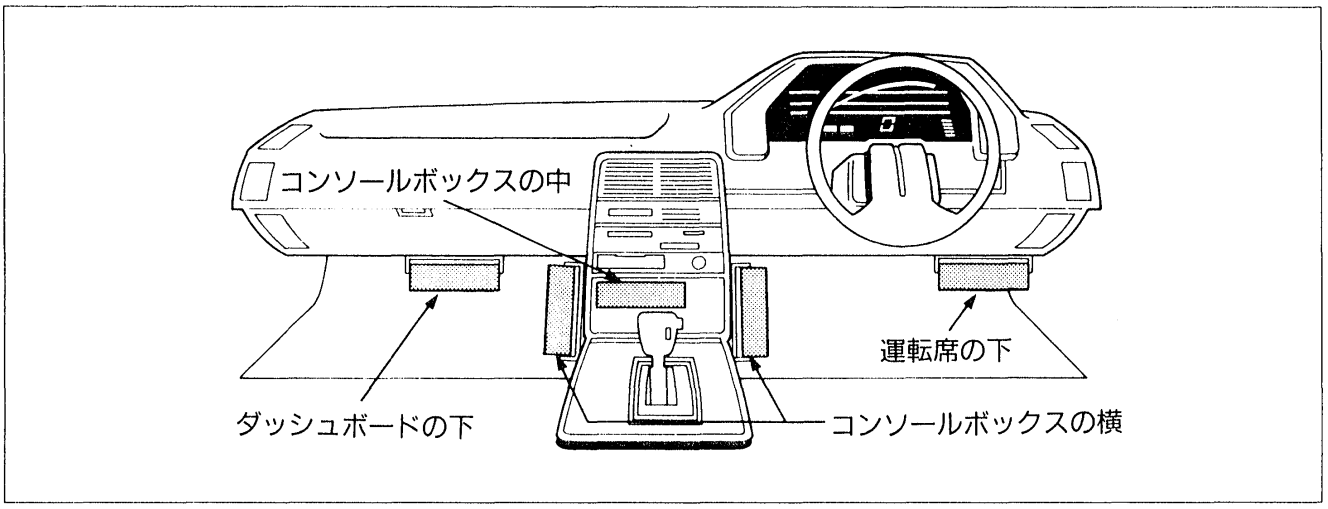
●コントローラーを再度本体に取り付けるときは、本体のツメ（突起）にコントローラーの溝を合わせて差し込み、右側にスライドさせます。

3-3 車載時の設置のしかた

1. 取り付け場所

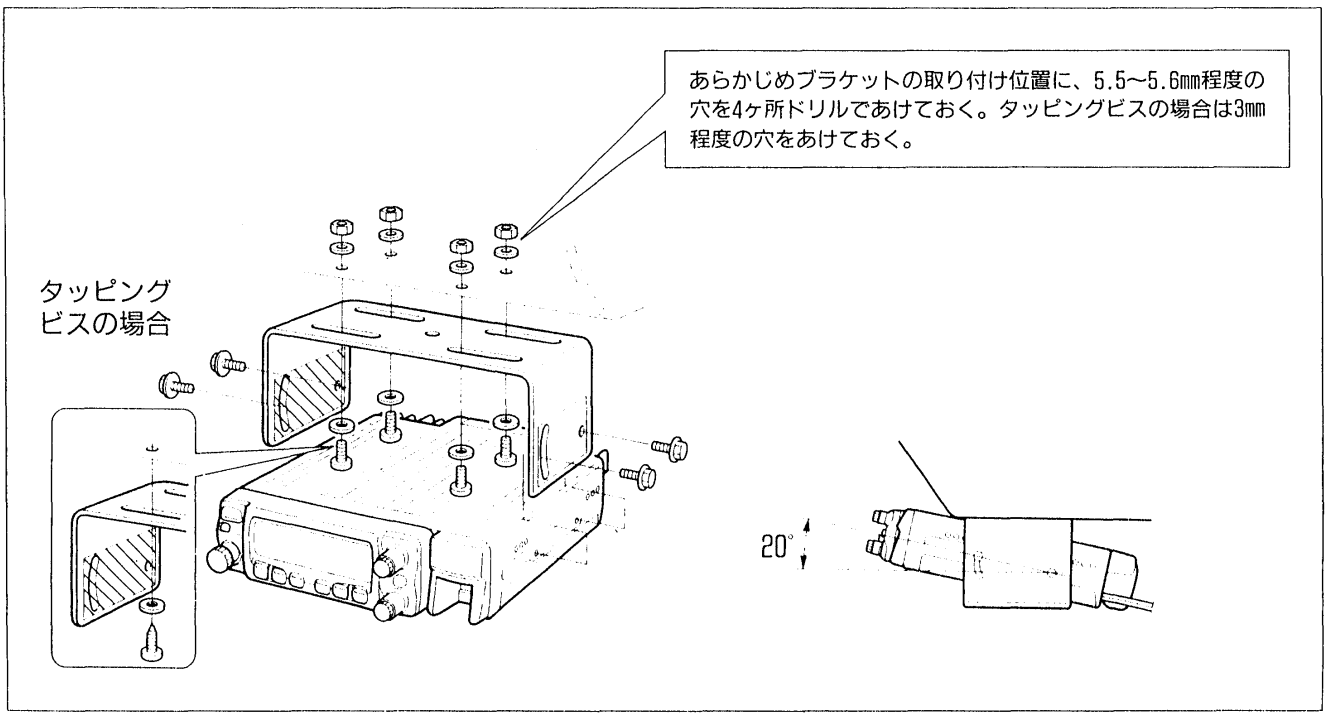
⚠注意	●安全運転に支障のない場所に設置してください。 ●直射日光のあたる場所、ヒーター／クーラーのふき出し口などの温度変化の激しい場所へ設置しないでください。 ●本装置の上に物を乗せたり、本装置をふみつけたりしない場所へ設置してください。

●車への取り付けは、下図のような位置をおすすめします。



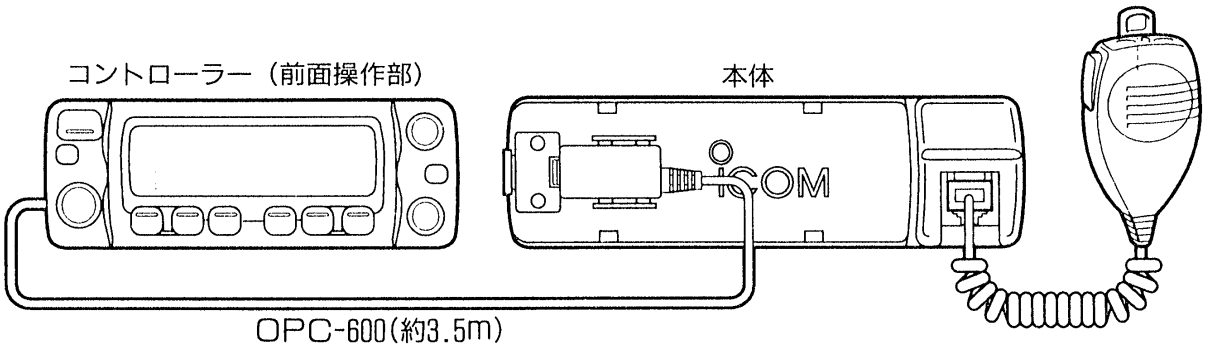
2. 取り付けかた

付属の車載ブラケットを利用し、ブラケットがしっかり固定される場所に取り付けます。



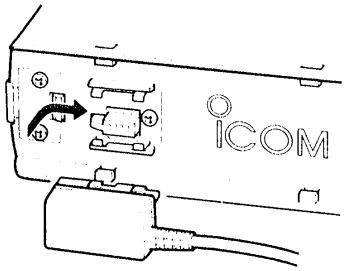
3−4 セパレート運用時の接続方法

本機は付属のコントローラー延長ケーブルOPC-600(3.5m)により、コントローラー部を分離して設置することができます。



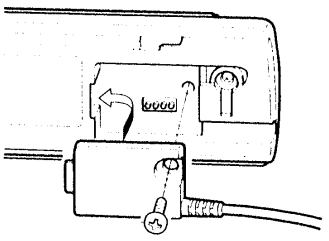
(1)コントローラーを外す（☞P12）
(2)コントローラー延長ケーブルを接続する

● 本体側



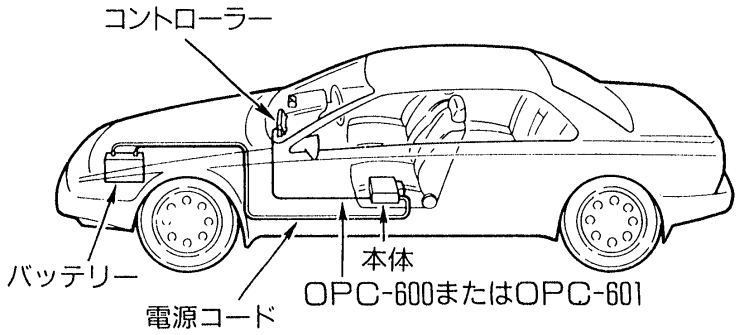
①接続コネクター部の溝をツメに合わせて差し込み
②右側にスライドさせます。
リリースボタンがロックします。

● コントローラー側



①接続コネクター部の突起をコントローラーの溝（ミゾ）にはめこみ
②ネジ止めします。
(注)ネジ山がつぶれないよう、ネジに合ったプラスドライバーをご使用ください。

■セパレート運用の設置例



● OPC-601は、ケーブルが7mありますので、本体をトランクルームなどにも設置できます。
※長い電源コードが必要な場合はOPC-347をご利用ください。
コード長：7m

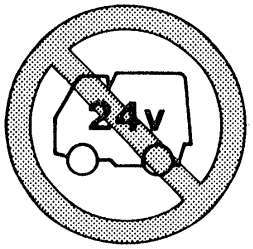
3-5 電源の接続

電源は車のバッテリー(12V系)に、直接付属のDC電源コードで接続してください。

DC電源コードの配線は、本機を接続する前に行ってください。

①かためのの針金をエンジンルームからグロメットを貫通させて車内へ引き込みます。
②針金にDC電源コードをからませ、針金の先端をペンチなどで曲げテープを巻いて、エンジンルームへ引き出します。
③DC電源コードは赤色が⊕プラス側、黒色が⊖マイナス側になっていますので、まちがえないようにバッテリーの端子に取り付けます。

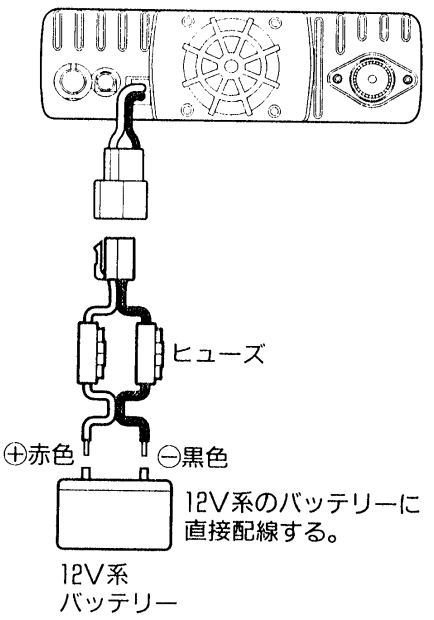
●電源接続のご注意



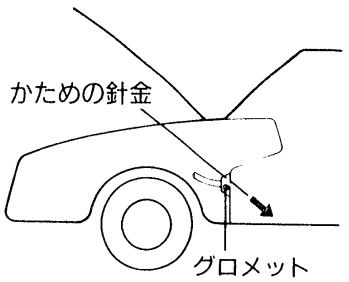
24V系バッテリーの車は、そのままでは接続できません。DC-DCコンバーター(24Vを13.8Vに変換する)必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

シガレットライターから電源をとると、接触不良を起こしたり、誤動作の恐れがありますので、さけてください。

●本機とバッテリーの接続



●車内からエンジンルームへの配線



⚠電源コードのご注意

- 配線時は極性(赤がプラス、黒がマイナス)をまちがえないでください。
- 電源コードはむりやりひっぱたり、曲げたりしないでください。また、コードの上に物を乗せたり、ふみつけたりしないところに配線してください。
- 電源コードは、付属または弊社指定のオプションケーブルをご使用ください。

■固定運用時の電源について

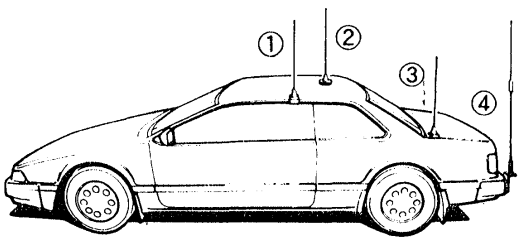
本機を固定局として運用される場合は、DC13.8V12A以上(IC-207D)、6.5A以上(IC-207)の安定化電源装置をご使用ください。

3-6 アンテナの接続

トランシーバーの性能は、使用するアンテナの良否によって大きく左右されます。
目的に合ったアンテナを、正しい状態で使用することがアンテナの効率をあげることになります。

①アンテナは後面パネルのANTコネクターに接続してください。
②市販の車載アンテナは、同軸ケーブルが付属されていますが、できるだけ短くなるように配線してください。
③同軸ケーブルの引込み部から、雨水が入らないようにご注意ください。

●アンテナの取り付け場所

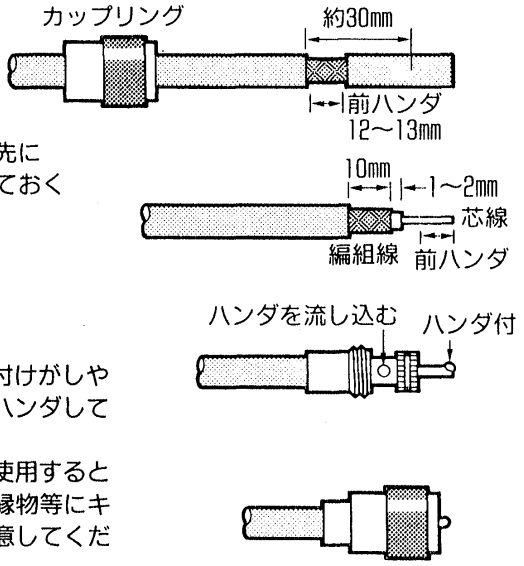


①ルーフサイド型　③トランクリッド型
②ルーフトップ型　④バンパー型

■同軸ケーブルについて

アンテナの給電点インピーダンスと同軸ケーブルの特性インピーダンスは、50Ωのものをご使用ください。
同軸ケーブルには各種のものがありますが、できるだけ損失の少ないケーブルを、できるだけ短くしてご使用ください。

●M型コネクターの取り付けかた



ナイフ・カッター等で外被を切り前ハンダがしやすいように外被を抜き取ってしまわずに、12～13mmの間をあけておく。

外被を抜きとり、前ハンダにた編組線を10mm程残して切りとり、内部絶縁体を1～2mm残して切りとる。芯線にも前ハンダをしておく。

芯線をコネクターに通し図のようにハンダ付けを行う。

カップリングを図のようにコネクターのネジを越えるまではめ込んでおく。

●前ハンダ
コネクター部でハンダ付けがしやすくなるようにうすくハンダしておくことです。
●ナイフ・カッター等を使用するときは、編組線、内部絶縁物等にキズをつけないように注意してください。

■固定運用時のアンテナ

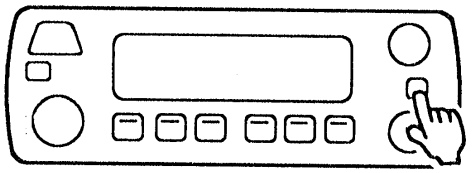
市販されているアンテナには、無指向性のアンテナと指向性のアンテナがありますので、用途や設置スペースに合わせてご使用ください。
①無指向性アンテナ(グランドプレーンなど)：ローカル局やモービル局との交信に適しています。
②指向性アンテナ(八木アンテナなど)：遠距離局や特定局との交信に適しています。

4 基本操作のしかた

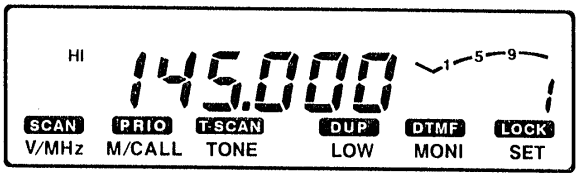
4−1 バンド（144／430MHz帯）の設定

本機は144MHz帯（VHF）と、430MHz（UHF）の2バンドが搭載されていますが、どちらか一方のバンドだけで運用する方式ですから、バンドを切り替えて運用してください。

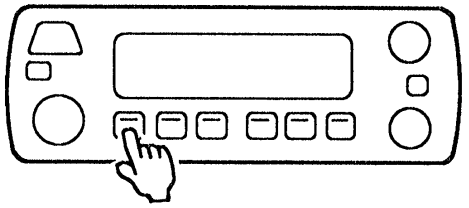
1 PWRスイッチを押し、電源を入れます。



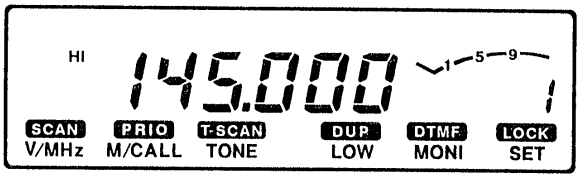
●ONにすると、電源を切る前の状態になる



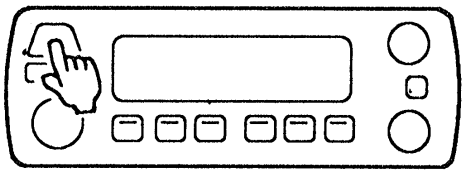
2 V/MHzスイッチを押し、VFOモードにします。



●VFOモードの表示



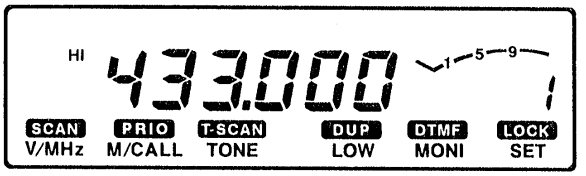
3 BANDスイッチを押します。



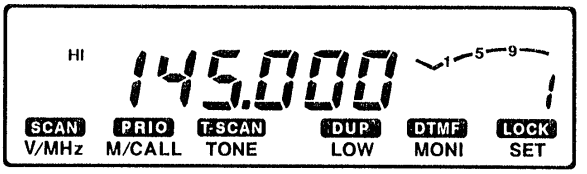
●1回押すごとに、144MHz帯と430MHz帯が切り替わります。

※VFO以外のモードのとき、BANDスイッチは別の機能になります。

●UHF（430MHz）帯



●VHF（144MHz）帯 ↕ BANDスイッチ



〔おことわり〕操作イラストとディスプレイ表示について

- 操作のイラストで、 は短く押す操作、 は長く（1秒以上）押す操作です。
- ディスプレイの表示は、例としての表示ですから、使いかたに応じて説明の表示とは異なることがあります。

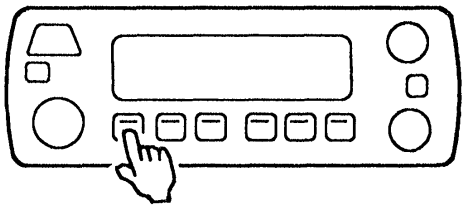
4−2 操作モードの切り替えかた

本機の操作モードは、次のようになっています。

- VFOモード：周波数を設定するモード
- メモリーモード：あらかじめ記憶させたM-CHで運用するモード
- CALL-CHモード：バンドの呼び出し(メインチャンネル)周波数にする

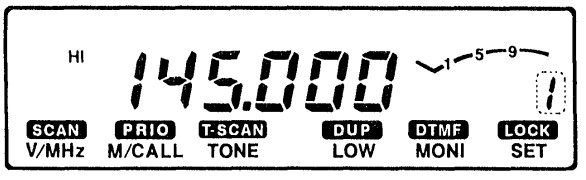
1. VFOモードにするには（VHF帯での操作例）

V/MHzスイッチを押します。



※VFOモードのときに押すと、1MHzステップの可変操作になります。

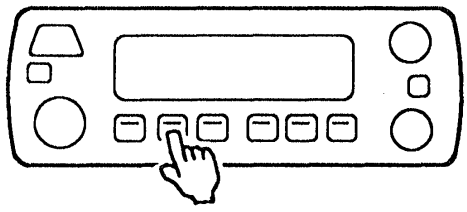
●VFOモードの表示



周波数の設定のしかた(☞P19)へ

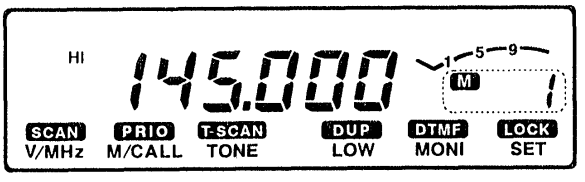
2. メモリーモードにするには

M/CALLスイッチを押します。



※以後、1回押すごとに、M-CHとCALL-CHの切り替えになります。

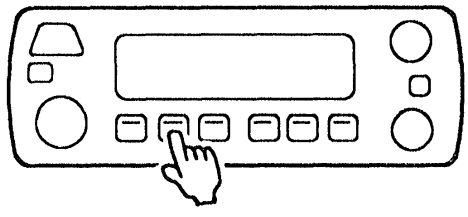
●メモリーモードの表示



メモリーの使いかた(☞P25)へ

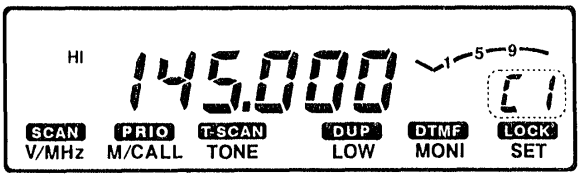
3. CALL-CH（コールチャンネル）にするには

M/CALLスイッチを押します。



●CALL-CH「1」と「2」の切り替えは、BANDスイッチで行います。

●CALL-CHの表示



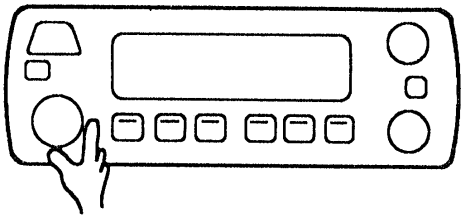
CALL-CHの使いかた(☞P31)

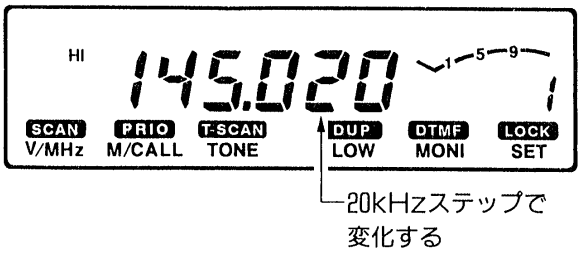
4−3 周波数の設定のしかた（VFOモード）

VFOモードのとき、ダイヤルツマミまたはマイクのUP/DNスイッチで、周波数の設定ができます。

1. ダイヤルツマミで設定する

ダイヤルツマミを回すと、20kHzステップで周波数が変化します。

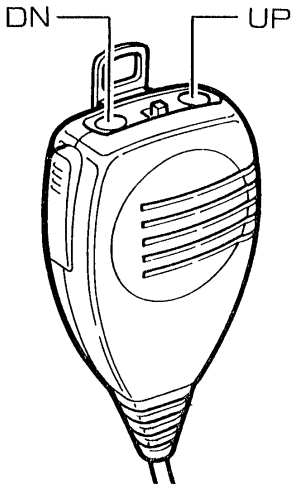




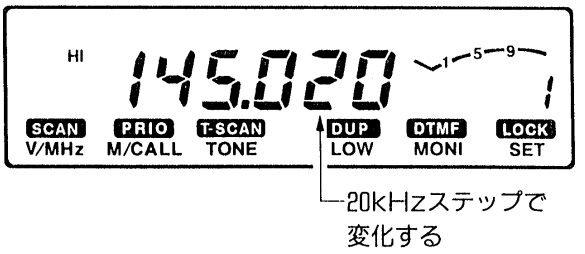
※20kHz以外のチューニングステップを設定する場合は、次ページ(P20)をご覧ください。

2. マイクのUP/DNスイッチで設定する

UPまたはDNスイッチを押します。
1回押すごとに、20kHzステップで変化します。



●0.5秒以上押すと、スキャン動作になります。
スキャン動作になったときは、再度UP/DNスイッチを押してください。



※チューニングステップは、ダイヤルツマミと同じです。

オプションのリモコンマイクは、テンキーからダイレクトに周波数の設定ができます。(☞P72)

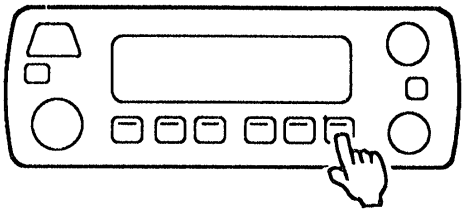
4−4 チューニングステップを変えるには

チューニングステップとは、ダイヤルツマミやマイクのUP/DNスイッチで、周波数を可変するときの周波数ピッチのことです。

- 144MHz帯と430MHz帯で、別々に設定することができます。
- チューニングステップの変更は、SETモードでできます。

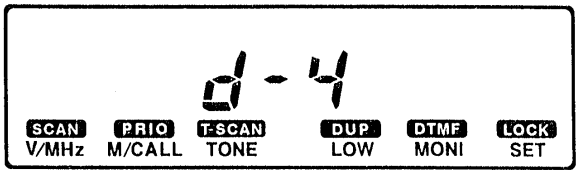
1 VFOモードにします。(☞P18)
(注) チューニングステップの設定項目は、VFOモードのときにSETモードにしなければ表示されません。(SETモード☞P45)

2 SETスイッチを押すと、SETモードになります。

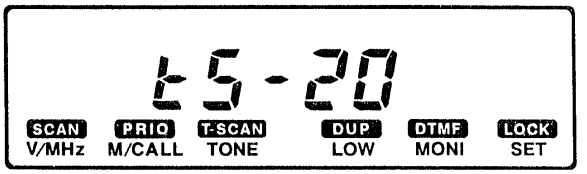


続けてSETスイッチを数回押し、「チューニングステップの設定」の項目を選びます。

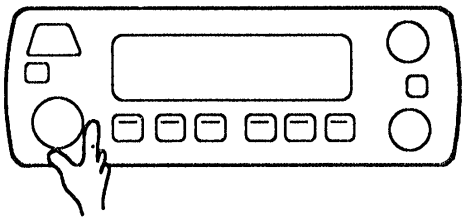
●SETモード(初期表示)



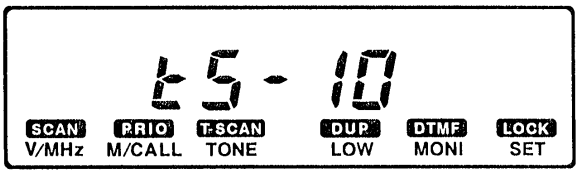
●チューニングステップ設定表示



3 ダイヤルツマミを回して、使用するチューニングステップを選択します。



●10kHzステップにする場合



5/10/12.5/15/20/25/30/50kHzの選択ができます。

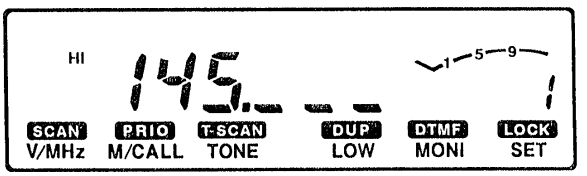
4 SETまたはMONI以外のスイッチを押すと、SETモードを解除できます。

■1MHzステップにするには

VFOモードのときに、V/MHzスイッチを押すと、1MHzステップの表示になります。

- ダイヤルツマミを回すと、1MHzステップで可変します。

●1MHzステップの表示



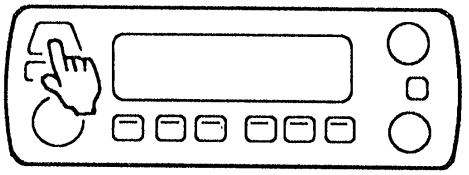
4−5 受信のしかた

1. 電源を入れる

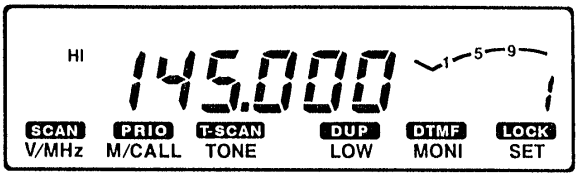
PWRスイッチを押します。

2. 受信するバンドを選択する

BANDスイッチを押します。

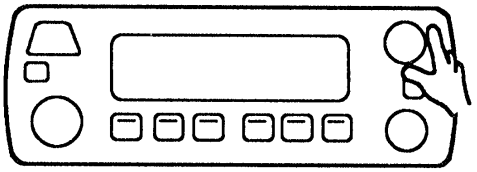


●例. VHF帯にする



3. 音量を調整する

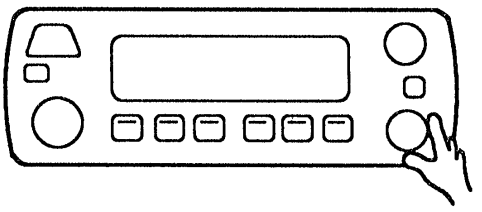
VOL（音量）ツマミを回して、音量を調整します。



●右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

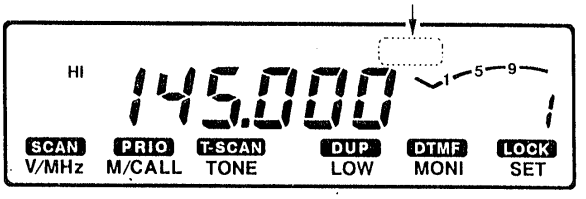
4. スケルチを調整する

SQL（スケルチ）ツマミを回して、スケルチレベルを調整します。



●信号を受信していない状態で、“ザー”という雑音が消える位置にセットします。

“BUSY”が消灯する位置にセットする

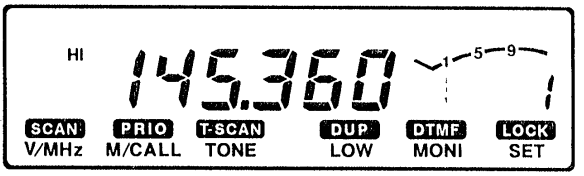


5. 受信する周波数を設定する

V/MHzスイッチでVFOモードにします。
ダイヤルツマミかマイクのUP/DNスイッチで、受信周波数を設定します。

- VFOモードの設定(☞P18)
- 周波数の設定(☞P19)

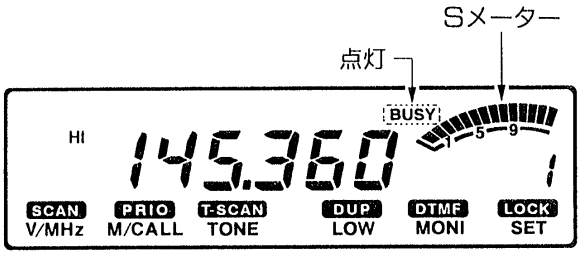
●例. 145.360MHzをセット



6. 受信すると

信号を受信すると、“BUSY”表示が点灯し、音声が聞こえてきます。

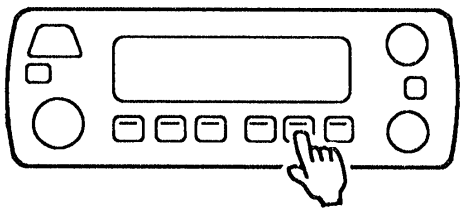
- Sメーターは、受信信号の強さを表示します。



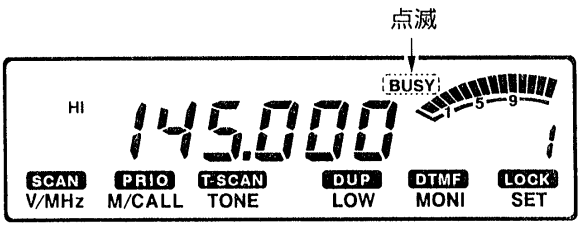
■受信モニター機能について

交信している間に相手局の信号が弱くなったり、信号が雑音で聞きづらくなったときなど、スケルチを強制的に開く機能です。

MONIスイッチを押します。



●例. VHF帯をモニターしたとき



- もう一度押すと、“OFF”になります。

■SQLツマミのアッテネーター(ATT)機能について

スケルチツマミは、アッテネーター(減衰器)としても動作します。

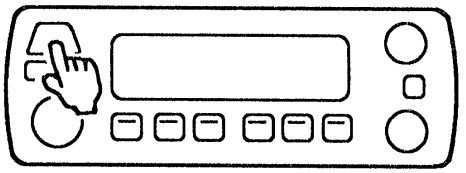
- スケルチツマミを12時の方向より右に回すと、最大約10dB減衰します。
  強力な受信信号を弱め、聞きやすくします。

4−6 送信のしかた

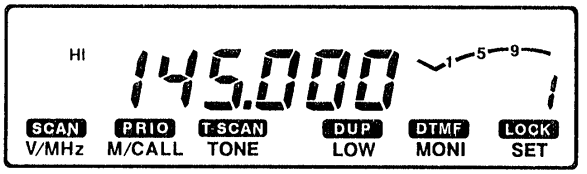
送信するまえに、運用する周波数を他局が使用していないか確かめ、妨害・混信を与えないようにご注意ください。

1. 送信するバンドを選択する

BANDスイッチを押します。



●例. VHF帯にする

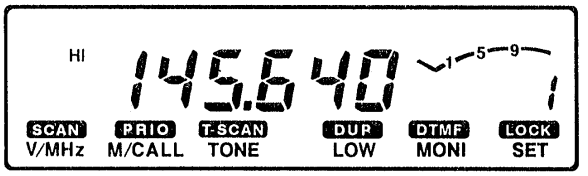


2. 交信する周波数を設定する

V/MHzスイッチでVFOモードにします。
ダイヤルツマミかマイクのUP/DNスイッチで、受信周波数を設定します。

- VFOモードの設定(☞P18)
- 周波数の設定(☞P19)

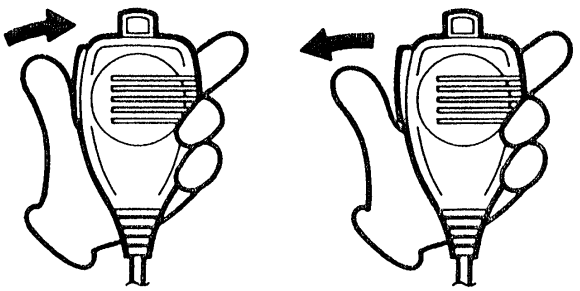
●例. 145.640MHzをセット



3. 送信する

マイクのPTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

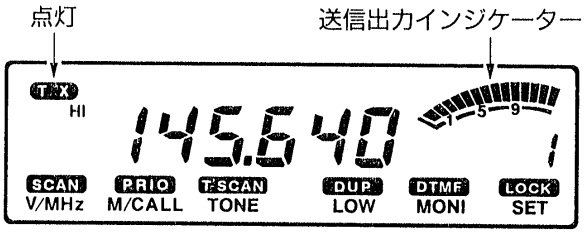
送信　　受信



※マイクと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話してください。

PTTスイッチを離すと、受信状態に戻ります。

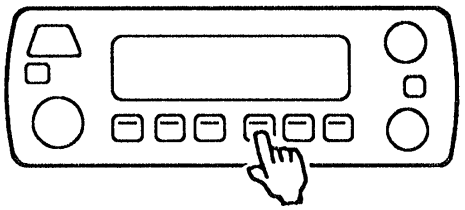
●送信中の表示



送信出力インジケーターは、送信出力切り替えにより、4段階の表示を行います。
次ページ(P24)をご覧ください。

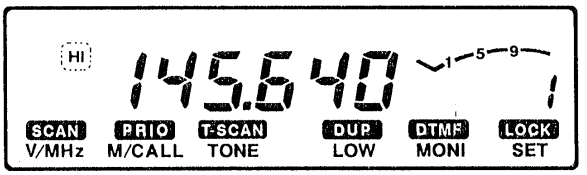
■送信出力の設定のしかた

LOWスイッチを押します。

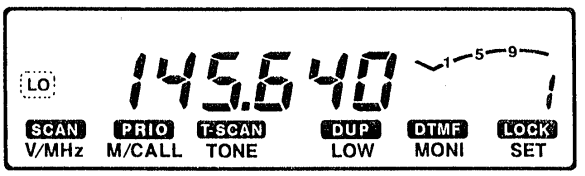


●1回押すごとに、右図のように送信出力が切り替わります。

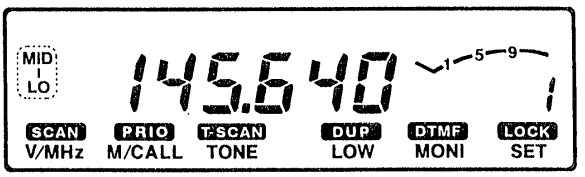
●HIパワー表示



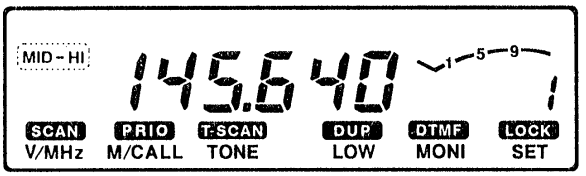
●LOパワー表示



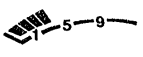
●MID-LOパワー表示



●MID-HIパワー表示



■送信時の表示と出力の関係

設　定	インジケーター（送信時の表示）	送　信　出　力		
		バンド	IC-207D	IC-207
HI		144MHz帯	50W	20W
		430MHz帯	35W	20W
MID-HI		144MHz帯	20W	10W
		430MHz帯	20W	10W
MID-LO		144MHz帯	10W	5W
		430MHz帯	10W	5W
LO		144MHz帯	5W	2W
		430MHz帯	5W	2W

5 メモリー/コールチャンネルについて

5−1 M-CH（メモリーチャンネル）について

M-CHは1〜150CHまであり、両バンドで共用になっています。
プログラムスキャン(☞P36)の範囲設定用として、5組のメモリーがあります。
M-CHには周波数以外に、トーンやデュプレックスの運用情報もメモリー(書き込み)させることができます。

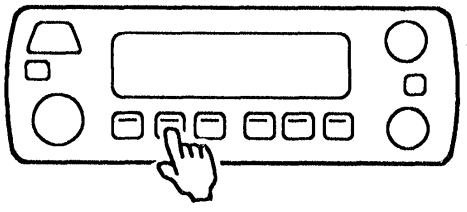
■M-CHの初期設定値(出荷時の状態)について

M-CH	初期周波数	M-CH	初期周波数
1CH	145.000MHz	1A-CH	144.000MHz
2CH	433.000MHz	1b-CH	440.000MHz

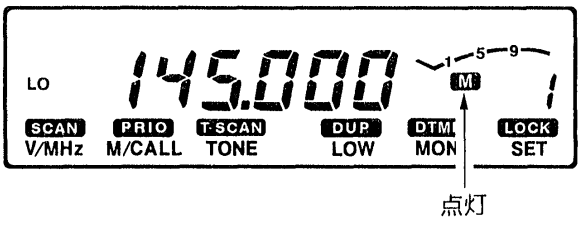
- 上記以外の3〜150CHおよび2A〜5A、2b〜5bは、ブランク（何も記憶されていない状態）になっています。
  通常、ブランクチャンネルを呼び出すことはできません。

5−2 M-CHの呼び出しかた

1 M-CALLスイッチを押し、メモリーモードにします。

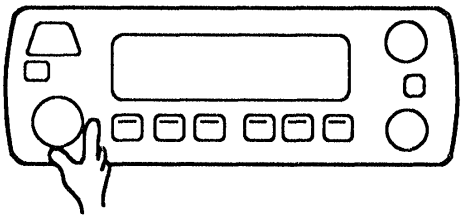


●メモリーモードの表示

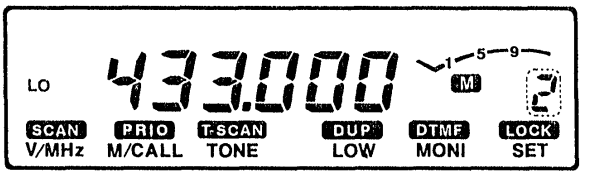


点灯

2 ダイヤルツマミを回します。



●例．2CHを呼び出したとき



- マイクのUP／DNスイッチでも、M-CHの切り替えができます。
  ※押し続けると、スキャン動作になります。

ブランクチャンネルは呼び出すことができません。
周波数を記憶させると、そのM-CHを呼び出すことができます。

5-3 メモリー（書き込み）のしかた

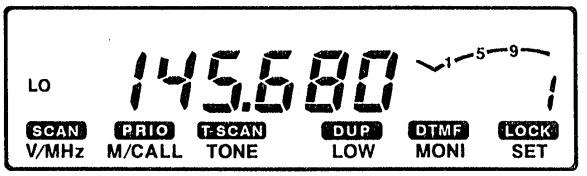
VFOモードで設定した周波数を、任意のM-CH（1～150、1A～5b、C1、C2）に記憶させることができます。

例. 145.680MHzを15CHに書き込むとき

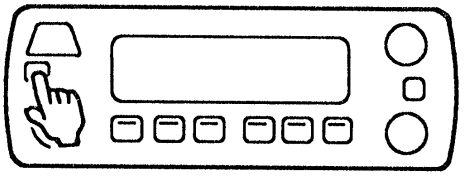
1 VFOモードにして、145.680MHzを設定します。

●以下、VFOモードにしたままで操作してください。

●145.680MHzをセット

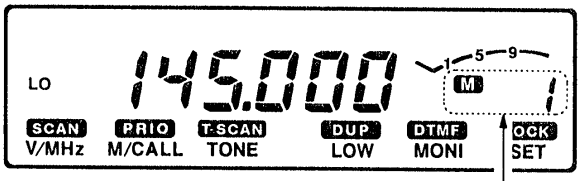


2 S.MWスイッチを押します。

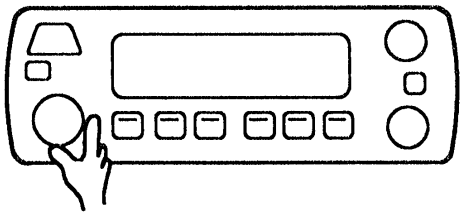


●M-CH表示部が点滅します。

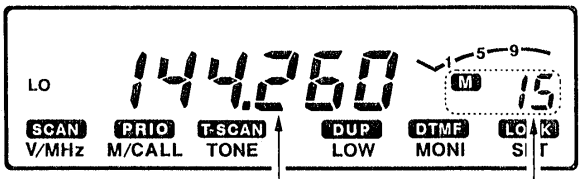
●S.MWを押したとき



3 ダイヤルツマミを回し、M-CHを15に切り替えます。

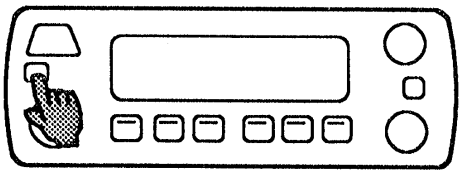


●15CHにセット



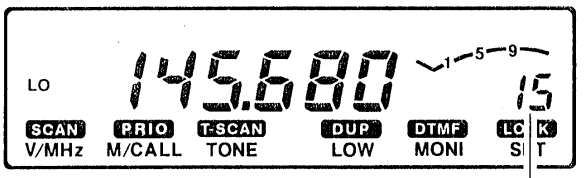
※CALL-CH「1」「2」および「1A」～「5b」まですべてのCHに切り替えができます。

4 S.MWスイッチを約1秒（ピ、ピピが鳴るまで）押します。

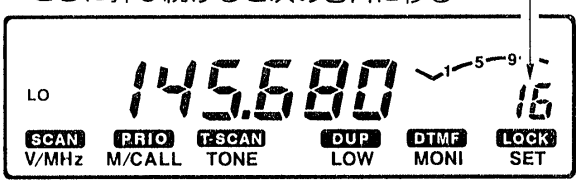


●書き込み後、さらに押し続けると自動的にメモリ番号が1つ進みます。
※CALL-CHに書き込みしたときは、元のM-CHの表示に戻ります。

●15CHに145.680が書き込まれる



●さらに押し続けると次のCHに移る



5−4 M-CHの内容を他のM-CHに書き込むには

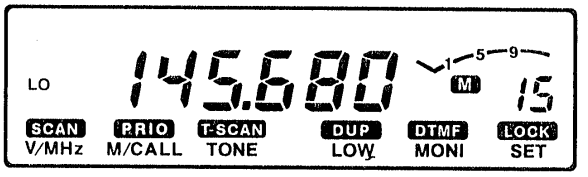
すでに書き込まれているM-CHの内容を、他のM-CHまたはCALL-CHに書き込むことができます。

例. 15CHの内容を他のM-CHまたはCALL-CHに書き込む

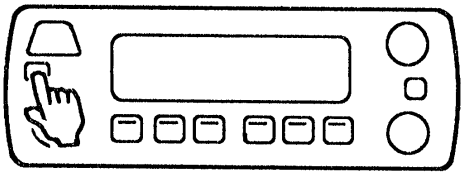
1 メモリーモードにして、15CHを呼び出します。

●以下、メモリーモードにしたままで、操作してください。

●15CHをセット

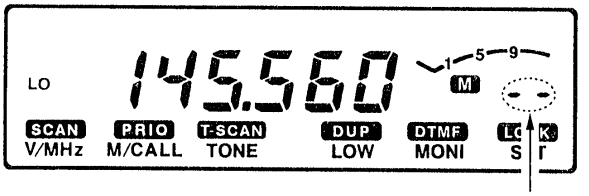


2 S.MWスイッチを押します。



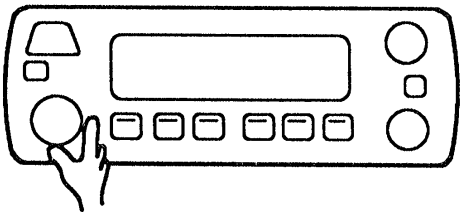
●M-CH表示部が点滅します。

●M-CH表示部点滅

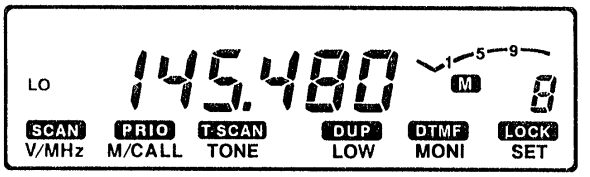


VFOに書き込みができることを示す

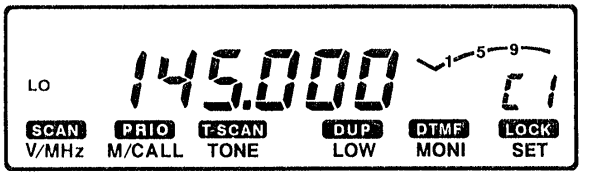
3 ダイヤルツマミを回して、書き込み先のM-CHまたはCALL-CHを選択します。



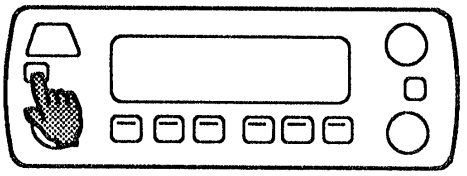
●例. 8CHを選択する



●例. CALL-CH「1」を選択する

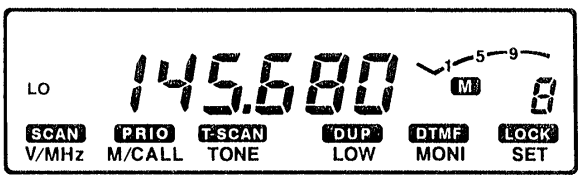


4 S.MWスイッチを約1秒（ピ、ピピが鳴るまで）押します。

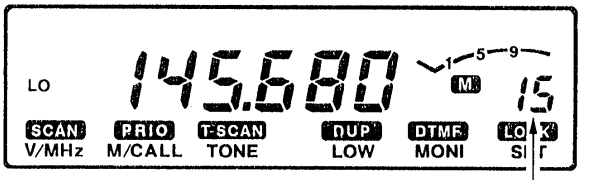


●15CHの内容が選択したM-CHに書き込まれます。
15CHの内容はそのまま残ります。

●例. 8CHに書き込んだとき



●例. CALL-CH「1」に書き込んだとき



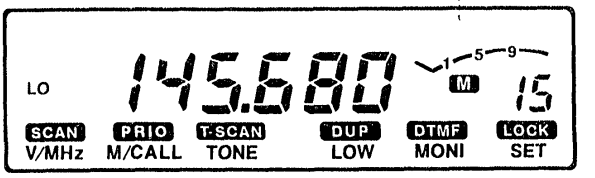
15CHに戻る

5-5 M-CHの内容をVFOで使うには

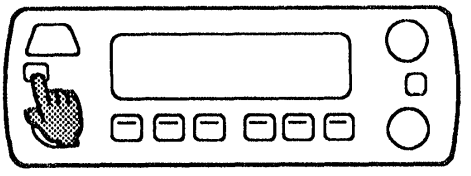
例. 15CHの内容をVFOに転送する

1 メモリーモードにして、15CHを呼び出します。

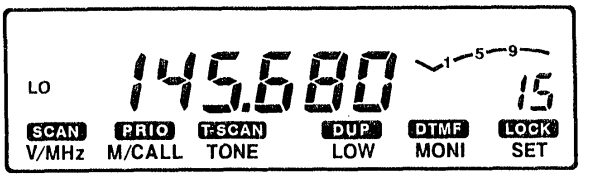
●15CHをセット



2 S.MWスイッチを約1秒（ピ、ピピが鳴るまで）押します。

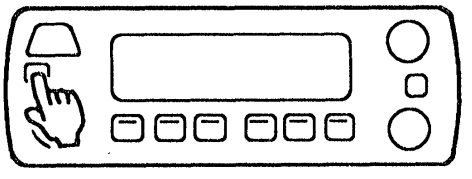


●15CHの内容がVFOに転送される

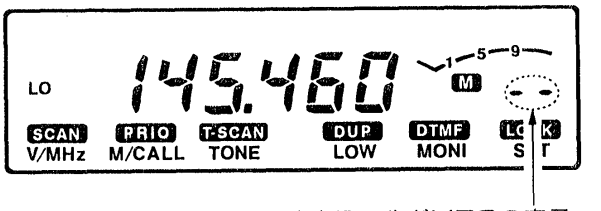


※VFOモードになります。

◎上記2の操作で、S.MWスイッチを短く押すと



●M-CH表示が下記の状態で点滅する

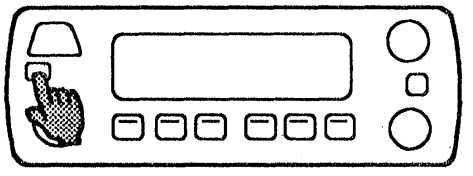


書き込み先がVFOの表示

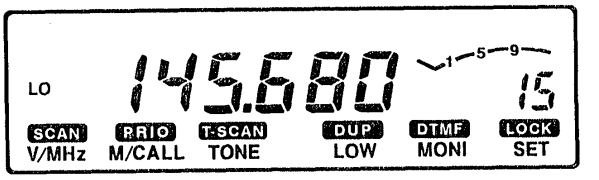
●M-CH の選択状態になります。

※メモリーモードのとき、S.MWを押すと初期の点滅表示は、書き込み先が、VFOを示す表示になっています。

◎書き込み先“VFO”の表示になればS.MWスイッチを約1秒（ピ、ピピが鳴るまで）押します。



●15CHの内容でVFOモードになる



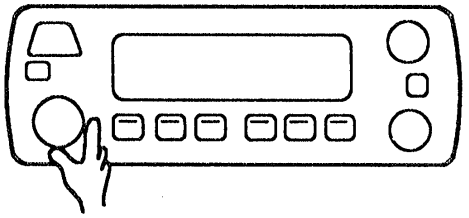
5-6 M-CHの内容を書き替えるには

すでに周波数が記憶されているM-CHを書き替えるときは、セレクトメモリー操作（SMWで選択）を使わずに、次のように書き込むことができます。
ただし、ブランクチャンネルには書き込みができません。

例. 15CH（145.680MHz）を435.020MHzに書き替える

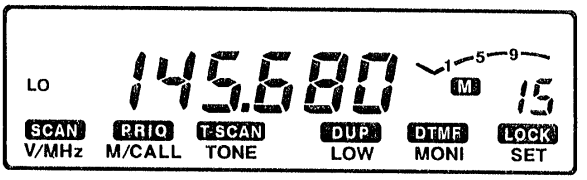
1 M/CALLスイッチを押し、メモリーモードにします。

2 ダイヤルツマミを回し、15CHを呼び出します。



●マイクのUP/DNスイッチでも、呼び出しができます。

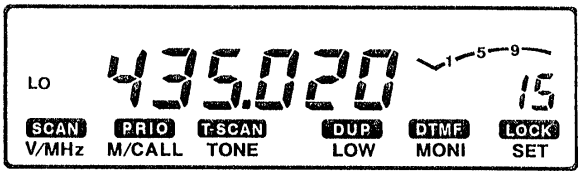
●15CHをセット



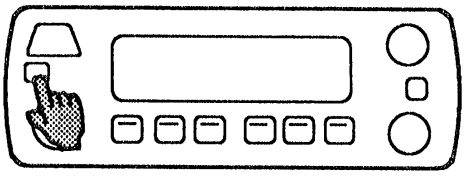
3 VFOモードにして、435.020MHzを設定します。

●VFOモードにしたとき、設定する周波数帯により、BANDスイッチを操作してください。

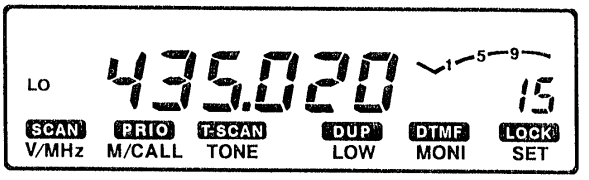
●435.020MHzをセット



4 S.MWスイッチを約1秒（ピ、ピピが鳴るまで）押します。



●15CHに435.020MHzを記憶

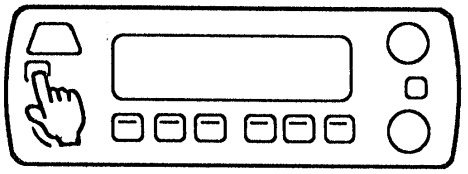


5−7 メモリークリア（消去）のしかた

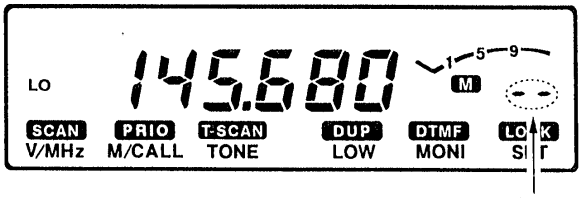
すべてのM-CHをクリアするときは、リセット操作(☞P83)でできますが、特定のM-CHをクリアする操作です。

例. 8CHの内容をクリアする

1 S.MWスイッチを短く押します。

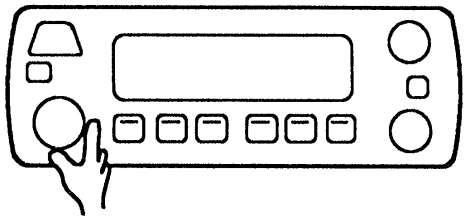


●セレクトメモリー状態

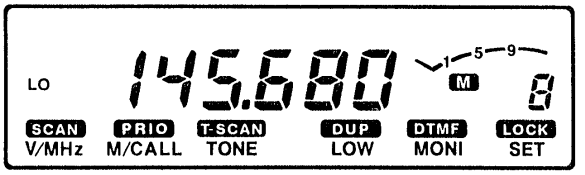


点滅

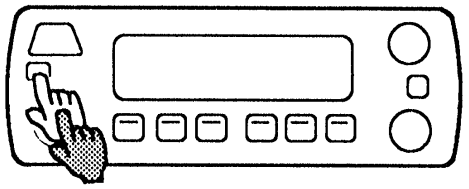
2 ダイヤルツマミを回し、8CHを呼び出します。



●8CHをセット

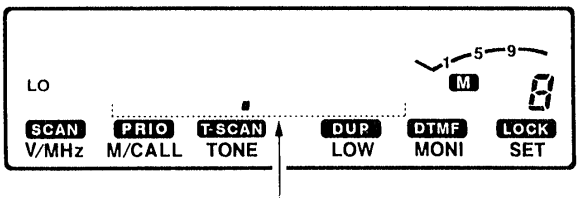


3 S.MWスイッチを1回短く（ピッ）押し、続けて長く（ピ、ピピ）押します。



1回目短く、2回目長く押す

●メモリークリアされたとき



ブランクになる

●この操作のとき、1回目と2回目の間隔をあけずに、すばやく操作してください。間隔をあけると無効になります。

CALL-CH「1」「2」およびスキャン用「1A」、「1b」はクリアできません。

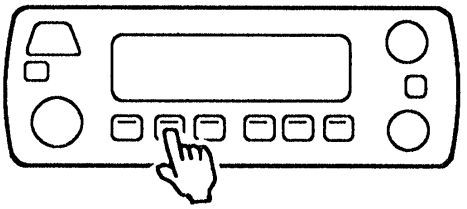
5-8 コールチャンネルの使いかた

CALL-CH（コールチャンネル）は、各バンドで決められた呼び出し周波数（非常通信周波数）のことで、メインチャンネルとも呼ばれています。

●本機のCALL-CHは2つあり、「C1」と「C2」で表示します。
初期設定の周波数は、「C1」が145.000MHz、「C2」が433.000MHzになっていますが、他のM-CHと同様に自由に周波数の書き替えができます。

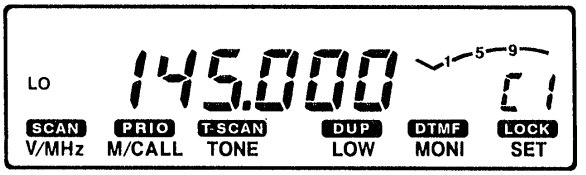
1. CALL-CHを呼び出すには

1 M/CALLスイッチを押します。

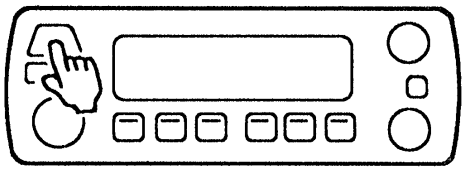


●1回押して、メモリーモードになったときは、もう1回押します。

●CALL-CH「1」の表示

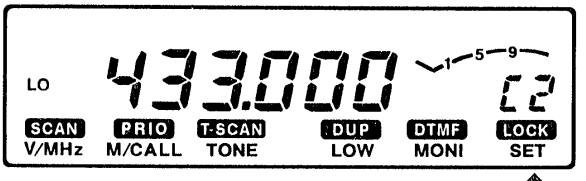


2 BANDスイッチを押します。

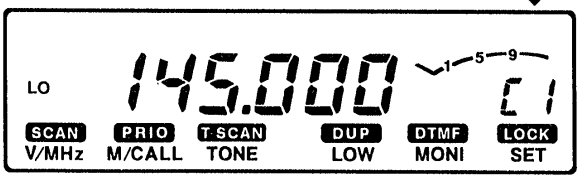


●CALL-CH「1」と「2」を切り替えます。

●CALL-CH「2」の表示



BANDスイッチ



2. M-CHとして使用するには

●CALL-CHに他の周波数を書き込むときは、5-3項(☞P26)をご覧ください。(M-CH選択のとき、「C1」または「C2」を選択します。)

●CALL-CHの周波数を他のM-CHまたはVFOに転送するときは、CALL-CHを呼び出したあと、5-4項(☞P27)および5-5項(☞P28)を同様に操作してください。

※「C1」「C2」の両方を同じバンドの周波数に書き替えて使用することもできます。

※CALL-CHは、次ページのログメモリーの呼び出しにも使用します。

5-9 ログ（LOG）メモリーの使いかた

ログメモリー機能は、運用（送信）した周波数を、自動的に記憶する機能です。
記憶したログメモリーを、いつでも呼び出して運用することができます。

- 各バンドごとにシンプレックス用5CH（L1～L5）、デュプレックス用5CH(r1～r5）があり、送信するごとに順次書き込みします。
- 5CHすべて書き込みすると、古い周波数から消去し、新しい周波数を書き込みます。
  なお、ログメモリーに記憶された周波数と、送信周波数が同じときは、記憶した周波数を消去し、送信した周波数があらたに（L1またはr1CH）書き込まれます。

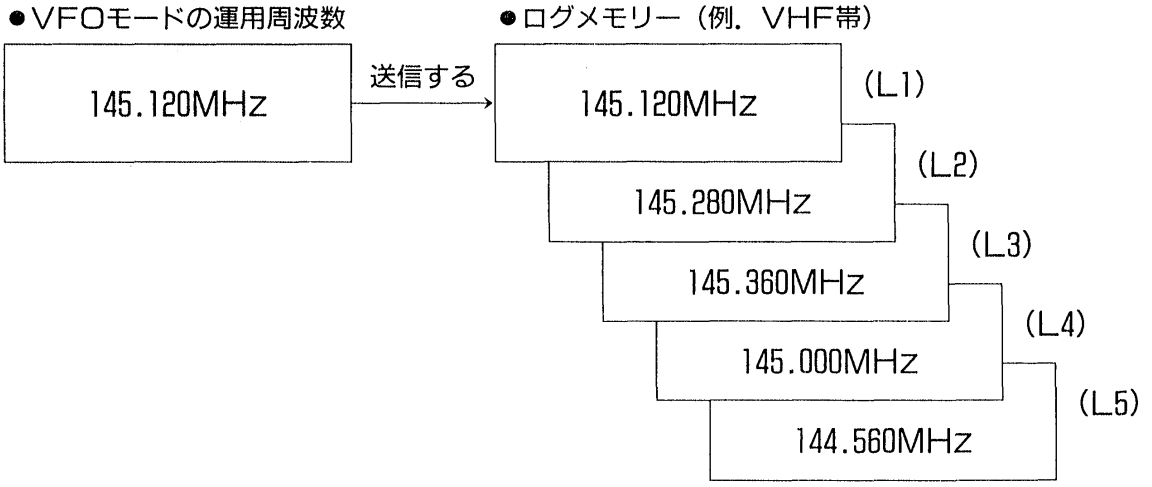
ご注意
初期設定(出荷時の状態)では、ログメモリーチャンネルを呼び出すことはできません。ログメモリーは、VFOモードで送信操作を行うことにより書き込まれ、呼び出すことができます。

1．ログメモリーチャンネルへの書き込みかた

VFOモードで運用周波数を設定し、送信操作を行うことにより、自動的に書き込まれます。

(1)VFOモードで運用周波数を設定します。(M-CHで送信しても動作しません。)
(2)マイクのPTTスイッチを押して、送信操作を行います。
シンプレックスで送信したときは、L1に書き込み、以後順送りします。
デュプレックスで送信したときは、r1に書き込み、以後順送りします。

例．ログメモリーの動作

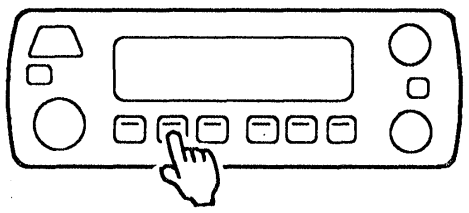


- ログメモリーは、通常のM-CHと同様に、トーンおよびレピータの運用情報も記憶します。
- デュプレックスで送信したときは、オフセット周波数も記憶しますので、送・受信周波数を同時に記憶することになります。
- ログメモリーのL2（r2）～L5（r5）を呼び出して送信すると、その内容はL1（r1）に再記憶されます。

5 メモリー／コールチャンネルについて

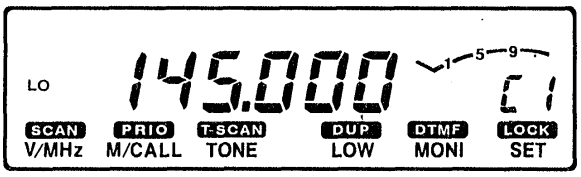
2. ログメモリーの呼び出しかた

1 M/CALLスイッチを押し、CALL-CH「1」または「2」にします。

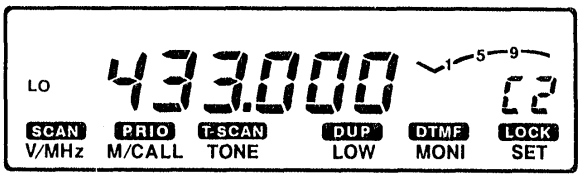


●CALL-「1」「2」の選択は、BANDスイッチで行います。

●VHF帯CALL-CH（初期時）

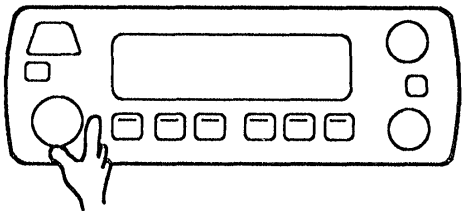


●UHF帯CALL-CH（初期時）



VHF帯で送信した周波数は、VHF帯のログメモリーに記憶されていますから、呼び出すときは、VHF帯のCALL-CHを選択します。
また、UHF帯ならUHF帯のCALL-CHを選択してください。

2 ダイヤルツマミを回します。

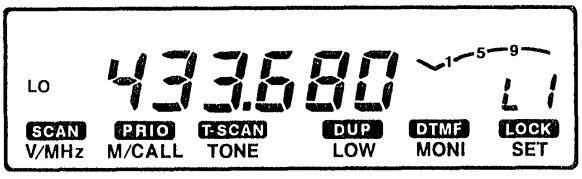


●左に回すとシンプレックス用の、L1～L5を呼び出します。

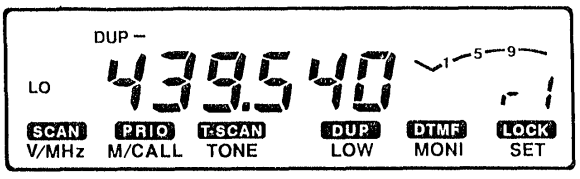
●右に回すとデュプレックス用の、r1～r5を呼び出します。

ログメモリー表示例（UHF帯）

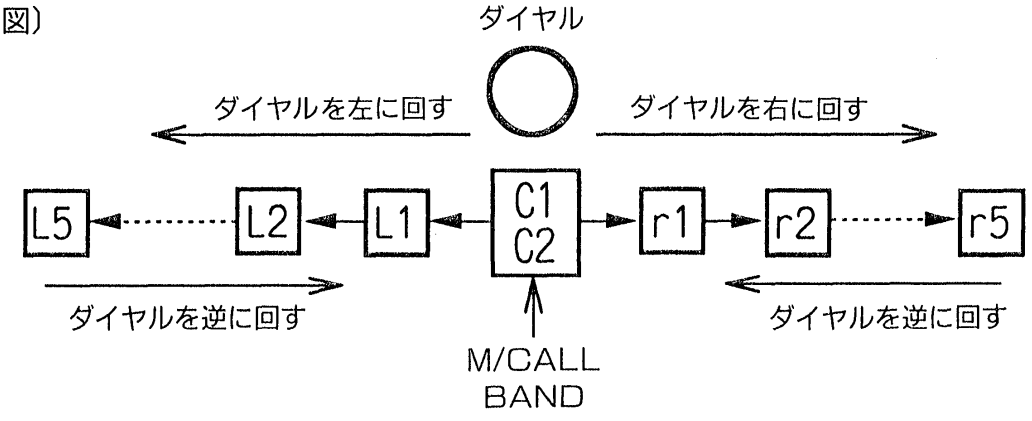
●L1CHの表示（シンプレックス）



●r1CHの表示（デュプレックス）



〔操作図〕



6−1 スキャンについて

スキャンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

スキャン名称	機能	動作
フルスキャン (☞P35)	バンドのエッジ(上限↔下限)間をスキャンします。 VHF帯とUHF帯で別々にできます。	①スキャンスタート後信号を受信すると、一時停止します。 ②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。 ※このスキャンの再スタート条件はSETモードで変更することができます。 (☞P49)
プログラムスキャン (☞P36)	あらかじめ指定した周波数範囲をスキャンします。 5組までの周波数範囲の指定ができ、バンド間でのスキャンもできます。	
メモリー(スキップ)スキャン (☞P38)	周波数の記憶されているすべてのM-CHをスキャンします。 M-CHにスキップ指定(☞P39)を行うと、スキップスキャンになります。	
プライオリティスキャン (☞P40)	VFOモードの周波数を受信しながら一定間隔で、他の周波数(メモリーチャンネルまたはコールチャンネル)を受信します。	①VFOモードの周波数を約5秒間受信し、他の周波数を瞬間受信します。 ②再スタートの条件は、上記通常スキャンと同じです。
トーンスキャン (☞P42)	特定の周波数で使われているトーン周波数を探し出し、記憶するスキャンです。 レピータトーンとトーンスケルチ用の2種類のトーンスキャンができます。	①トーン周波数が一致すると、スキャンは一時停止します。受信信号が続くかぎり停止し、信号がとぎれると約2秒後に再スタートします。

6−2 スキャン操作をする前に

①スキャン操作をする前に、必ずスケルチを調整(☞P21)してください。
②プログラムスキャン時のステップ幅は、あらかじめ設定されたステップ幅(☞P20)でスキャンします。
③スキャン中にダイヤルツマミを回して、スキャン方向を切り替えることができます。また、スキャンが一時停止しているときに、ダイヤルツマミを回すと、回した方向にスキャンが再スタートします。
④スキャンを解除するときは、V/MHz (SCAN)、TONE、LOW、MWなどのスイッチかマイクのUP/DNスイッチを押します。
上記以外のスイッチでも解除できますが、運用モードなどが切り替わることがあります。

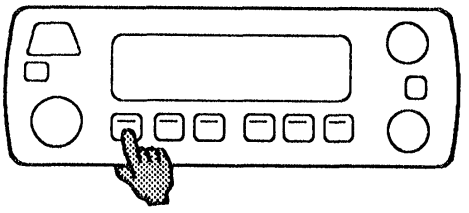
6-3 フルスキャンのしかた

フルスキャンは、バンドの端（はし）から端まで、設定されたチューニングステップでスキャンします。

- VHF帯は、144.000～146.000MHz間をスキャンします。
- UHF帯は、430.000～440.000MHz間をスキャンします。

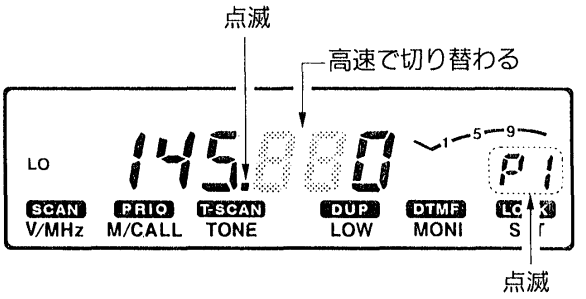
1 VFOモードにしておきます。
※バンドの設定は、V/Uどちらでもかまいません。

2 SCAN（V/MHz）スイッチを約1秒押すと、スキャンがスタートします。



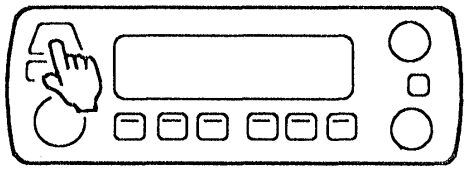
- マイクのUP/DNスイッチを0.5秒以上押しても、スキャンがスタートします。

スキャン動作中の表示



メモリー表示部に、P1～P5およびA1、A4のいずれかが点滅します。

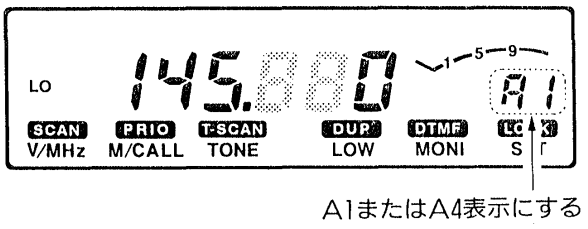
3 BANDスイッチを押し、メモリー部の点滅表示を、“A1”または“A4”にします。



- 1回押すごとに、“P1～P5”“A1”“A4”が切り替わります。

※初期時は、“P2～P5”はなにも記憶していないので選択できません。

- BANDスイッチで選択する



“A1”は、144MHz帯のフルスキャン
“A4”は、430MHz帯のフルスキャン
“P1～P5”は、プログラムスキャン用
※“P1”は初期時144/430MHz両バンドのフルスキャンができます。(☞P37参照)

◎スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。

- 通常は、信号がとぎれると約2秒後、信号が続いていると約15秒後に再スタートします。再スタートの条件は、SETモードのスキャンストップタイム(☞P49)で変更できます。

◎スキャンの解除（止める）操作は、6-2項④(☞P34)をご覧ください。

6−4 プログラムスキャンのしかた

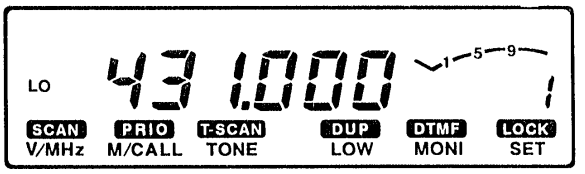
プログラムスキャンは、あらかじめ指定した周波数範囲だけをスキャンします。

- 周波数範囲は、1A/1bから5A/5bCHに5組設定できます。
- 同一バンドだけのスキャンおよび両バンドにまたがるスキャンが設定できます。
- 初期時は、“1A”に144.000MHz、“1b”に440.000MHzが設定されていますので、スキャン範囲の“P1”を選択する(☞P35、3の操作)と、両バンドのフルスキャンになります。

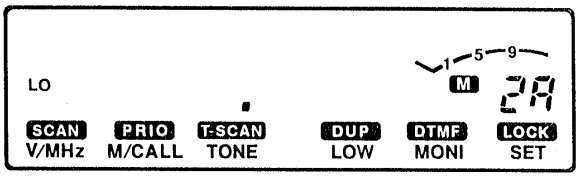
1．周波数範囲の設定のしかた

例．2Aに431.000、2bに434.900MHzを設定する （メモリーのしかた☞P26参照）

1 VFOモードにして、431.000MHzを設定します。

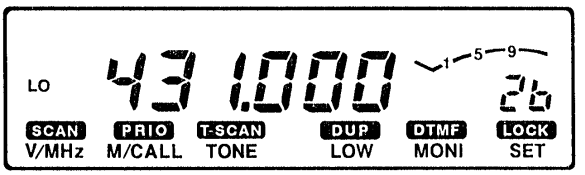


2 S.MWスイッチを押し（M-CHが点滅）たのち、“2A”をセットします。



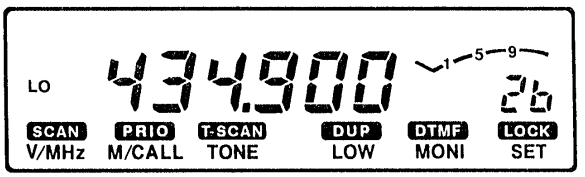
3 S.MWスイッチを“ピ、ピピ、ピー”が鳴るまで押し続けます。

- “2A”に431.000MHzが書き込まれ、“2b”が表示されます。



4 434.900MHzを設定し、S.MWスイッチを、“ピ、ピピ”が鳴るまで押します。

- “2b”に434.900MHzが書き込まれます。



◎上記と同様の操作で、3A／3b〜5A／5bにも、周波数範囲の設定ができます。

※1A／1bは初期設定されていますが、書き替えは自由にできます。

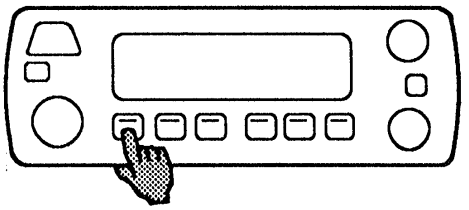
※上限または下限となる周波数は、“A”または“b”のどちらに書き込んでもかまいません。(“A”と“B”の周波数が同じ場合は、スキャンしません。)

- 上記2A/2bに設定した周波数範囲のスキャンは、次ページの操作により、“P2”を選択します。

6 スキャンのしかた

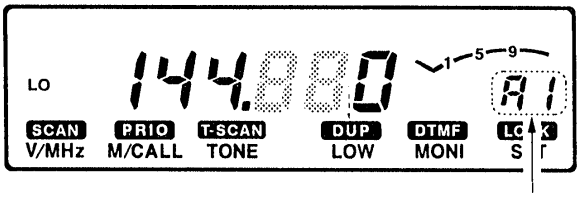
2. プログラムスキャンのスタートと範囲の選択

1 VFOモードにしておきます。
SCAN（V/MHz）スイッチを約1秒押します。



●マイクのUP/DNスイッチを0.5秒以上押してもスタートします。

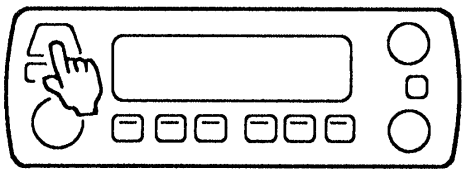
●初期時のスキャン範囲の表示



"A1"で点滅

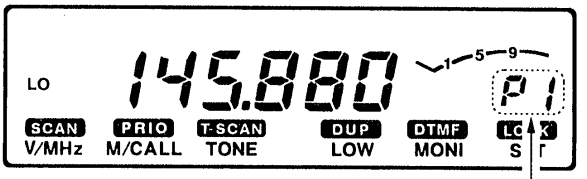
※スキャンがスタートすると同時に、スキャン範囲（M-CH表示部）が点滅します。

2 スキャン動作中に、BANDスイッチを押します。



●1回押すごとに、スキャン範囲が切り替わります。
※BANDスイッチを押したとき、ディスプレイに、スキャンの種類を瞬間（約0.5秒）表示します。

●スキャン範囲の切り替え（例．P1）



表示	スキャンの動作範囲
A1	144MHz帯のフルスキャン
A4	430MHz帯のフルスキャン
P1	1A/1bの周波数範囲
P2	2A/2bの周波数範囲
P3	3A/3bの周波数範囲
P4	4A/4bの周波数範囲
P5	5A/5bの周波数範囲

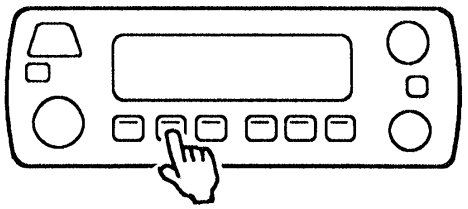
◎スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。
●通常は、信号がとぎれると約2秒後、信号が続いていると約15秒後に再スタートします。
再スタートの条件は、SETモードのスキャンストップタイム（☞P49）で変更できます。
◎スキャンの解除（止める）操作は、6-2項④（☞P34）をご覧ください。

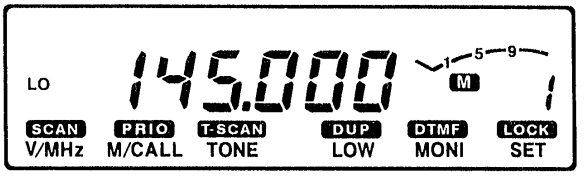
6-5 メモリー（スキップ）スキャンのしかた

周波数が記憶されているM-CHをスキャンします。
スキップ指定を行うと、メモリースキップスキャンとなり、指定のCHはスキャンしないので、効率のよいスキャンとなります。

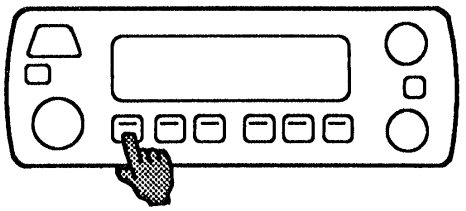
1. メモリー（スキップ）スキャンのスタートと解除

1 M/CALLスイッチを押し、メモリーモードにしておきます。

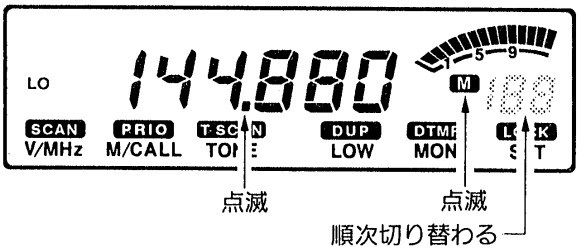




2 SCAN（V/MHz）スイッチを約1秒押します。

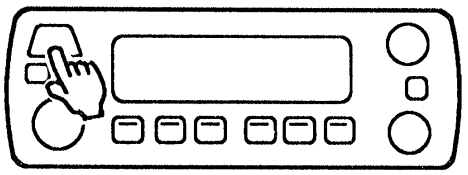


●メモリースキャンの表示例



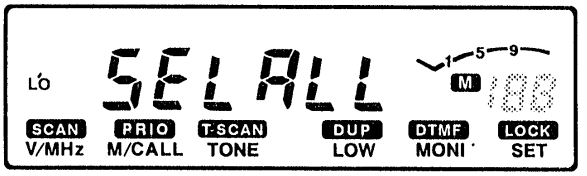
●マイクのUP/DNスイッチを0.5秒以上押してもスタートします。

3 スキャン動作中に、BANDスイッチを押すと、バンド別スキャンができます。



●1回押すごとに、ALL→144→430の切り替えができます。

●BANDスイッチを押したとき（瞬間表示）



SELALL：バンドに関係なくスキャンする
SEL144：144MHz帯のM-CHのみ
SEL430：430MHz帯のM-CH
※バンドごとに2CH以上のCHに書き込みされているとき

◎スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。
●通常は、信号がとぎれると約2秒後、信号が続いていると約15秒後に再スタートします。
再スタートの条件は、SETモードのスキャンストップタイム（☞P49）で変更できます。
◎スキャンの解除（止める）操作は、6-2項④（☞P34）をご覧ください。

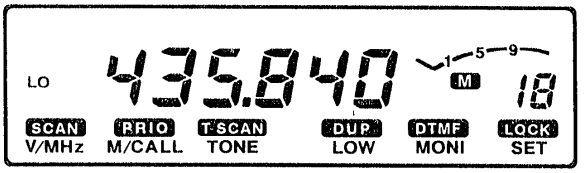
6 スキャンのしかた

2. スキップ指定のしかた

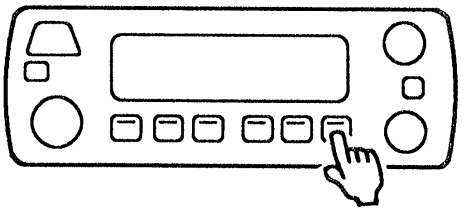
(SETモード☞P49 7 項参照)

1 メモリーモードにして、スキップを指定するM-CHを呼び出します。

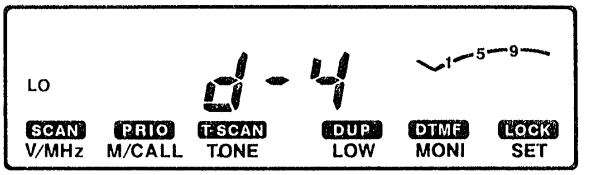
●例. 18CH



2 SETスイッチを押し、SETモードにします。



●SETモード（初期表示）

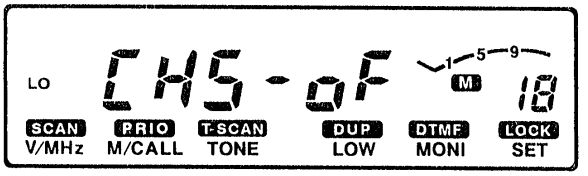


※次回からは、最後にセットした項目の表示になります。

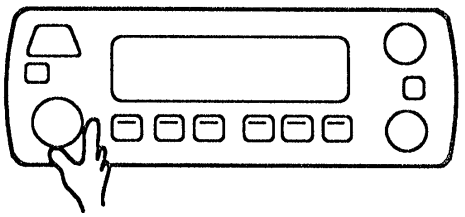
3 SETまたはMONIスイッチを押して、スキップ指定の項目にします。

※VFOモードまたはCALL-CHのときに、SETモードにすると、この項目は表示されません。

●スキップ指定の項目



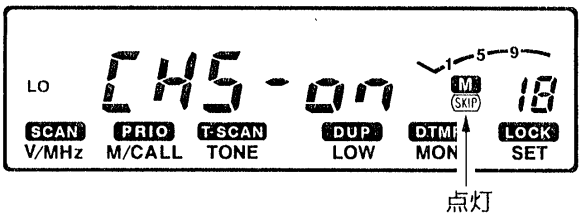
4 ダイヤルツマミを回し、(SKIP)表示を点灯させます。



(SKIP)点灯：スキップ“ON”
(SKIP)消灯：スキップ“OFF”

●マイクのUP/DNスイッチでも指定できます。

●スキップ“ON”の表示



5 SET、MONI以外のスイッチを押すと、周波数表示に戻ります。

●以後、このM-CHはメモリースキャン時にスキップします。

6-6 プライオリティスキャンのしかた

プライオリティスキャンとは、VFO周波数と指定のメモリーチャンネル/コールチャンネルを交互にスキャンします。

種　　類	動　　作
VFOとメモリーチャンネル	VFOモードの周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のメモリーチャンネルを瞬間受信します。
VFOとメモリースキャン	VFOモードの周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、一定間隔でメモリーチャンネルを“1～150”まで順番に受信します。
VFOとコールチャンネル	VFOモードの周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のコールチャンネルを瞬間受信します。

●VFO周波数のバンドと、メモリーチャンネルやコールチャンネルのバンドがちがっていても、プライオリティスキャンは動作します。

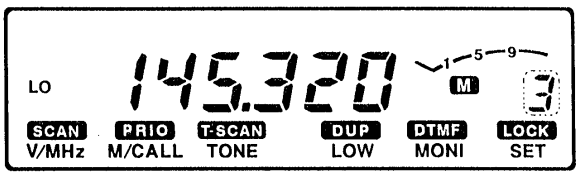
1. プライオリティスキャンの種類を設定する

プライオリティスキャンには、上記の3種類がありますので、スタートする前に次のように運用状態を設定しておく必要があります。

A VFOとM-CHで行うときは

1. VFO周波数を設定し、
2. ワッチするM-CHにしておきます。

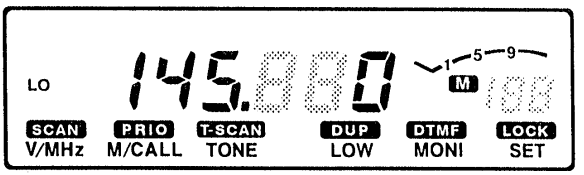
●ワッチするM-CHにしておく(例. 3CH)



B VFOとメモリースキャンで行うときは

1. VFO周波数を設定し、
2. メモリーモードにしたのち、メモリースキャンをスタートさせておきます。

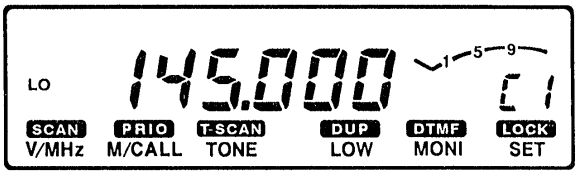
●メモリースキャンをスタートさせる



C VFOとCALL-CHで行うときは

1. VFO周波数を設定し、
2. CALL-CH「1」または「2」にしておきます。

●CALL-CHにしておく

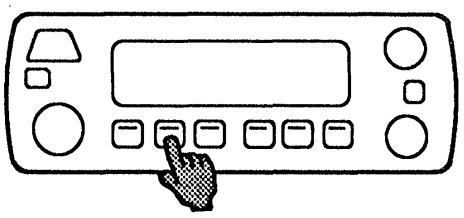


6 スキャンのしかた

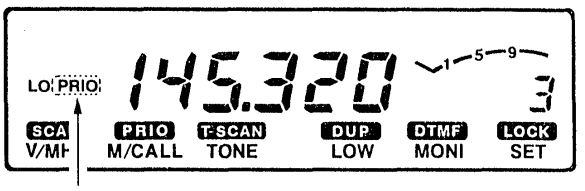
2. プライオリティスキャンのスタートと解除

1 前記(P40)のA～Cの操作にしたがって、プライオリティスキャンの種類を設定しておきます。

2 PRIO（M/CALL）スイッチを約1秒押します。



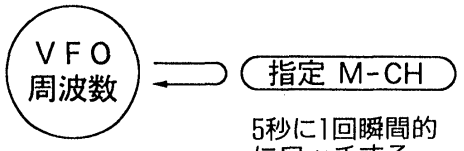
●プライオリティスキャンの表示



点灯

●プライオリティスキャンがスタートします。

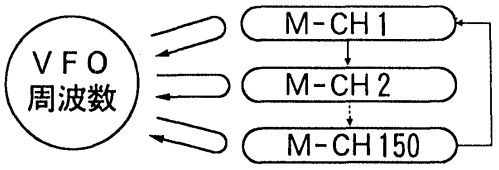
●VFOとメモリーチャンネルの動作



5秒に1回瞬間的にワッチする

5秒ワッチ

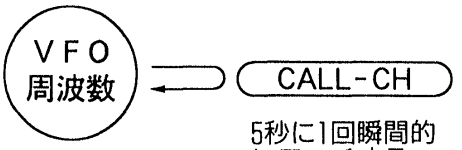
●VFOとメモリースキャンの動作



5秒ワッチ

5秒に1回瞬間的にワッチする

●VFOとコールチャンネルの動作



5秒に1回瞬間的にワッチする

5秒ワッチ

①メモリーチャンネルまたはコールチャンネルで信号を受信したときは、約15秒間一時停止し、その後再スタートします。
再スタートの条件は、SETモード(☞P52)で選択することができます。
②プライオリティスキャン中でも送信操作ができますが、VFOモードの周波数で送信されます。
送信終了時は、VFOモードの周波数からスキャンが再スタートします。
③VFOモードの周波数を表示しているときは、VFOの周波数の変更ができます。

3 プライオリティスキャンの解除は、PRIO（M/CALL）スイッチを短く押してください。

6−7 トーンスキャンのしかた

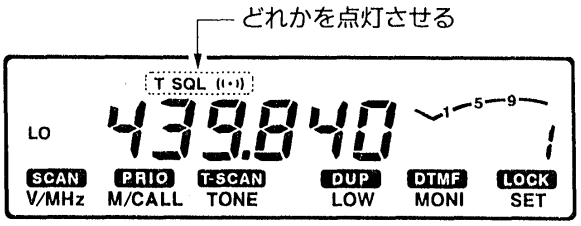
特定の周波数で使われている、トーン周波数を探すことができるスキャンです。
本機のトーンスキャンは、トーンエンコーダー（レピータトーン）のトーンと、トーンスケルチ/ポケットビープ用のトーンを別々にスキャンすることができます。

1 TONEスイッチを押して、トーン運用モードを設定します。(☞P62)

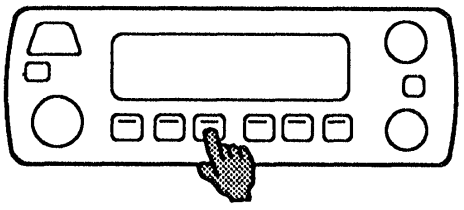
- “T”点灯時はレピータトーンのスキャン
- “T SQL/((・))”点灯時はトーンスケルチ用のトーンスキャン

※レピータ用トーンのスキャンは、トーン運用モードにしなくてもできます。

●トーン運用モード



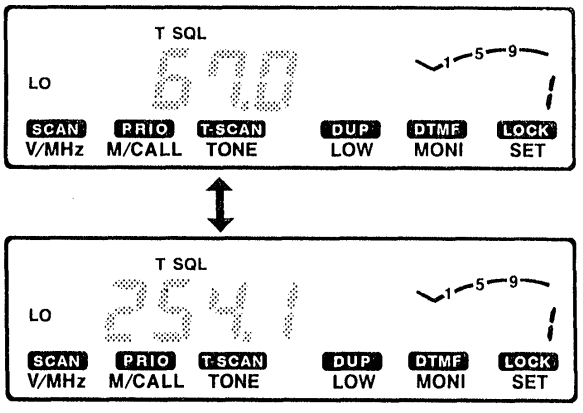
2 T-SCAN（TONE）スイッチを約1秒押します。



- トーンスキャンがスタートします。

※ポケットビープを設定してスキャンしたときは、スタートするとトーンスケルチの表示になります。

●トーン周波数の表示でスキャンする



■トーン信号が一致すると

- スキャン動作中、受信したトーン周波数が一致すると、スキャンは一時停止します。受信信号が続くかぎり停止し、とぎれると約2秒後に再スタートします。
- トーン周波数が一致すると、自動的にそのトーン周波数を記憶します。

〔ご注意〕トーン周波数が一致すると、セットモードのレピータ用トーンまたは、トーンスケルチ用のトーン周波数が、受信したトーンに書き替えられます。
トーンスキャン後、トーンを運用するときは、ご注意ください。
ただし、M-CHまたはCALL-CHでトーンスキャンを行ったときは、一時的に記憶されますが、書き替えはしません。

◎トーンスキャンの解除(停止)操作は、通常スキャンと同じです。(☞P34④項)

7 レピータの運用〔オートレピータ〕

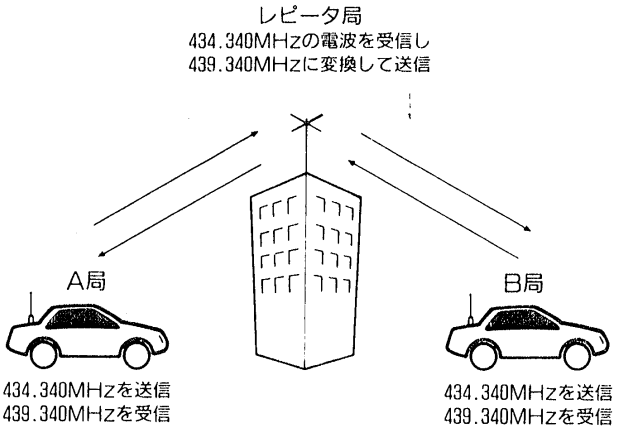
7−1 レピータについて

レピータとは、山や建物などの障害物で、直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局です。
本機は、オートレピータ機能により、下記の周波数を設定すると、レピータ局をアクセス(起動)するために必要なトーンONと、オフセットのDUP-(マイナスシフト)を自動的に設定します。

●UHF帯：439.000〜440.000MHz

レピータの入出力周波数は、地域によって異なりますので、JARL NEWSや各専門誌などでお調べください。
また、調べたレピータ情報をメモリーチャンネルに書き込んでおくと便利です。

●レピータシステム(例)



レピータは、多くの局が使用しますので、できるだけ小電力で手短に交信してください。

ご注意

レピータ周波数を設定すると、初期設定でトーン周波数(88.5Hz)とオフセット周波数(−5MHz)が自動的にセットされますが、下記の操作を行った場合は特にご注意ください。

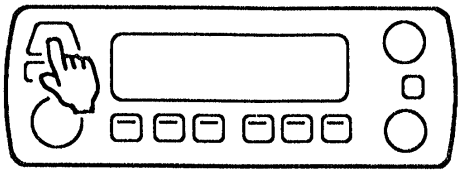
①SETモードでオフセット周波数を変更した場合は、オートレピータ機能のオフセット周波数も同時に変更されてしまいます。(☞P48)

②SETモードでトーン周波数を変更した場合、またはトーンスキャンでトーン周波数を変更した場合は、オートレピータ機能のトーン周波数も同時に変更されてしまいます。(☞P47)

※上記のトーン周波数とは、レピータトーン（トーンエンコーダー）のことです。

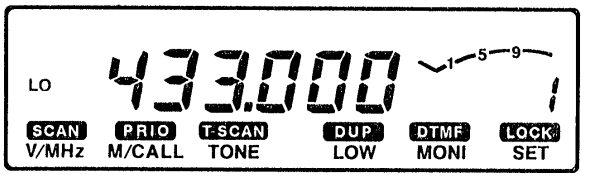
7−2 レピータの使いかた〔UHF帯〕

1 BANDスイッチを押し、UHF帯にします。



※VHF帯にはレピータが設置されていません。

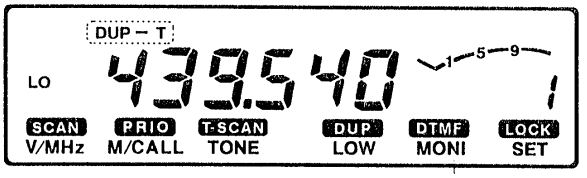
●430MHz帯にする



2 VFOモードにして、レピータ周波数を設定します。

※439.000～440.000MHzの周波数を設定してください。

●例. 439.540MHz

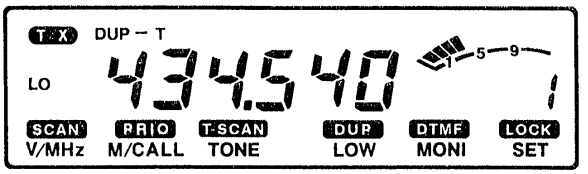


オートレピータ機能により、レピータ運用に必要な“DUP-T”が、自動的にセットされます。

3 マイクのPTTスイッチを約2秒間押し、レピータをアクセス（起動）させます。

※発射した電波がレピータに届いていれば、ID信号（モールス符号または音声）が聞こえます。
タイミングによっては聞こえない場合もありますが、Sメーターの振れにより確認できます。

●送信時の表示



受信周波数に対して、送信周波数は5MHz低くなります。

4 交信を行います。
マイクのPTTスイッチを押すと送信、離すと受信に戻ります。

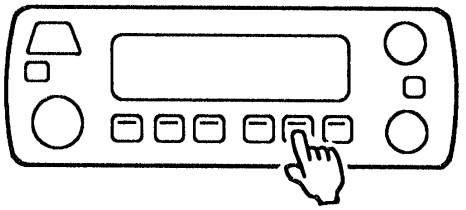
■オートレピータの解除

オートレピータは、イニシャルセットモードにより“OFF”にすることができます。
イニシャルセットモード→P53

■送信モニター機能について

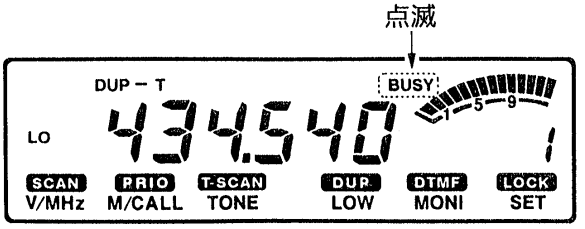
レピータ運用中に、レピータ局を通さずに交信できるかを、次の操作で確認できます。

MONIスイッチを押します。



●送信周波数表示に戻り、その周波数を受信することができます。

●送信モニター表示例



送信周波数で受信ができます。
受信ができれば、レピータを通さずに交信ができることになります。

8 SETモード

8－1 SETモードの設定項目

SETモードとは、いったん設定してしまえば、普段はあまり設定しなおすことのない運用条件を変更するモードのことをいいます。

SETモードで変更できる運用条件は、おもにレピータの情報、スキャン再スタートの条件、およびチューニングステップの選択などがあり、VHF/UHF帯で、個別に設定することができます。

項目の表示(初期設定値)	設定項目の内容
d-4	ディマーの設定 ●ディスプレイの照明の明るさを切り替える
T 88.5 rt	トーン周波数の設定 ●レピータ用トーンを50波の中から選択する
T SQL 88.5 Ct	トーン周波数の設定 ●トーンスケルチ/ポケットビープ用のトーンを50波の中から選択する
DUP 5.000 (VHF帯は 0.000)	オフセット周波数の設定 ●レピータおよびデュプレックスモード時のオフセット周波数を設定する
tS-20	チューニングステップの設定（注1） ●周波数設定時やスキャン時のチューニングステップを選択する
SCt-15	スキャンストップタイムの設定 ●スキャン一時停止後の再スタート条件を選択する
CHS-oF M 1	スキップチャンネルの指定（注2） ●メモリースキャン時に、スキップするチャンネルを指定する

〔注1〕SETモードに入るとき、VFOモードにしてください。

〔注2〕SETモードに入るとき、メモリーモードにしてください。

●〔注1〕〔注2〕以外の項目は、VFO/メモリーモードに関係ありません。

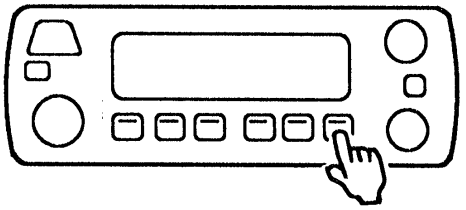
◎設定項目は、VHF帯とUHF帯で、別々の内容が設定できます。
ただし、ディマーの設定およびスキップチャンネルの設定は、両バンド共通です。

8-2 SETモードの操作のしかた

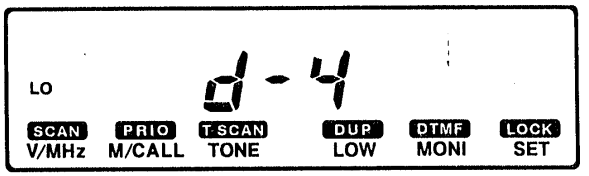
SETモードに入るときは、V/UHFバンド、VFO/メモリーモードを確認してください。

1 「SETモードにする」

SETスイッチを押します。



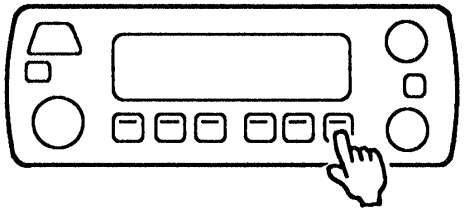
●SETモードの表示（初期時）



※次回からは、最後にセットした内容が表示される

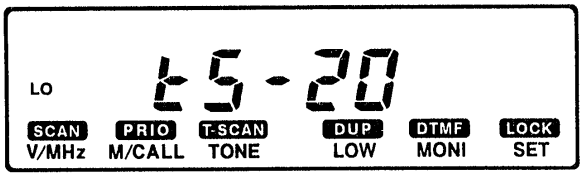
2 「設定内容を選択する」

SETスイッチを押します。



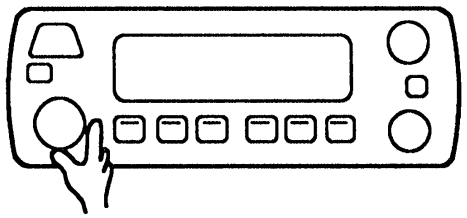
●MONIスイッチを押すと、設定項目が逆に進みます。

●項目表示（例．チューニングステップ）

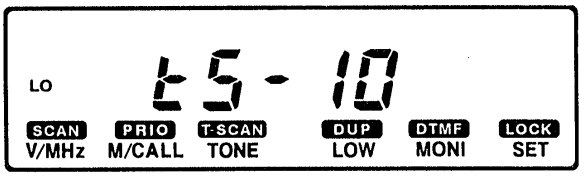


3 「設定項目を切り替える」

ダイヤルツマミを回します。



●設定内容の選択例

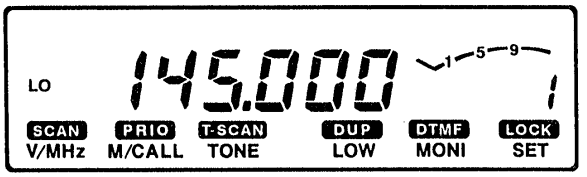


4 「SETモードを解除する」

SET、MONI以外のスイッチを押します。

●SETモードに入る前の状態に戻ります。

●通常表示に戻る



◎SETモード中、何も操作しない状態が約30秒続くと、SETモードは解除され、通常表示に戻ります。

8-3 SETモードの項目別詳細

運用条件の設定（設定内容の選択）は、ダイヤルツマミで行います。

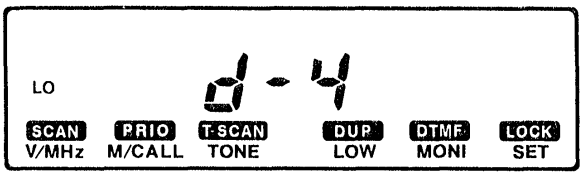
●ディスプレイ表示例の上側はダイヤルツマミを右に回したとき、下側は左に回したときを示しています。

1 ディマーの設定

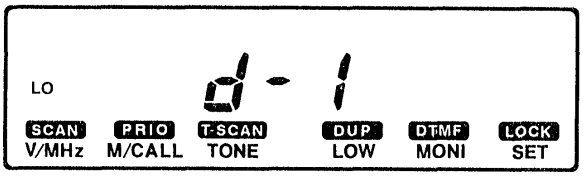
ディスプレイバックライト（照明）の明るさを切り替えることができます。

●ダイヤルツマミを回すと、4段階で変化します。
いちばん見やすいところに切り替えてください。

●明るくする



●暗くする



↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

2 トーン（レピータトーン）周波数の設定

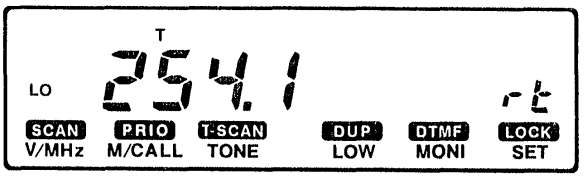
レピータ運用時のトーン周波数を設定することができます。

●ダイヤルツマミを回すと、下表の50波の中から選択できます。

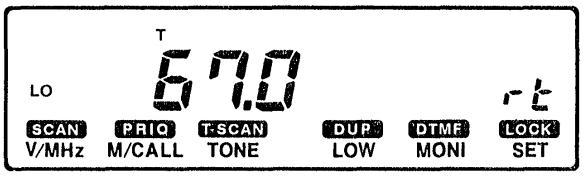
トーン周波数表　（単位 Hz）

67.0	94.8	131.8	171.3	203.5
69.3	97.4	136.5	173.8	206.5
71.9	100.0	141.3	177.3	210.7
74.4	103.5	146.2	179.9	218.1
77.0	107.2	151.4	183.5	225.7
79.7	110.9	156.7	186.2	229.1
82.5	114.8	159.8	189.9	233.6
85.4	118.8	162.2	192.8	241.8
88.5	123.0	165.5	196.6	250.3
91.5	127.3	167.9	199.5	254.1

●トーン周波数がアップする



●トーン周波数がダウンする

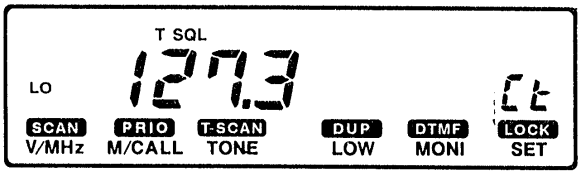


↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

3 トーン（トーンスケルチ用）周波数の設定

トーンスケルチ/ポケットビープ用のトーンを設定することができます。
※レピータトーンとは別に設定できます。
● 設定操作および周波数表は、前記レピータトーンと同じです。

● トーンスケルチ用トーン設定時の表示

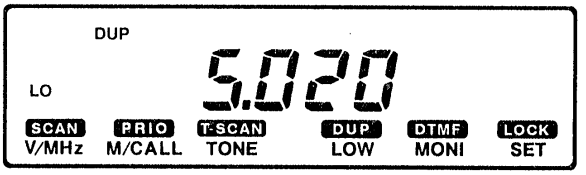


↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

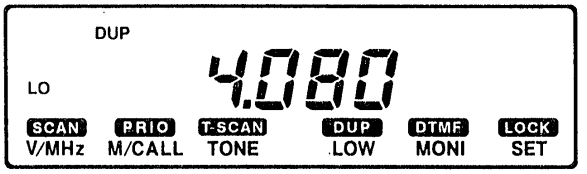
4 オフセット周波数の設定

レピータやデュプレックス運用時の送信周波数と、受信周波数の差をオフセット周波数と呼び、これを設定することができます。
● ダイヤルツマミを回すと、0～20MHzの間で、オフセット周波数が設定できます。
※設定されているチューニングステップで変化しますが、1MHzステップ(☞P20)の可変もできます。

● オフセット周波数がアップする



● オフセット周波数がダウンする

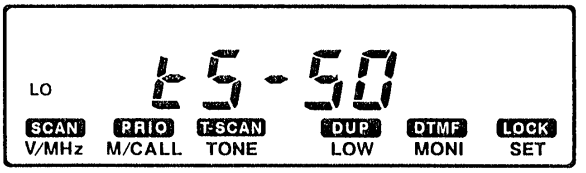


↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

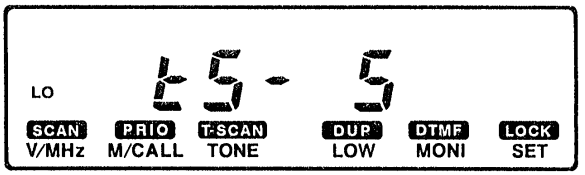
5 チューニングステップの設定

周波数を設定したり、スキャンするときの周波数可変幅を設定することができます。
● ダイヤルツマミを回すと、
“5/10/12.5/15/20/25/30/50 kHz” のステップの中から選択できます。
※この項目は、VFOモードのときにSETモードにしなければ表示されません。

● ステップ幅がアップする



● ステップ幅がダウンする



↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

8 SETモード

6 スキャンストップタイムの設定

スキャン動作中に信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を選択することができます。

●ダイヤルツマミを回すと、下表のように再スタートの条件を切り替えることができます。

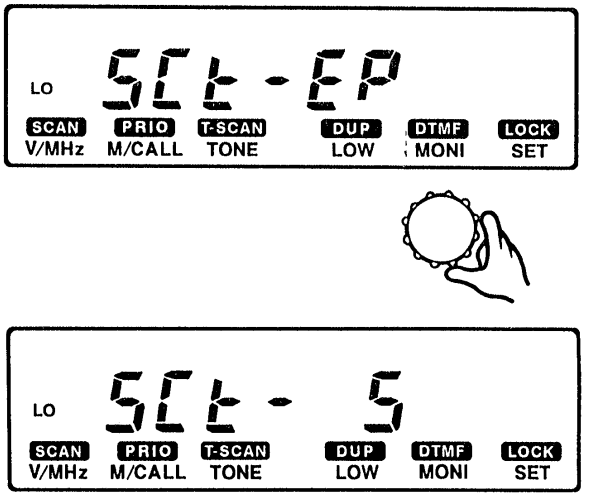


表　示	動　作　内　容
SCt- 5	一時停止してから約5秒後に再スタートします。
SCt-10	一時停止してから約10秒後に再スタートします。
SCt-15	一時停止してから約15秒後に再スタートします。
SCP- 2	信号が続くかぎり一時停止し、信号が途切れると約2秒後に再スタートします。
SCt-EP	信号の出ていない周波数で一時停止し、信号を受信すると再スタートします。

↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

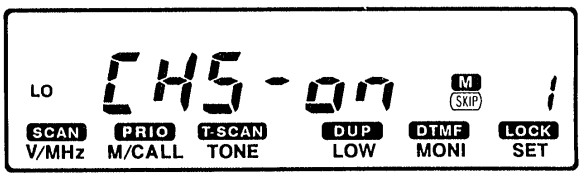
7 スキップチャンネルの指定

メモリースキャン時に、スキャンしなくてもよいメモリーチャンネルを指定できます。

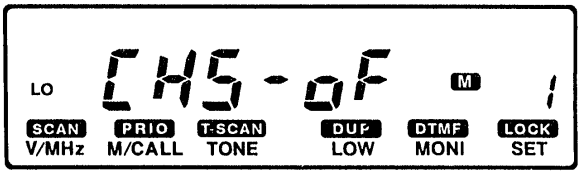
●ダイヤルツマミを回して、スキップ表示を点灯させるときは“CHS-on”、消灯させるときは“CHS-oF”を選択します。
(SKIP)表示を点灯させると、スキップチャンネルになります。

※この項目は、メモリーモードのときにSETモードにしなければ表示されません。

●スキップCHにする



●スキップを解除する



↓SETスイッチ　　※SET、MONI以外のスイッチを押すと、SETモードの解除
項目1に戻る

9－1　イニシャルセットモードの設定項目

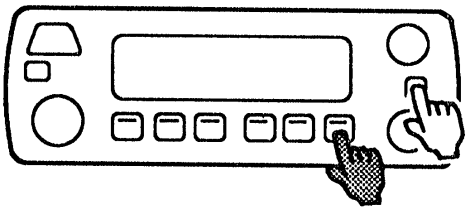
イニシャルセットモードとは、各バンド共通の運用条件を変更するモードのことをいいます。
イニシャルセットモードで変更できる運用条件は、タイマー機能、ビープ音、オートレピータ機能などの設定ができます。

設定項目名	項目の表示(初期設定値)	設定内容
ビープ音の設定	bEP-on	ビープ音の“ON/OFF”を選択する
タイムアウトタイマーの設定	tot-oF	タイムアウトタイマーの設定時間を選択する
オートレピータ機能の設定	DUP T rPt-on	オートレピータ機能の“ON/OFF”を選択する
オートパワーオフ機能の設定	PoF-oF	オートパワーオフ機能の“ON/OFF”を選択する(IC-207Dのみ)
ファン制御の設定	FAn-At	空冷ファンの動作“オート/連続使用”を選択する
パケット用変調方式の設定	bPS-12	パケット通信時の変調方式“1200bps/9600bps”を選択する
スケルチディレイ制御の設定	SQt-L	スケルチディレイ処理の“Long/Short”を選択し、遅延時間を変更する
DTMFコード送出の送出スピードの設定	dtd-1	DTMFコードの送出スピードを選択する
ワイヤレスマイクのアドレス設定	Adr-1	オプションのワイヤレスマイク(HM-90)使用時のアドレスを選択する

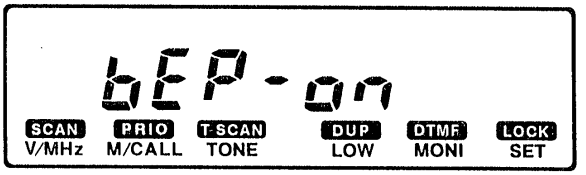
9-2 イニシャルセットモードの操作のしかた

1 PWR（電源）スイッチを押し、いったん電源を切ります。

2 **「イニシャルセットモードにする」**
SETスイッチを押しながら、PWRスイッチを押して電源を入れます。

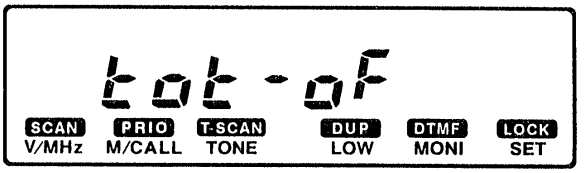


●イニシャルセットモードの表示



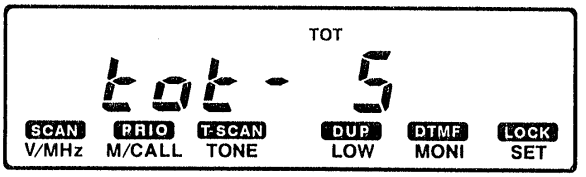
3 以下、前記SETモードと同様に、
「設定項目を切り替える」
SETスイッチを押します。
●MONIスイッチで項目が逆に進みます。

●設定項目を切り替える

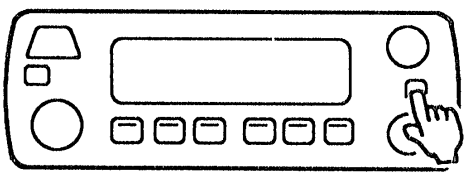


4 **「設定内容を選選択する」**
ダイヤルツマミを回します。

●設定内容を選択する

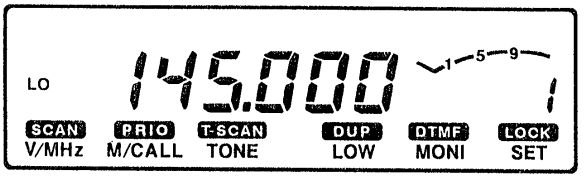


5 **「解除するときは」**
PWRスイッチを短く押します。（短く押すと電源は切れない）



●イニシャルセットモードを解除し、運用状態の表示になります。

●運用状態に戻る



◎PWRスイッチを押して電源が切れてしまっても、設定内容は保持されていますから、もう一度電源を入れてください。
運用状態の表示になります。

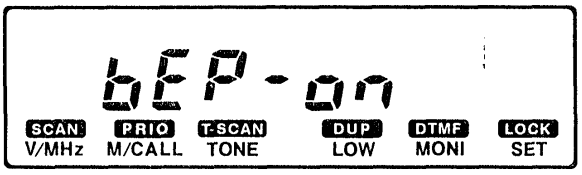
9-3 イニシャルセットモードの項目別詳細

1 ビープ音の設定

スイッチを操作したときに鳴るビープ音を“ON/OFF”できます。

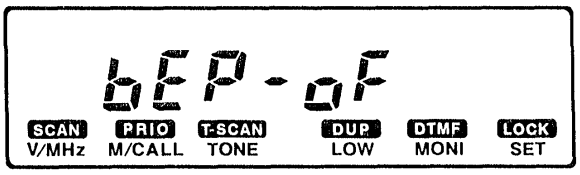
- ダイヤルツマミを回して、“ON”または“OFF”を選択します。
  “OFF”を選択すると、ビープ音は鳴りません。
- 電源ON時のビープ、ポケットビープ、オートパワーオフ時のビープは、この設定に関係ありません。

●ビープ音が鳴る



↕ ダイヤルツマミ

●ビープ音が鳴らない



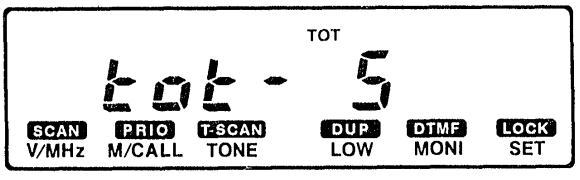
↓SETスイッチ ↑MONIスイッチ

2 タイムアウトタイマーの設定

PTTスイッチで連続送信中に設定時間がきたら、強制的に送信動作を停止する時間を選択することができます。

- ダイヤルツマミを回すと、下表のように、タイムアウトタイマーの設定時間を切り替えることができます。

●送信時間を5分に制限する



↕ ダイヤルツマミ

●送信時間の制限なし

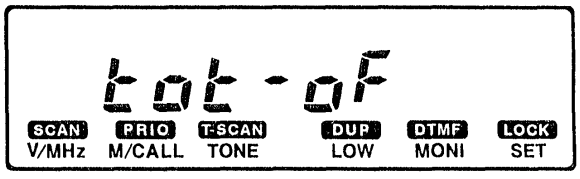


表　示	動　作　状　態
tot-oF	タイムアウトタイマー機能を“OFF”にします。
tot- 3 (TOT)	3分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot- 5 (TOT)	5分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot- 15 (TOT)	15分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot-30 (TOT)	30分間のタイムアウトタイマーが設定されます。

↓SETスイッチ ↑MONIスイッチ

9 イニシャルセットモード

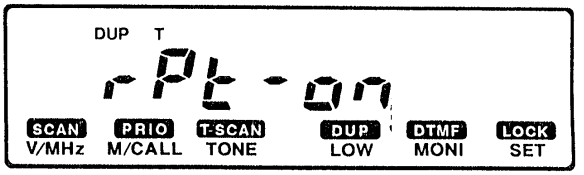
3 オートレピータ機能の設定

自動的にレピータ運用モードにするオートレピータ機能をON/OFFすることができます。

- ダイヤルツマミを回すと、ON/OFFの選択ができます。
  “OFF”を選択すると、オートレピータ機能が動作しなくなります。

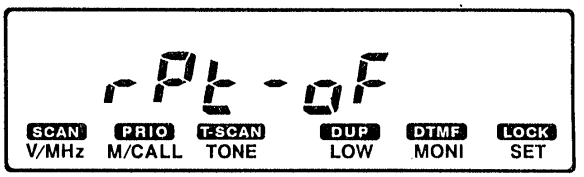
◎オートレピータの周波数範囲
UHF帯：439.000～440.000MHz

●オートレピータ“ON”



↕ ダイヤルツマミ

●オートレピータ“OFF”



※オートレピータ機能は、トーンONとオフセットのDUP－（マイナスシフト）が自動的にセットされます。（SETモードで設定された内容がセットされます。）
なお、初期設定でトーン周波数（88.5Hz）、オフセット周波数（－5MHz）が設定されています。

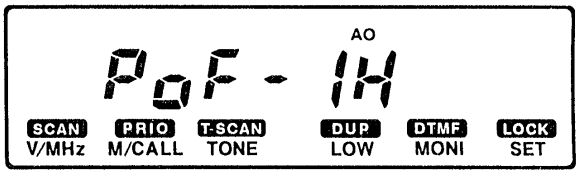
↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

4 オートパワーオフ機能の設定

電源の切りわすれを防止する機能です。
運用が完了し、何も操作しない状態が、設定した時間になると、ビープ音が5回鳴り、電源を“OFF”にする機能です。

- ダイヤルツマミを回すと、下記の表のように、設定時間を切り替えることができます。

●1時間後電源がOFFになる



↕ ダイヤルツマミ

●電源OFFにしないとき

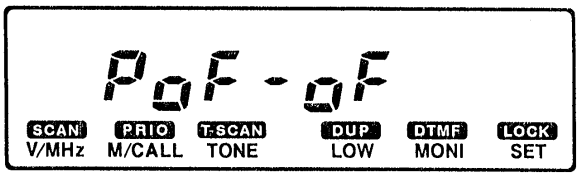


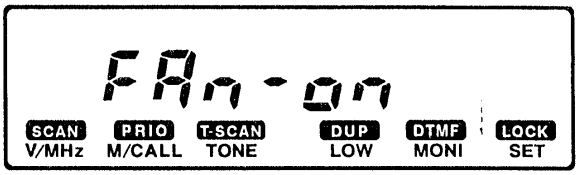
表　示	動　作　状　態
PoF-oF	オートパワーオフ機能を“OFF”にします。
PoF-30 (AO)	30分後にオートパワーオフ機能が動作します。
PoF-1H (AO)	1時間後にオートパワーオフ機能が動作します。
PoF-2H (AO)	2時間後にオートパワーオフ機能が動作します。

↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

5 ファン制御の設定

空冷ファンの動作を“AUTO（オート）または連続”にするかを設定することができます。
●ダイヤルツマミを回すと、下記の表のように、ファン動作を切り替えることができます。
※IC-207Dのみ

●電源ON中は連続動作する



↕ ダイヤルツマミ

●送信時だけ動作する

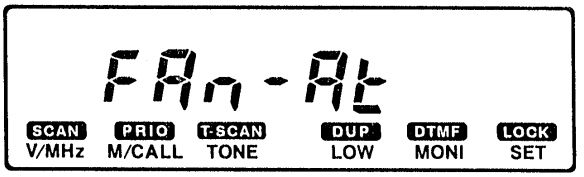


表　示	動　作　状　態
FAn-Ak	送信するとファンが動作し、約2分後自動的に停止します。
FAn-on	連続動作となります。

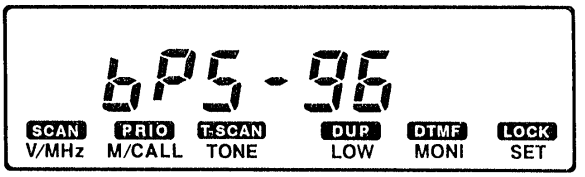
↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

6 パケット用変調方式の設定

パケット通信の変調方式（通常/高速）を切り替えることができます。
●ダイヤルツマミを回すと、“1200/9600bps”の選択ができます。

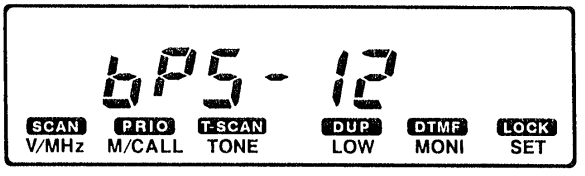
※1200bpsと9600bpsでは、下記のように動作が異なりますので、ご注意ください。

●9600bps選択時



↕ ダイヤルツマミ

●1200bps選択時



◎1200bps選択時
パケット信号送出中に、マイクのPTTスイッチを“ON”にした場合、パケット信号とマイクからの音声信号が同時に送信されます。また、マイクから送信中に、パケット信号の送出要求があった場合も、音声信号とパケット信号が同時に送信されます。
◎9600bps選択時
パケット信号送出中に、マイクから送信した場合、またはマイクから送信中に、パケット信号の送出要求があった場合のいずれのときも、パケット信号は送出を止め、音声信号を続けて送信します。

↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

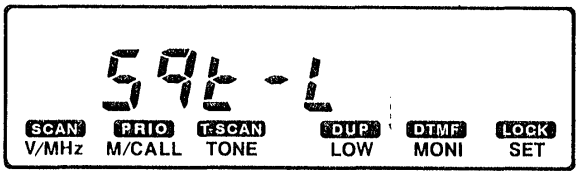
9 イニシャルセットモード

7 スケルチディレイ制御の設定

受信時のスケルチディレイの制御（遅延）時間を選択することができます。

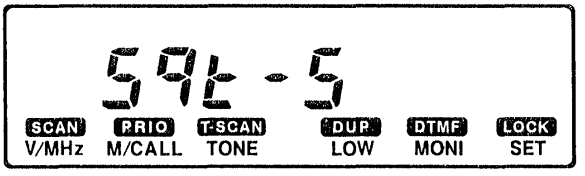
- ダイヤルツマミを回すと、“Long/Short”の選択ができます。
- スケルチディレイは、受信信号の強さ（Sメータレベル）に応じて、下記のように遅延時間を設定しています。

●スケルチディレイ “Long”



ダイヤルツマミ

●スケルチディレイ “Short”



Sメータレベル	スケルチディレイ “Long”	スケルチディレイ “Short”
S0～S2	200msec	40msec
S3～S5	50msec	10msec
S6～S7	0msec	0msec

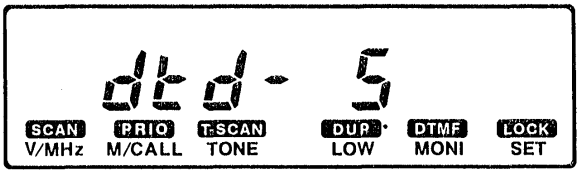
↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

8 DTMFコードの送出スピードの設定

DTMFメモリーの送出スピードを選択できます。

- ダイヤルツマミを回すと、“dtd-1”から“dtd-5”方向に表示が変化するとともに、送出スピードが遅くなります。

●送出スピードが遅くなる



ダイヤルツマミ

●送出スピードが速くなる

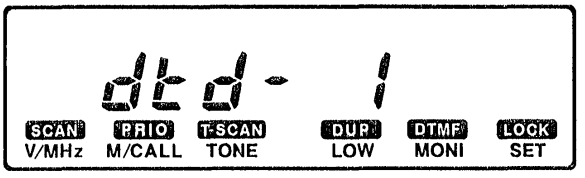


表　示	動　作　状　態
dtd- 1	約100msec間隔で送出する
dtd- 2	約200msec間隔で送出する
dtd- 3	約300msec間隔で送出する
dtd- 5	約500msec間隔で送出する

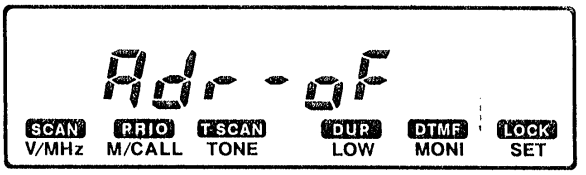
↓SETスイッチ　↑MONIスイッチ

9 ワイヤレスマイクのアドレス設定（オプション）

オプションのワイヤレスマイクHM-90を使用するときに必要なアドレス設定です。
本機とワイヤレスマイクに同一のアドレスを設定することにより、マイクからリモコン操作ができます。

- ダイヤルツマミを右に回すと、下表のようにアドレスが切り替わります。

- ワイヤレスの信号を受け付けない



ダイヤルツマミ

- アドレスを“0”に設定

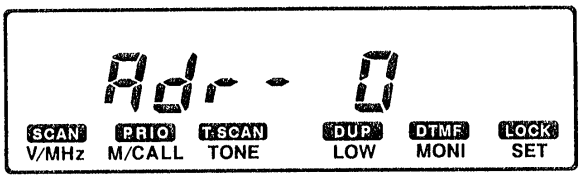


表　　示	動　　作　　状　　態
Adr-0 ～ Adr-7	アドレス“0”から“7”が設定されます。
Adr-oF	すべてのアドレスを無効とし、ワイヤレスマイクからのコントロールを禁止します。

アドレスの0～7を設定した場合は、必らずワイヤレスマイクも同じアドレスに設定して下さい。
アドレスがちがっていると、マイクからのリモートコントロールは動作しません。

↓SETスイッチ
項目[1]に戻る

※イニシャルセットモードを解除するときは、PWR（電源）スイッチを短く押します。

10 各種の通信機能と使いかた

10−1 デュプレックスの運用

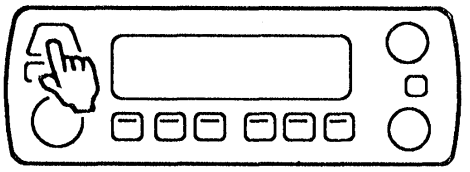
デュプレックスとは、同一バンドの中で送信と受信を違った周波数で運用することをいいます。送受信周波数の差は、SETモードのオフセットで設定します。

- DUP−（マイナス）にすると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数だけ低くなります。
- DUP（プラス）にすると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数だけ高くなります。

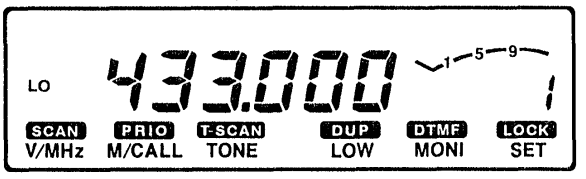
なお、オフセット周波数はSETモードで設定します。（☞P48）

■デュプレックスの運用のしかた〔UHF帯で運用する場合〕

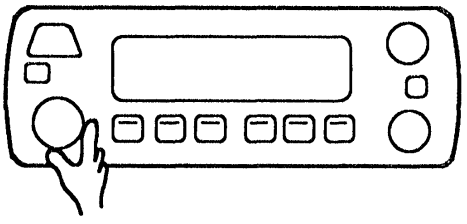
1 BANDスイッチを押し、UHF帯にします。



●UHF帯

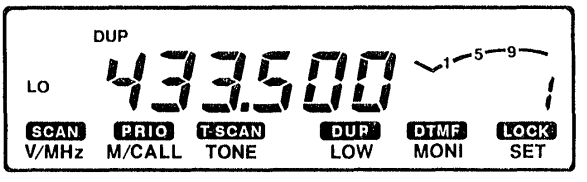


2 受信周波数を設定します。

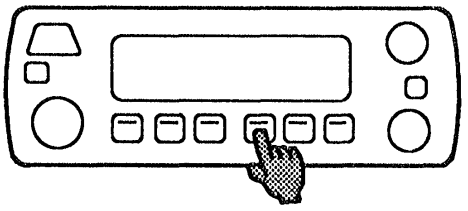


周波数の設定のしかた（☞P19）

●例．433.500MHzを設定

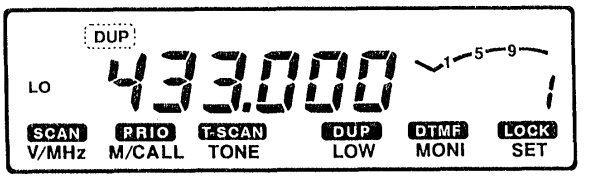


3 DUP（LOW）スイッチを約1秒押します。

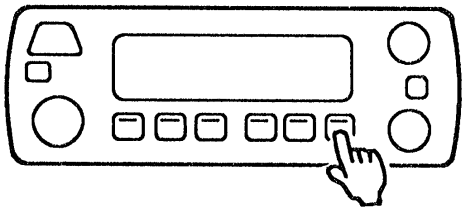


- 1秒以上押すごとに、DUP−（マイナス）→DUP（プラス）→消灯（シンプレックス）と切り替わります。

●例．DUP（プラス）に設定

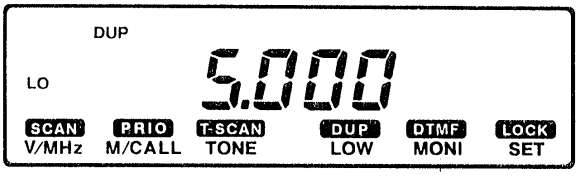


4 SETモードにして、オフセット周波数の項目にします。



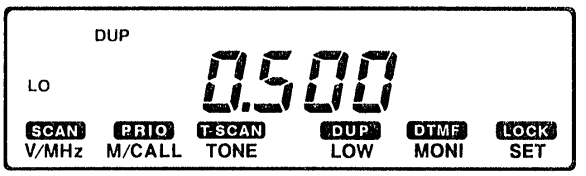
数回押す

●オフセット周波数項目の表示



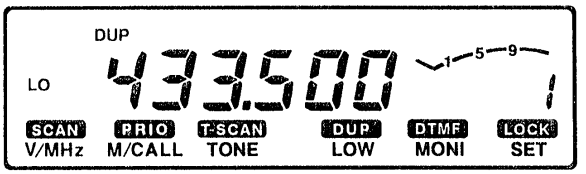
5 ダイヤルツマミを回し、オフセット周波数を設定します。

●例. 0.5MHz



6 SET、MONI以外のスイッチを押し、SETモードを解除します。

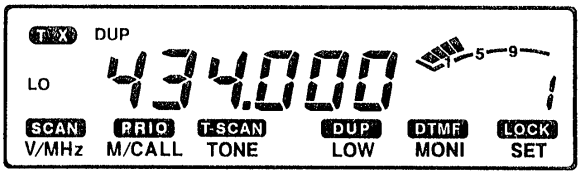
●受信周波数に戻る



7 送受信操作を行います。

●送信時の周波数は、受信周波数よりオフセット分(0.5MHz)高くなります。

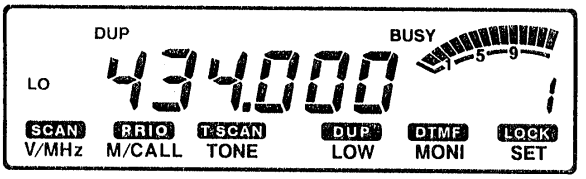
●送信周波数は434.000MHzになる



■送信モニター機能について

送信周波数を他局が運用していないかを確認する機能です。
MONIスイッチを押している間、自局の送信周波数を受信できます。
もし、他局が運用していたら自局の送信周波数を変更してください。

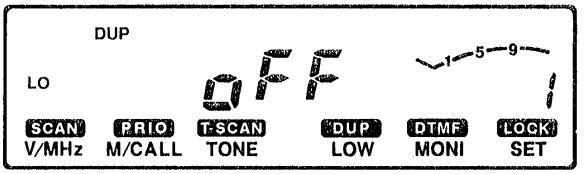
●送信周波数になり受信ができる



■オフバンド表示について

送信したときにアマチュアバンドから逸脱するような、まちがったオフセット周波数やシフト方向、または送信周波数を設定すると、オフバンド表示で知らせ、送信しません。

●オフバンド表示

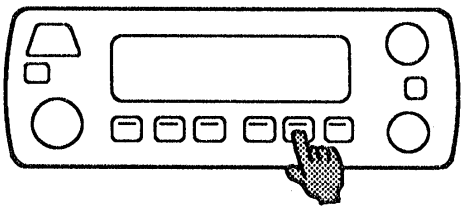


10-2 DTMFメモリー機能の使いかた

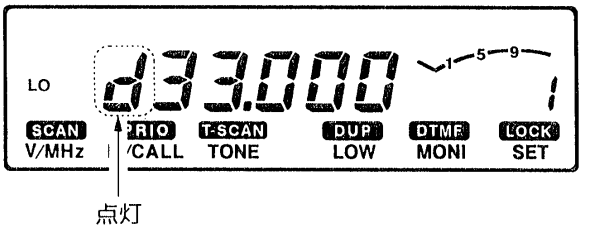
最大16桁のDTMF信号を、14チャンネルのメモリーに記憶することができます。
DTMFメモリーは、両バンド共通となっていますので、どちらかのバンドで書き込みしたメモリーを、両バンドで使用できます。

1. DTMFメモリーの書き込みかた

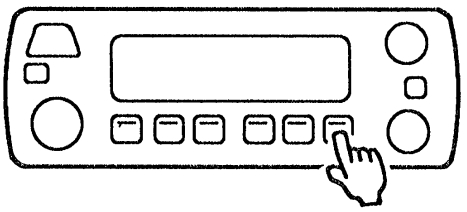
1 DTMF（MONI）スイッチを約1秒押します。



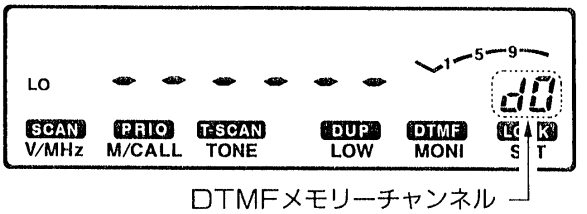
●DTMF運用モードになる



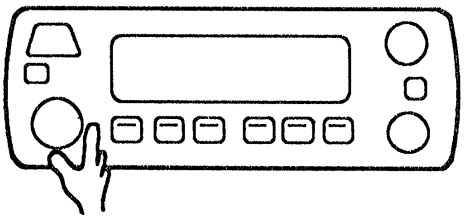
2 SETスイッチを押します。



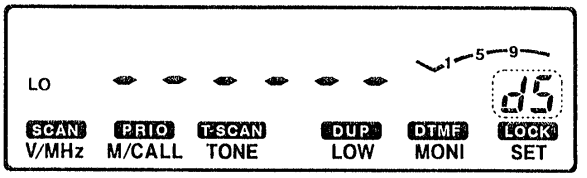
●DTMFメモリー表示になる。



3 ダイヤルツマミを回し、DTMFメモリーチャンネルを選択します。

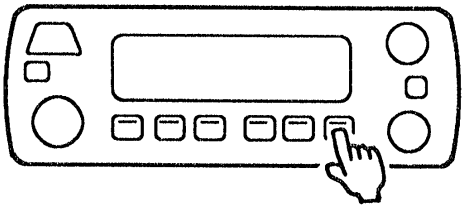


●例.“d5”チャンネルを選択

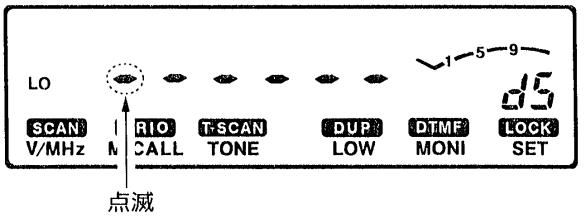


●DTMFメモリーは、d0～ddの14チャンネルあります

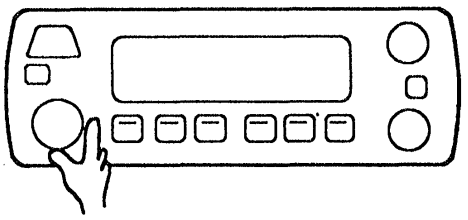
4 SETスイッチを押すと、DTMFコードの入力状態になり、1桁目が点滅します。



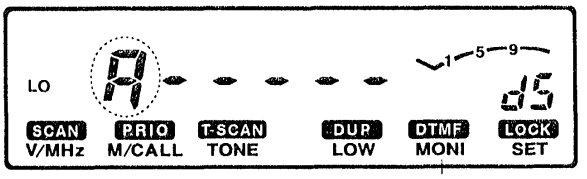
●DTMFコード入力状態



5 ダイヤルツマミを回して、DTMFコードをセットします。

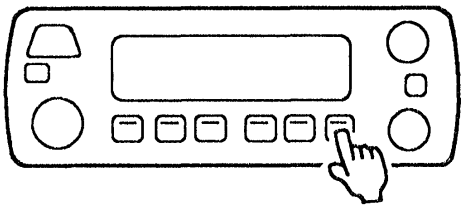


●例. コード“A”をセット



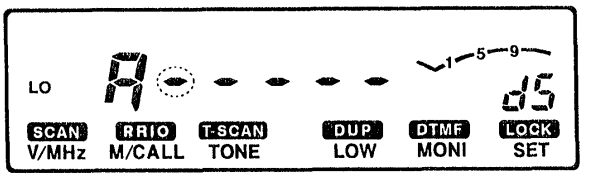
●DTMFコードには、0～9の数字と、A～Fの英字があります。

6 SETスイッチを押すと、点滅桁が2桁目（右に移動）になります。



●MONIスイッチを押すと、点滅桁を左に移動させることができます。

●点滅桁移動（2桁目点滅）



●右移動→SETスイッチ
●左移動←MONIスイッチ

◎以後、5、6項を繰り返し操作することで、順次DTMFコードのセットができます。
DTMFメモリーの1つのチャンネルに最大16桁のコードが書き込めます。
6桁入力ごとに表示が自動的に切り替わります。

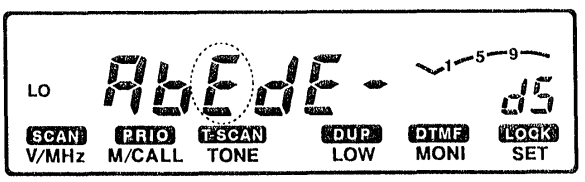
7 続けて別のメモリーに書き込みたいときは、
①MONIまたはSETスイッチで、メモリーチャンネル番号を点滅状態にします。
②ダイヤルツマミを回すと、メモリーチャンネルが切り替わります。

◎周波数表示(DTMF運用モード）に戻すときは、MONI、SET以外のスイッチを押します。
◎DTMF運用モードを解除するときは、DTMFスイッチを押し、通常運用モードにします。

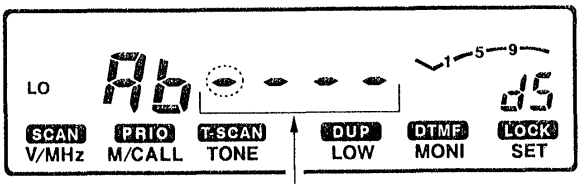
■DTMFコードの訂正とクリア（消去）のしかた

①訂正したい桁を点滅させます。ダイヤルツマミで正しいコードをセットします。
②点滅している桁で、“－”表示（0～9、A～Fのコードでない状態）にすると、以下の桁がすべて“－”になり、クリアされます。
1桁目を“－”にセットすると、そのメモリーはクリアされたことになります。

●訂正　点滅桁で正しいコードをセット



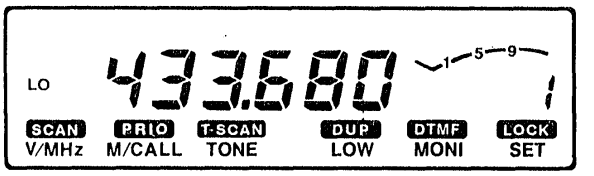
●クリア　“－”をセットするとその桁以後をクリア



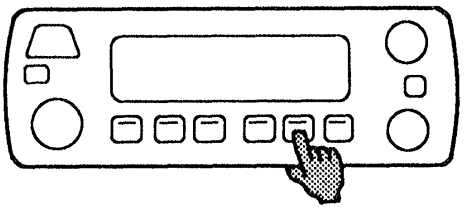
2. DTMFコードの送出のしかた

1 運用周波数を設定します。

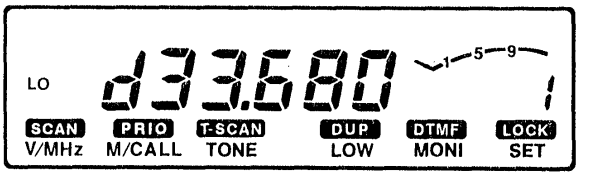
●例. 433.680MHz



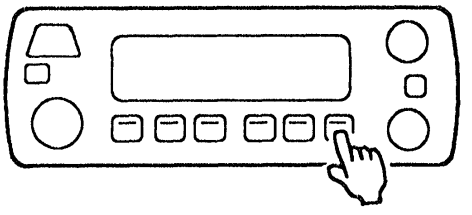
2 DTMF（MONI）スイッチを約1秒押し、DTMF運用モードにします。



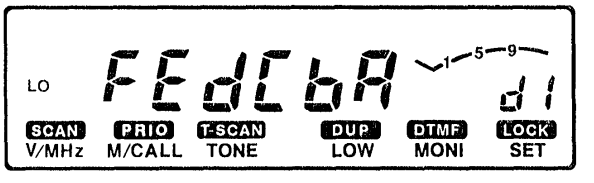
●DTMF運用モード



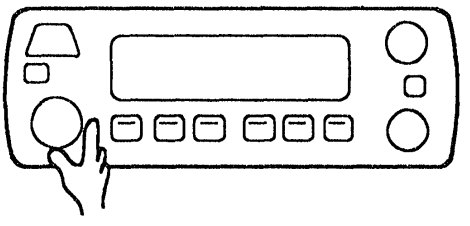
3 SETスイッチを押し、DTMFメモリーの表示にします。



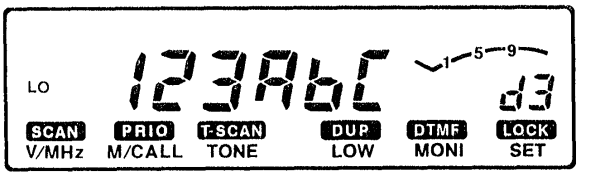
●DTMFメモリー表示



4 ダイヤルツマミ（マイクのUP/DN）で送出したいDTMFメモリーを呼び出します。



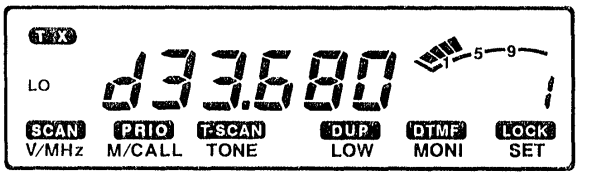
●例. “d3”を呼び出す



5 マイクのPTTスイッチを押し、送信します。

- 周波数表示（DTMF運用モード）に戻り、DTMFメモリーの内容が送信されます。
- DTMFメモリーのコードが順次送出されると同時に、“ピポパ”音が鳴ります。

●DTMFコード送出時



◎DTMF送出スピード
イニシャルセットモードで、DTMFコードの送出スピードを切り替えることができます。(☞P55)

10-3 トーンスケルチ/ポケットビープ機能

1. トーンスケルチ機能の動作

特定局（自局と同じトーン周波数を含んだ信号）の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、トーンスケルチが開いて通話内容が聞こえますので、快適な待ち受け受信ができます。

2. ポケットビープ機能の動作

ポケットビープ機能で待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビープ音（“ピロピロピロ”の連続音）が鳴り続け、同時に“((•))”を点滅して知らせますので、聞き逃すことがありません。

呼び出しを受けたら、30秒以内にマイクのPTTスイッチを押して通話するか、前面スイッチのどれかを押すと、ポケットビープ機能は解除され、トーンスケルチ機能になります。

また、30秒以上何も操作しなかったときは、ビープ音は自動停止しますが、ディスプレイの“((•))”は点滅状態を続け、呼び出しを受けたことを知らせます。

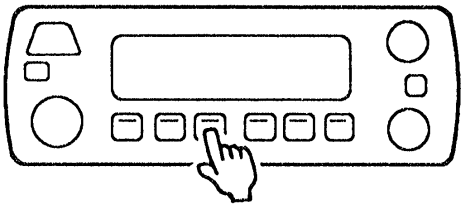
3. トーンスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた

1 使用するトーン周波数を設定します。

※トーン周波数は、相手局と同じにします。
トーン周波数の設定のしかた(☞P47、48)

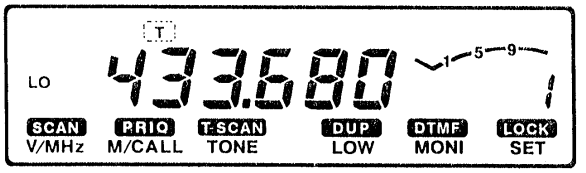
2 運用周波数を設定します。

3 TONEスイッチを押します。

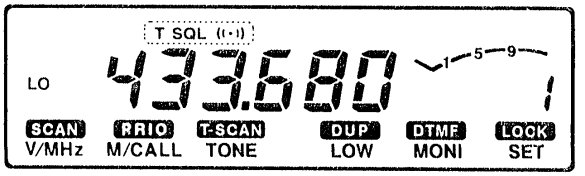


●1回押すごとに
① “T”点灯
トーンエンコーダー運用モード
② “T SQL((•))”点灯
ポケットビープ運用モード
③ “T SQL”点灯
トーンスケルチ運用モードが切り替わります。
④もう一度押すと、通常運用モードに戻ります。

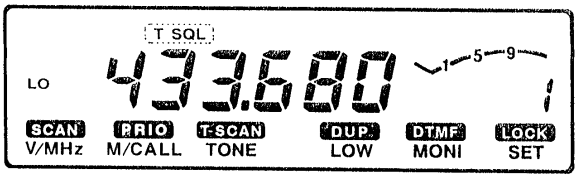
例. UHF帯
①トーンエンコーダー運用モード



②ポケットビープ運用モード



③トーンスケルチ運用モード



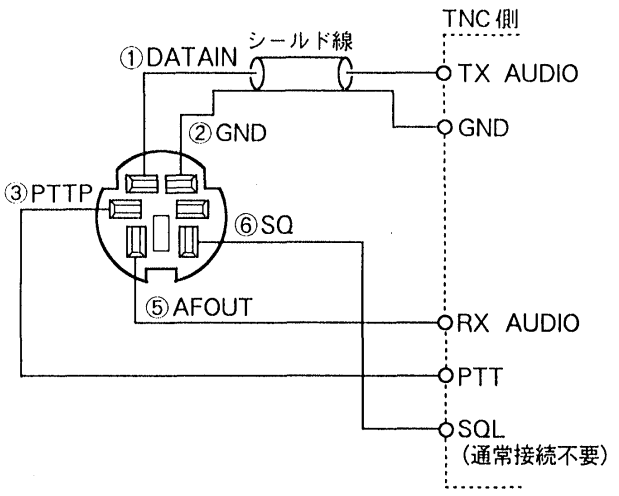
10−4 パケット通信について

パケット通信の接続に便利なDATA端子（ミニDIN6PIN）を設け、9600bpsの高速伝送速度にも対応しています。

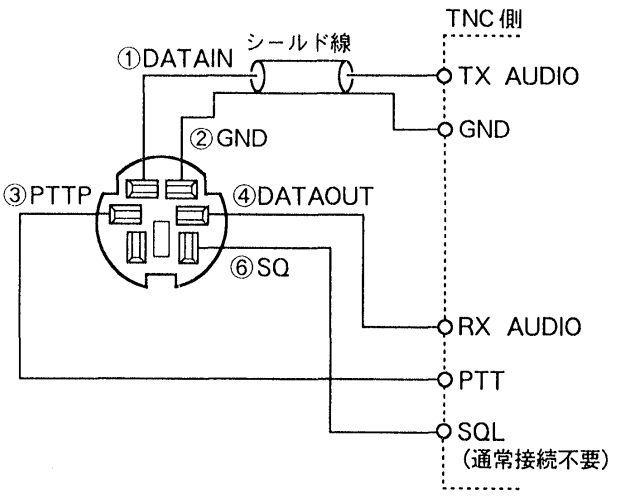
1．接続のしかた

◎TNC（パケット通信）と本機との接続は、後面パネルのDATA端子を使用します。

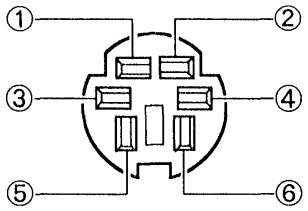
●1200bpsの接続図



●9600bpsの接続図



◎DATA端子（ミニDIN6PIN）について



①DATA IN（入力）端子
通信データの入力端子で、1200/9600bps共通です。

②GND端子
DATA IN、DATA OUT、AF OUTに使用する配線のGNDに接続します。

③PTTP端子
GNDに接続することで、送信状態にします。

④DATA OUT（出力）端子（9600bps）
9600bpsの受信データの出力端子です。

⑤AF OUT（出力）端子
1200bpsの受信データの出力端子です。

⑥SQ端子
スケルチ信号の出力端子です。
※VOL（音量）ツマミをしぼり、音が出ないようにしたときは、このスケルチ信号は出力されません。モニター音を出した状態にしてください。
受信時、スケルチが開くと、HIレベル(+5V)を出力します。

※TNC接続およびパケット運用については、TNCの取扱説明書をよくお読みください。

2. パケット通信のしかた

(1)イニシャルセットモードで、1200bps/9600bpsを選択します。(☞P54)

〔ご注意〕

- 1200bpsで運用するときは、前面パネルに接続しているマイクを外してください。
  接続していると、マイクからの信号が重なることがあります。
- 9600bpsで運用時は、マイクを接続しても正常に動作します。
  パケット信号送出時、マイクのPTTスイッチが押されると、マイク信号入力に切り替わり、パケット信号の送出は停止します。

(2)周波数を設定し、運用を行ってください。

■TNC（送信信号出力調整）について

9600bps運用時は、専用のリミッター回路を設け、送信信号出力が一定レベル（約0.6Vp-p）以上あるときは、送信禁止となっています。
したがって、TNC側で送信信号出力を調整してください。

1.レベルメーターまたはシンクロスコープによる調整
TNCのチェック用信号の送出コマンド（CALなど）を用いて、TX Audioライン（DATA IN）のレベルを測定し、下記の規定レベルになるように、TNC内蔵のボリューム、または直列抵抗を挿入して調整してください。

- 0.2Vp-p～0.5Vp-p（0.1Vrms～0.25Vrms）
  〔推奨値0.4Vp-p（0.2Vrms）〕

2.測定器などがない場合

- TNCと本機を接続し、TNCのチェック用信号の送出コマンド（CALなど）を用いて、送信状態にします。
- 連続送信しない場合（TX表示が点灯しない、またはTX表示点滅時）は、リミッター回路が動作していますので、適正レベルになるようにTNC側のレベルを調整（レベルダウン）します。
- 連続送信する場合（TX表示点灯時）は、RBBSなどにアクセスし、アクセスできないときは、送信信号出力レベルが不足していますので、連続送信できる範囲で、適正レベルになるようにTNC側のレベルを調整（レベルアップ）します。
- リトライが多いようであれば、再度レベル調整を行ってください。

11 その他の便利な機能

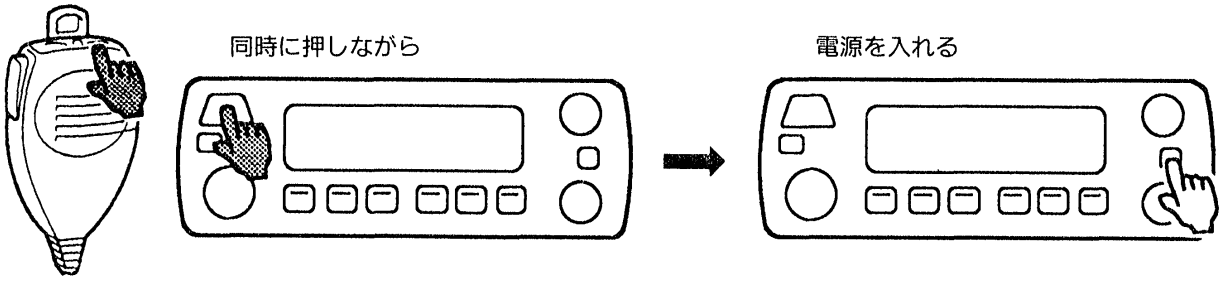
11－1 ユーザーファンクションの使いかた

前面パネルのスイッチ機能を、付属マイクのUP/DNスイッチで操作することができる、便利な機能です。
PWR（電源）スイッチを除く、すべてのスイッチに有効です。

〔例〕マイクのUPスイッチを、BANDスイッチの機能にする

1 PWRスイッチを押し、いったん電源をOFFにします。

2 マイクのUPスイッチと、BANDスイッチを押しながら、電源を入れます。



- 以後、マイクのUPスイッチはBANDスイッチとして動作します。
- DNスイッチも同様の操作で、他のスイッチの機能にすることができます。
  （UP/DNスイッチの両方に割り当てることができます。）
- 機能を割り当てなかったDN（またはUP）スイッチは、従来の機能を維持します。

■解除のしかた

1 いったん、電源を切ります。

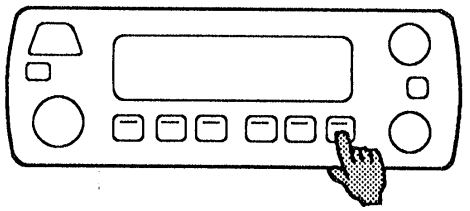
2 マイクのUPまたはDNスイッチを押しながら、電源を入れます。

- UP/DNスイッチ両方に設定している場合は、UPとDNで別々に解除してください。

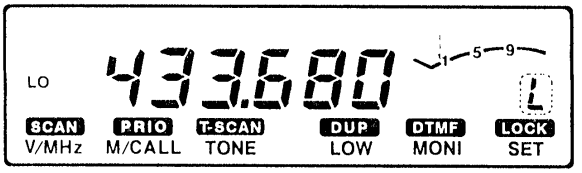
11−2 操作スイッチのロックのしかた

まちがえてスイッチに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにします。

LOCK（SET）スイッチを約1秒押します。



●ロック表示



●以後、VOL、SQLツマミと、PTT、MONI以外のスイッチは、押しても動作しません。

◎もう一度同じ操作を行うと、ロックを解除します。

11−3 ビープ音について

スイッチ操作をしたときに、ビープ音で下記のようなことを知らせます。

①ピッ……短く押すスイッチ操作が、正しく行われたとき
②ピッ、ピー……1秒以上押すスイッチ操作が、正しく行われたとき
③ピッ、ピピ……1秒以上押すスイッチ操作の中で、次の操作が正しく行われたとき
　●メモリーへの書き込みが完了したとき
　●メモリーまたはコールチャンネルの内容をVFOに移したとき
④プッ……まちがったスイッチ操作をしたとき、または無効のとき

●ビープ音が鳴らないようにしたときは、イニシャルセットモードでON/OFFができますので、☞P52をご覧ください。
●ビープ音の音量は、VOL（音量）ツマミの設定に比例します。

11−4 30秒タイマー機能について

下記のような操作をしたあとに、30秒間なにも操作しなかったときは、30秒タイマーが動作して、自動的に元の表示に戻ります。

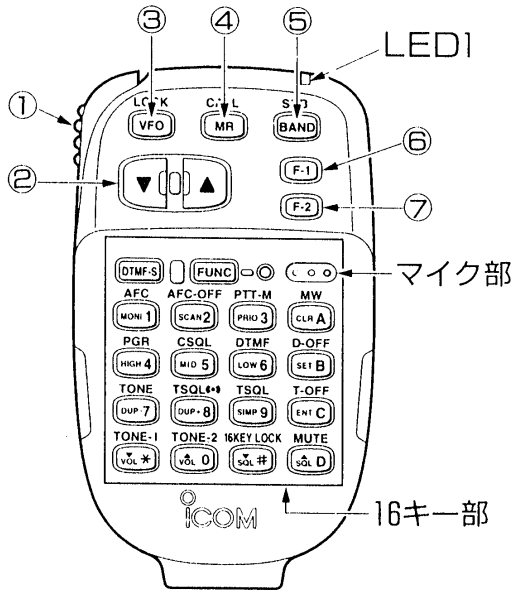
①1MHzステップの可変操作のとき
②SETモードに入ったとき
③セレクトメモリー（S.MWスイッチを押したあと）状態のとき
④DTMFメモリー呼び出し状態のとき

◎上記以外に便利な機能がSETモード（☞P45）、イニシャルセットモード（☞P50）で設定することができます。それぞれの項目をよくお読みになり、運用状態に合わせて各機能を設定してください。

12 オプションマイクについて

本機は、別売の多機能リモコンマイク（HM-98）または、ワイヤレスリモコンマイク（HM-90）を接続することができます。
周波数やM-CHの設定が、数字キーで直接入力できることや、手元ですべての操作を簡単に行うことができるマイクロホンです。

12－1　多機能マイク（HM-98）の使いかた



HM-98は、本体で行うすべての操作を、手元で簡単に操作できるようにした、リモートコントロールマイクです。
※電源のON/OFFは本体だけです。

- マイクの下側部分（16キー部）には、カバーが付いていますので、必要なときこのカバーをはずしてご使用ください。
  ※はずしたカバーをなくさないようにご注意ください。

- HM-98使用時は、付属マイクを外して前面マイクコネクターに接続してください。

〔1〕上部スイッチの機能

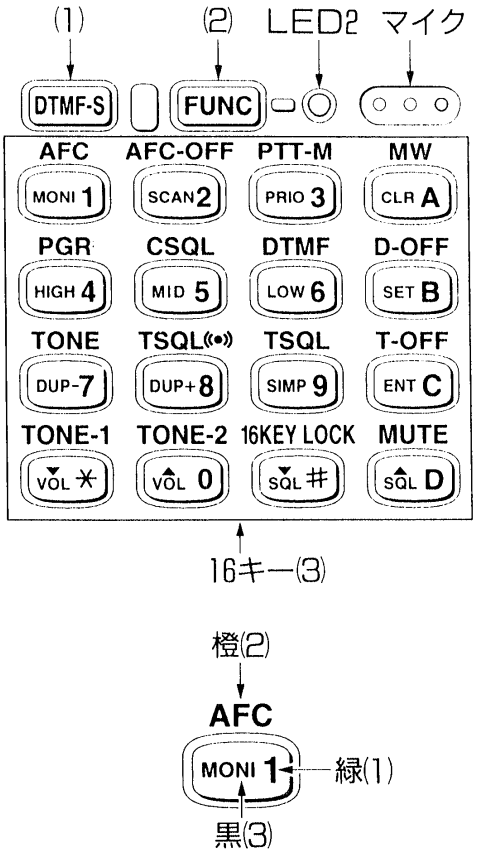
上部スイッチは、本体のスイッチと同様に、短く押す機能（黒文字で表示）と長く押す機能（白文字で表示）があります。
下表の□（アミカケ部）は、長く押したときの機能です。

No.	スイッチの名称	おもなはたらき
①	PTT（プッシュ・ツー・トーク）スイッチ	通常は付属のマイクと同じ機能です。 ●16キー部のPTT-Mキーにより、送信と受信を1回押すごとに切り替える、ワンタッチ機能にすることができます。
②	▲（UP）／▼（DN）スイッチ	運用周波数の設定、メモリーチャンネルの呼び出しができます。 セットモード中は、設定内容の切り替えができます。 ※ユーザーファンクションは、設定できません。（⑥F-1スイッチ参照）
		0.5秒以上押し続けると、スキャンが動作します。 スキャン動作中に押すと、スキャンを解除します。

③	VFOスイッチ	周波数を設定するためのVFOモードにします。 ※1MHzステップの設定はできません。
	LOCK(ロック) スイッチ	スイッチ操作を無効にするスイッチです。 本体前面パネルのスイッチおよび、マイク自体のスイッチ、キーの操作を無効にします。(PTT、VOL、SQL、MONIは除く)
④	MR(メモリーモード) スイッチ	メモリーモードにするスイッチです。 メモリーモードのときは押しても、なにも動作しません。
	CALL(コールチャンネル)スイッチ	コールチャンネルを呼び出すスイッチです。 約1秒押すと、CALL「1」または「2」になります。 CALL「1」、「2」の切り替えは、BANDスイッチを押します。
⑤	BAND(バンド) スイッチ	本体前面パネルのBANDスイッチと同じです。 ●VFOモード時は、バンドを切り替えます。 ●CALL-CH「1」と「2」を切り替えます。 ●スキャン中は、スキャン範囲を切り替えます。
	SUBスイッチ	なにも動作しません。
⑥	F-1スイッチ	ユーザーファンクション用のスイッチです。 ●初期時は、本体前面パネルのLOW（DUP）スイッチを設定しています。 (1)短く押すごとに、送信出力を切り替えます。 (2)長く押すことにより、デュプレックスモードが設定できます。
⑦	F-2スイッチ	ユーザーファンクション用のスイッチです。 ●初期時は、本体前面パネルのTONE（T-SCAN）スイッチを設定しています。 (1)短く押すごとに、トーン運用モードを切り替えます。 (2)長く押すことにより、トーンスキャンができます。
	◎F-1/F-2スイッチのユーザーファンクションについて 付属マイクのUP/DNスイッチで設定するユーザーファンクション(☞P65)を、F-1およびF-2スイッチに設定することができます。 ●設定のしかたは、65ページと同様です。 付属マイクのUP/DNスイッチを、F-1/F-2スイッチで行います。	
	LED1 (送受信表示)	送受信の状態を表示するLEDです。 送信中は赤色に点灯します。 ワンタッチPTT機能がONのとき、受信中は緑色に点灯します。

12 オプションマイクについて

(2) 16キーについて



(1)DTMF-Sキー

16キーをDTMF信号として動作させるためのキーです。

このキーを押すとLED2が緑色に点灯し、16キーを押すと該当するDTMFコードが送出されます。もう一度押すとLED2が消灯し、DTMFを解除します。

(2)FUNC（ファンクション）キー

16キーの橙色（キーの上に表示）の機能を選択するためのキーです。

このキーを押すとLED2が橙色に点灯し、16キーを押すと、橙色の機能になります。

(3)16キーのダイレクト入力

16キーを直接押す(DTMF-S/FUNCキーを押さずに）と、黒色の機能になります。

●数字キー（0～9）のダイレクト入力

ENT［C］キーを押したあとに、数字（0～9）キーを押すことで、周波数（VFOモード時)、またはメモリーチャンネル（メモリーモード時）の設定ができます。

■16キーの機能

キー	直接押したとき	FUNCキーに続いて押したとき
AFC MONI 1	モニター機能をON/OFFします。	動作しません。
AFC-OFF SCAN 2	スキャンのスタート/ストップを行います。	動作しません。
PTT-M PRIO 3	プライオリティスキャンのスタート/ストップを行います。	ワンタッチPTT機能をON／OFFします。
MW CLR A	置数入力中のクリアができ、元の表示に戻します。	短く押すとセレクトメモリー、1秒以上押すとメモリー書き込みができます。
PGR HIGH 4	送信出力を“HI”パワーにします。	動作しません。

キー	直接押したとき	FUNCキーに続いて押したとき
CSQL MID 5	送信出力を“MID-HI”パワーにします。 ※“MID-LO”は設定できません。	動作しません。
DTMF LOW 6	送信出力を“LO”パワーにします。	DTMFメモリーの運用モードにします。
D-OFF SET B	セットモードにします。セットモード中は項目を進めます。	DTMFの運用モードを解除します。
TONE DUP- 7	デュプレックス運用モードにします。(マイナスシフト)	トーンエンコーダをONにします。
TSQL DUP+ 8	デュプレックス運用モードにします。(プラスシフト)	ポケットビープ機能をONにします。
TSQL SIMP 9	デュプレックスモードを解除し、シンプレックスモードにします。	トーンスケルチ機能をONにします。
T-OFF ENT C	周波数またはM-CHを数字キーで直接入力するときの、キー入力状態にします。	トーンエンコーダ/ポケットビープ/トーンスケルチ機能をOFFにします。
TONE-1 VOL ✳	受信音量をダウン（小さく）します。	1750Hzのトーンを500mS送出します。
TONE-2 VOL 0	受信音量をアップ（大きく）します。	1750Hzのトーンを押している間送出します。
16KEY LOCK SQL #	スケルチレベルをダウン（ツマミを左へ回すのと同じ）します。	16キーおよびDTMF-Sキーを無効にします。
MUTE SQL D	スケルチレベルをアップ（ツマミを右へ回すのと同じ）します。	受信音をミュートします。

12 オプションマイクについて

(3) HM-98の使用例

HM-98のスイッチおよびキーは、本体前面パネルのスイッチと同様の機能を持っていますが、本体スイッチとちがった操作ができる機能については、下記のとおりです。

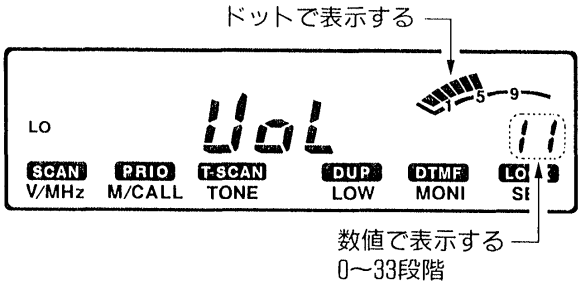
1 音量調整について

音量の調整は、▼VOL [*] /▲VOL [0] キーで行います。

▼VOLまたは▲VOLキーを押すと、ディスプレイに音量レベルが表示されます。

- VOLキーは、押し続けると、連続的に変化します。

- 音量レベルの表示



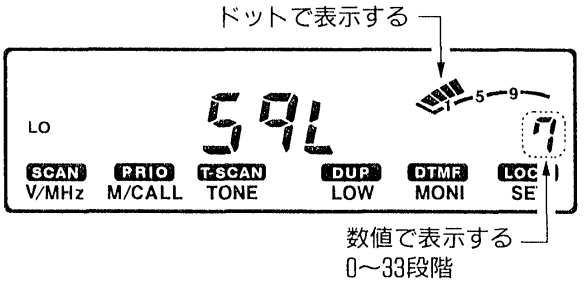
2 スケルチ調整について

スケルチの調整は、▼SQL [#]/▲SQL [D] キーで行います。

▼SQLまたは▲SQLキーを押すと、ディスプレイにスケルチレベルが表示されます。

- SQLキーは、押し続けると、連続的に変化します。

- スケルチレベルの表示



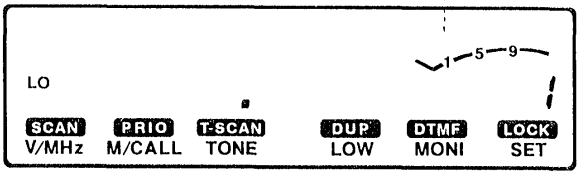
- 数値6以下で“BUSY”点灯
  数値7以上で“BUSY”消灯
- 数値を20以上に設定すると、アッテネーター(減衰器)が動作します。
  最大：約10dB

3 周波数の設定について

周波数の設定は、▲(UP) または▼(DN) スイッチでも設定できますが、数字キーにより、直接設定することができます。

①VFOモードにします。
②ENT [C] キーを押します。
③数字キーで、目的の周波数を入力します。

●ENTキーを押すと



(周波数設定の入力例)

- 435.680MHzの設定
  [ENT] [4] [3] [5] [6] [8] と押す
- 439.540MHzの設定
  [ENT] [4] [3] [9] [5] [4] と押す
- 433.000MHzの設定
  [ENT] [4] [3] [3] [0] [0] と押す
- 435.1125MHzの設定 (TS：12.5kHz時)
  [ENT] [4] [3] [5] [1] [1] [▲] または
  [ENT] [4] [3] [5] [1] [2] [▼] と押す

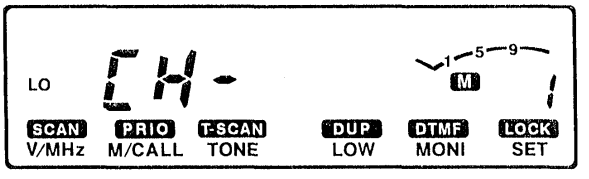
※まちがえたときは、[ENT」キーを押し、もう一度入力しなおします。
※バンド外の周波数を入力したときは、元の周波数表示に戻ります。

4 M-CHの設定について

周波数の設定と同様に、M-CHの設定（呼び出し）も数字キーでできます。

①メモリーモードにします。
②ENT [C] キーを押します。
③数字キーで、目的のM-CHを入力します。

●ENTキーを押すと



(M-CH設定の入力例)

5CH→ [ENT] [0] [0] [5]
10CH→ [ENT] [0] [1] [0]
99CH→ [ENT] [0] [9] [9]
100CH→ [ENT] [1] [0] [0]
150CH→ [ENT] [1] [5] [0]

1ACH→ [ENT] [1] [*]
1bCH→ [ENT] [1] [#]
3ACH→ [ENT] [3] [*]
3bCH→ [ENT] [3] [#]
5ACH→ [ENT] [5] [*]
5bCH→ [ENT] [5] [#]

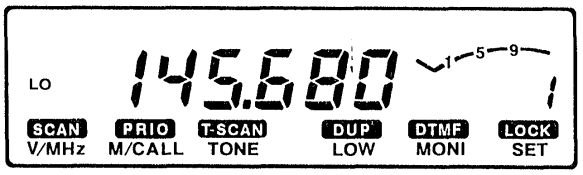
※通常のM-CHは、3桁で入力します。
※スキャンエッジ（1A～5b）のM-CHは、左のように、数字1桁と、Aは [*]、bは [#] を押します。
※なにも記憶されていないブランクCHを呼び出すことはできません。

5 メモリー（書き込み）のしかた

例. 145.680MHzを15CHに書き込むとき

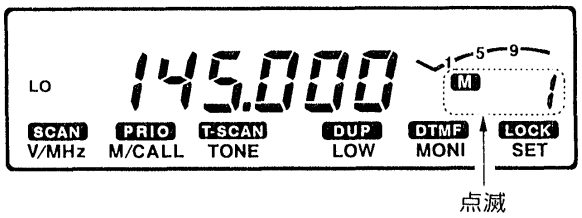
1 VFOモードにして、145.680MHzを設定します。
周波数の設定→P72 3

●145.680MHzをセット



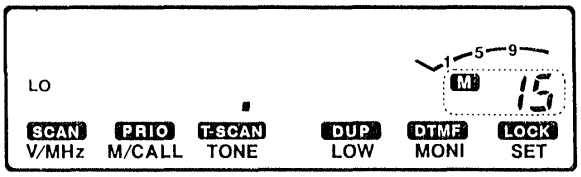
2 FUNC キーを押したあと、MW(CLA [A])キーを短く押します。
●セレクトメモリー状態になります。

●セレクトメモリー状態になる



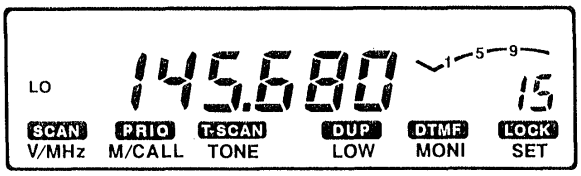
3 ▲（UP）または▼（DN）スイッチで15CHを設定します。
※このとき、数字キーで設定することはできません。
●本体前面パネルのダイヤルツマミでも設定できます。

●15CHをセット

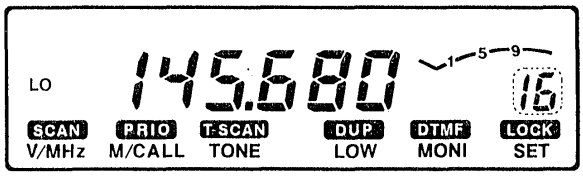


4 FUNC キーを押したあと、MW（CLA [A]）キーを約1秒（ピ、ピピが鳴るまで）押します。
●15CHに145.680MHzが書き込まれます。
●MWキー押し続けると、15CHから16CHにメモリー表示が切り替わります。

●15CHに145.680MHzが書き込まれる



●MWキー押し続け

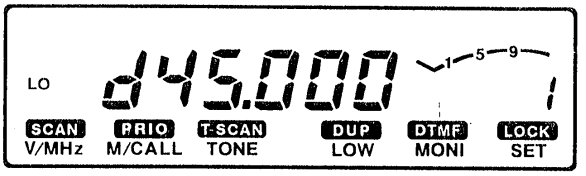


その他のメモリー関係の操作(☞P28〜30)も、本体のS.MWスイッチの操作を、HM-98では、FUNC +MW（CLR [A]）キーで行うことにより、すべてのメモリー関係の操作が、前面パネルと同様に操作ができます。

6 DTMFメモリーの書き込みかた

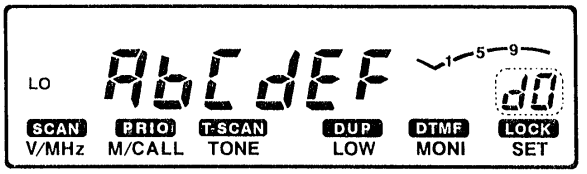
1 FUNC キーを押したあと、
DTMF（LOW [6]）キー を押します。

●DTMF運用モードになる



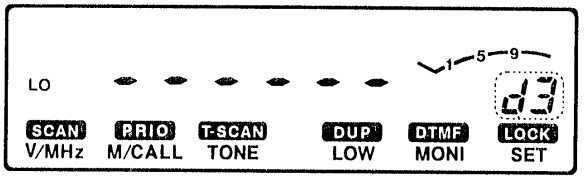
2 SET [B] キーを押します。

●DTMFメモリーの表示になる



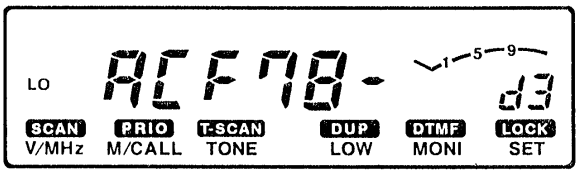
3 ▲（UP）または▼（DN）スイッチで
DTMFメモリーを選択します。
※DTMFメモリーは、数字キーでは選択できません。

●例. “d3” メモリーをセット



4 16キー（0～9、A～D、＊、#）で、
DTMFコードを入力します。
●16桁まで入力できます。
＊キーはEコード
＃キーはFコードになります。

●例. [A] [C] [#] [7] [8] を入力



◎上記4の状態から

(1) DTMFメモリーを切り替えるときは、
●▲（UP）または▼（DN）スイッチを1回押し、さらに▲または▼を押します。

(2) DTMF運用モードに戻すときは、
●FUNC キーを押したあと、16キーの [3]、[#] 以外のどれかを押します。

(3) 通常運用モードに戻すときは、
●DTMF運用モードにしたあと、CLA [A] キーを押します。

7 DTMFコードの送出

DTMF-S キーを押したあと、16キーを押すと該当するDTMFコードが送出されます。
※DTMFメモリーの内容を送出するときは、DTMFメモリーを呼び出し、PTTスイッチを押します。(☞P61と同じ操作をHM-98で行います。)
※DTMFメモリーを16キーで送出するときは、DTMF運用モードにしたのち、DTMF-S を押し、16キーでメモリー番号(0～9、A～D)を押すと、該当メモリーの内容が送出されます。

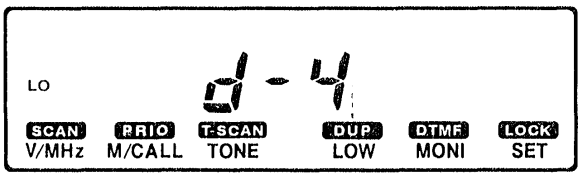
12 オプションマイクについて

8 SETモードの操作

1 「SETモードにする」

SET［B］キーを押します。

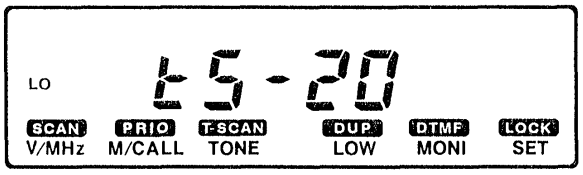
●SETモードの表示（初期時）



2 「設定項目を切り替える」

SET［B］キーを押します。
ENT［C］キーを押すと、設定項目が逆に進みます。

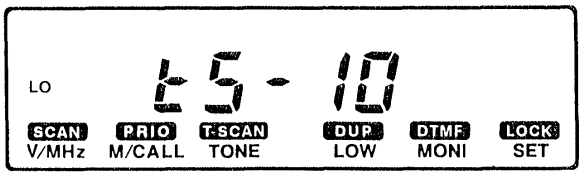
●設定項目の表示例



3 「設定内容を選択する」

▲（UP）または▼（DN）スイッチを押します。

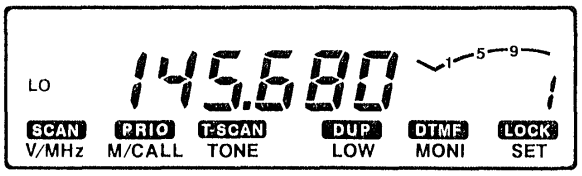
●設定内容の選択例



4 「SETモードを解除する」

SET［B］、ENT［C］以外のキーを押します。

●周波数表示に戻る



〔ご注意〕
●イニシャルセットモードは、マイクロホンから操作できません。
本体前面パネルで操作してください。

9 スキャンの操作について

- スキャンのスタートは、SCAN [2] キーを押すか、▲(UP)/▼(DN)スイッチを0.5秒以上押します。
  スタート時の操作モードにより、プログラムスキャン（VFOモード時)、メモリースキャン（メモリーモード時）ができます。
- スキャン動作中にBANDスイッチでスキャン範囲（VFOモード時)、バンド切り替え（メモリーモード時）ができます。
- スキャンのストップは、キーまたはスイッチのどれかを押します。

〔アドバイス〕
HM-98には、トーンスキャン用のスイッチ、キーはありません。
初期時はF-2スイッチにユーザーファンクションとして、TONE（T-SCAN）スイッチを割り当てています。
F-2を短く押すと、トーン運用モードの設定ができ、長く（約1秒）押すことにより、トーンスキャンができます。

10 16キーのロックのしかた

HM-98は、16キーの部分のみロックすることができます。

FUNCキーを押したのち、SQL▼ [#]（16KEY LOCK）を押します。
- 以後、16キーを押してもなにも動作しません。
- もう一度同じ操作を行うことで、16キーのロックを解除します。
  なお、この機能は本体の電源を切ったときも解除されます。

11 ワンタッチPTT機能について

通常、送信するときはリモコンマイクのPTTスイッチを押し続けながら送信しますが、ワンタッチPTTにすると、1回押すだけで送信状態を持続し、もう一回押すと受信に戻ります。ワンタッチで送信のON/OFFができるようになります。

リモコンマイクのFUNCキーを押し、PRIO [3]（PTT-M）キーを押します。
- 以後、PTTスイッチを押すごとに、送信／受信の切り替えになります。
- もう一度同じ操作を行うと元に戻ります。

※ワンタッチPTTにしたとき、LED1が緑色に点灯します。(受信状態を示します。)
送信すると、LED1は赤色になります。

12-2 ワイヤレスマイク（HM-90）の使いかた

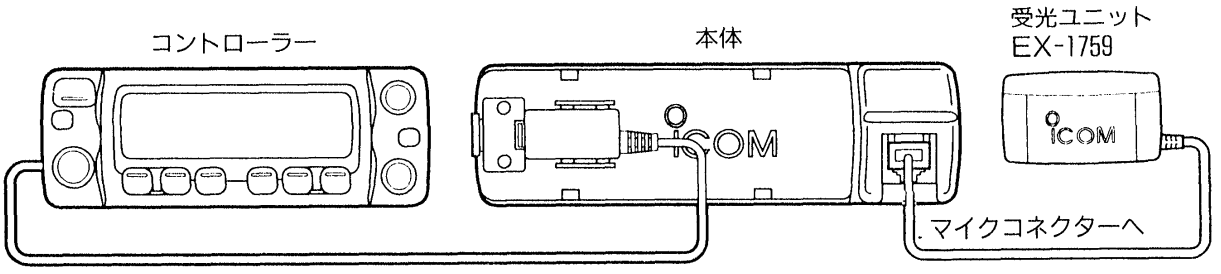
本機は、前記の多機能マイク（HM-98）以外に、オプションのワイヤレス方式のリモートコントロールマイク（HM-90）を使用することができます。

●HM-90を使用するためには、赤外線受光ユニット（EX-1759）（オプション）が必要です。

1. ワイヤレスマイクを使用するには

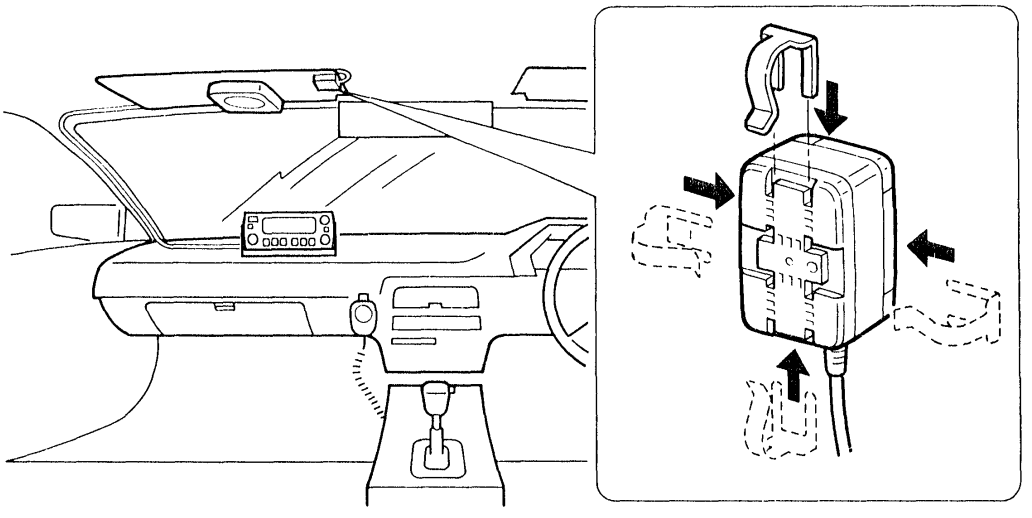
(1) 受光ユニット（EX-1759）の取り付けかた

①受光ユニットは、本体からリモコンマイクを外し、マイクコネクターに接続します。



②受光部は、下図のように取り付けてください。

●例. 受光ユニットをサンバイザーに取り付ける



受光ユニットの裏側のフックを利用して、お好みの位置に取り付けができます。

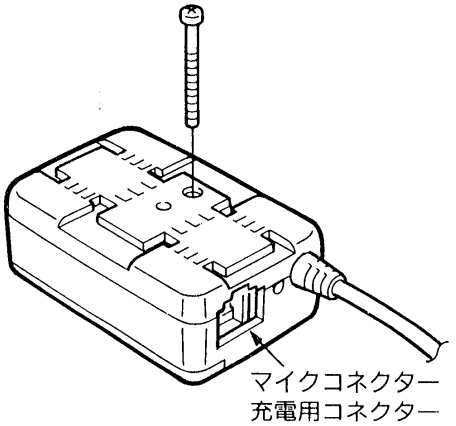
〔ご注意〕

- 受光ユニットは、ワイヤレスマイクからの赤外線電波を受光しやすいところに取り付けてください。
- 受光ユニットは、直射日光が当るところ(ダッシュボードの上など)に設置しないでください。
- ワイヤレスマイクと受光ユニットの間に、障害物などがないように設置してください。
- 受光ユニット（EX-1759）だけで受光しにくい場合は、受光ユニットの補助用として、オプションの（EX-1513）をご使用ください。(☞P78)

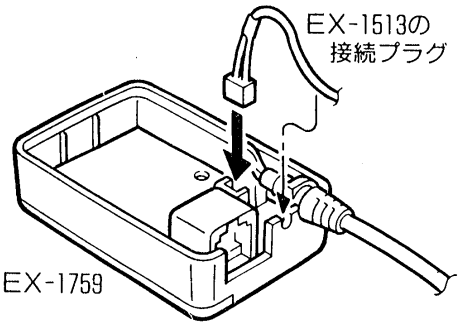
(2) 補助用受光ユニット（EX-1513）の取り付けかた（オプション）

●受光ユニット（EX-1759）の取り付け位置によっては、うまく受光できない場合があります。このときは、オプションの（EX-1513）を増設することにより、解消できます。
（EX1513）は、下図のように（EX-1759）に接続します。

①（EX-1759）の裏カバーを外す



②（EX-1513）を接続する



●接続後、（EX-1759）と（EX-1513）を適当に車内に配置することで、ワイヤレスマイクの電波を確実に受光します。

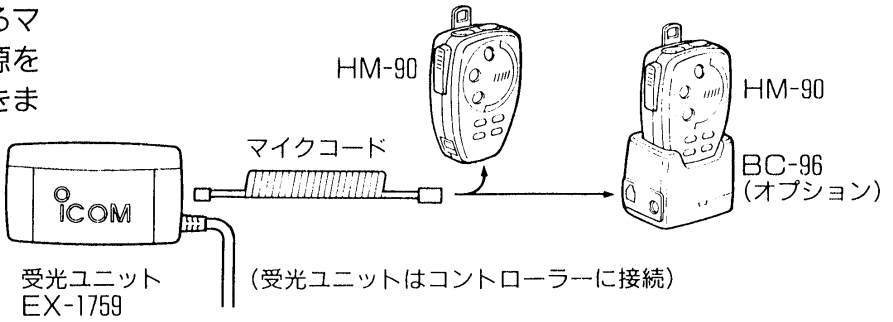
(3) ワイヤレスマイクの充電方法

ワイヤレスマイクロホンの電源として、ニッカド電池を内蔵しています。
購入後初めてワイヤレスで使用される場合は、必ず下記のように接続して充電を行ってください。

●充電時間は、ニッカド電池の容量が残っている場合は約1.5時間/容量が残っていない場合は約8時間充電の自動切り替えとなっています。
●満充電で約12時間の使用が可能です。（送信“1”、待ち受け“4”の割合で使用した場合）

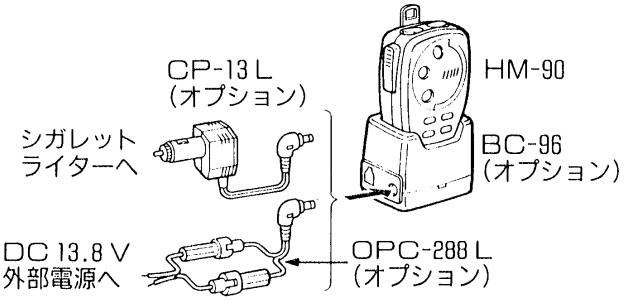
(1)本体からの電源で充電する方法

●受光ユニットの側面にあるマイクコネクターから、電源をとり、充電することができます。



(2)BC-96による充電方法

●オプションの専用充電器（BC-96）は、シガレットライターから電源をとれます。ワイヤレスマイクを使用しないとき、この充電器をマイク置き台にすれば、いつでも充電されているので便利です。



(4) ワイヤレスマイクと本体のアドレス設定について

●本機は、他のワイヤレスマイクからの誤動作を防止することができます。
本体とワイヤレスマイクに、同一のアドレスを設定することで防止しています。

■本体のアドレス設定のしかた

①イニシャルセットモードにします。(ﾏﾀﾞP51)
②アドレス設定項目にします。(ﾏﾀﾞP56)
③左側のダイヤルツマミで、アドレスを設定します。
アドレスは“0~7”までの8種類が選択できます。
“Adr-oF”を選択すると、ワイヤレスマイクでのリモートを禁止します。
※初期設定は、“1”に設定されています。

■ワイヤレスマイクのアドレス設定のしかた

①ワイヤレスマイクロホンのアドレススイッチのゴムカバーを外します。
②下記の表を参照してアドレスと、ワイヤレスリモコンの“ON/OFF”を設定します。
※本機で設定したアドレスとワイヤレスマイクロホンのアドレスは同一にします。

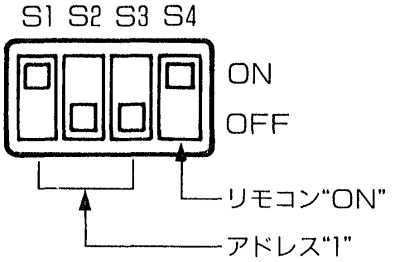
●アドレス設定

アドレス	ｽｲｯﾁ 1	ｽｲｯﾁ 2	ｽｲｯﾁ 3
0	OFF	OFF	OFF
1	ON	OFF	OFF
2	OFF	ON	OFF
3	ON	ON	OFF
4	OFF	OFF	ON
5	ON	OFF	ON
6	OFF	ON	ON
7	ON	ON	ON

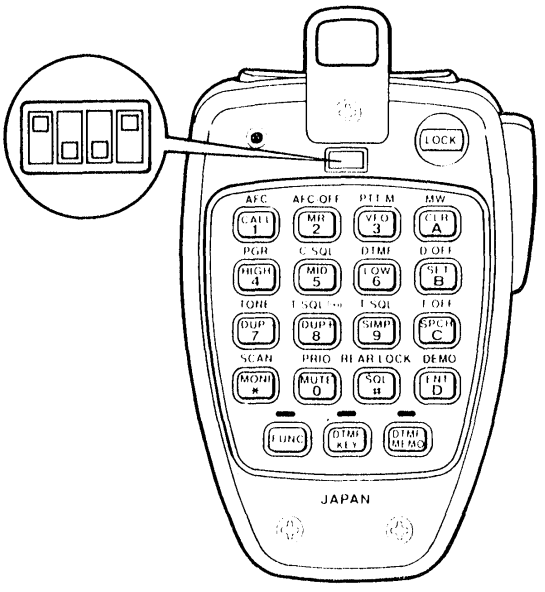
●ワイヤレスリモコンの“ON/OFF”の設定

スイッチ 4	動　　作
OFF	ワイヤレスリモコン機能が“OFF”となり、付属のマイクコードを接続して使用します。
ON	ワイヤレスリモコン機能が“ON”となり、約2mの範囲でワイヤレスリモコンができます。

●アドレススイッチ（初期時）



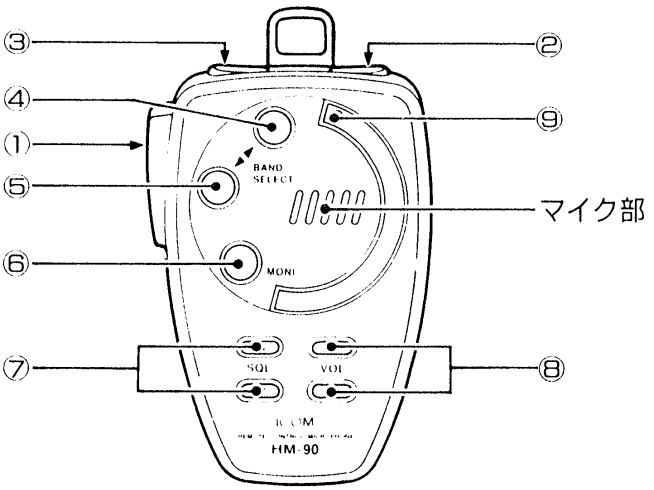
●HM-90の後面部



2. ワイヤレスマイク〔HM-90〕の操作について

前記、多機能マイク〔HM-98〕と同様の機能があります。
ただし、スイッチ、キーの配置や操作が、一部異なるところがありますので、下記操作説明をご参照ください。下記以外の操作については、HM-98の操作をご参照ください。

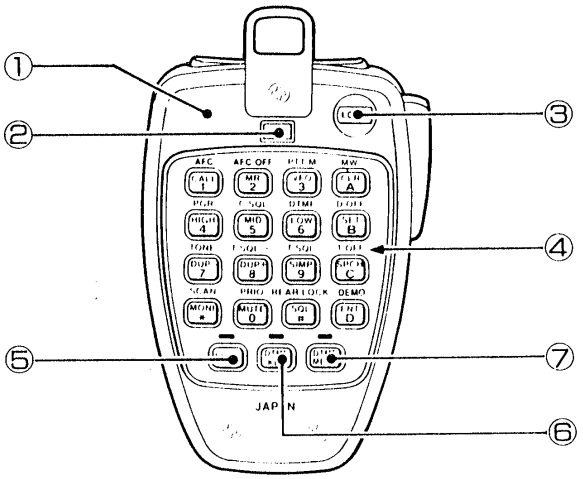
(1) 前面部スイッチについて



No.	名　　称	機能(多機能マイク［HM-98］との操作の比較)
①	PTT(プッシュ・ツー・トーク)スイッチ	〔HM-98〕と同じです。(☞P67)
② ③	UP/DNスイッチ (アップ/ダウン)	〔HM-98〕の▲(UP)/▼(DN)スイッチと同じです。(☞P67) ※ユーザーファンクションは、設定できません。
④ ⑤	BAND SELECT ▼/▲スイッチ (バンドの切り替え)	バンドの切り替えを行うスイッチで、〔HM-98〕のBANDスイッチと同じです。(☞P68) ▼スイッチまたは▲スイッチを1回押すごとに切り替えができます。 スキャン中の動作やCALL「1」「2」の切り替えも同じです。
⑥	MONI(モニター) スイッチ	〔HM-98〕の16キー部にあるMONI［1］キーと同じです。 (☞P69)
⑦	SQL▼/▲スイッチ (スケルチ)	〔HM-98〕の16キー部にあるSQL［#］/SQL［D］キーと同じです。(☞P70,71)
⑧	VOL▼/▲スイッチ (音量)	〔HM-98〕の16キー部にあるVOL［*］/VOL［0］キーと同じです。(☞P70,71)
⑨	LED1	送受信状態を表示するLEDで、〔HM-98〕のLED1と同じです。 (☞P68)

12 オプションマイクについて

(2) 後面部キーについて



基本的な操作は、(HM-98) と同じです。

- 16キーの白色機能は、押したとき動作します。
- 16キーの緑色機能は、周波数、M-CHおよび各種コードのダイレクト入力や、DTMF信号として使用します。
- 16キーの赤色機能は、FUNC+該当キーでその機能が動作します。

No.	名　　称	機能（多機能マイク [HM-98] との操作の比較）
①	LED2	マイクの使用状態を表示するLEDです。 ⑤FUNCを押すと赤色に点灯 ⑥DTMF KEYを押すと緑色に点灯 ⑦DTMF MEMOを押すと橙色に点灯
②	アドレススイッチ	ワイヤレスマイクのアドレスを設定するスイッチです。(☞P79)
③	LOCK(ロック) スイッチ	ワイヤレスマイクのPTTスイッチ以外のスイッチ操作を無効にします。本体前面パネルのロックはできません。
④	16キー	● (HM-98) のVFO、MR、CALLスイッチは、ワイヤレスマイクでは16キーに割り当てられています。 機能は同じです。 ● 赤色機能のAFC、AFC-OFF、PGR、CSQLは動作しません。 ● 赤色機能のDEMOは、販売店用デモ表示の機能です。 ● 赤色機能のREAR LOCKは、ワイヤレスマイクの後面部のスイッチ、キーだけを操作無効にします。 ● 白色機能のSPCHは動作しません。 ◎その他の機能については、(HM-98) と同様に操作することができます。
⑤	FUNC(ファンクション) スイッチ	(HM-98) のFUNCキーと同じです。(☞P69)
⑥	DTMF　KEYスイッチ (DTMFキー送出)	このスイッチを押したあと（LED2緑色点灯中)、16キーを押すごとに、該当DTMF信号が送信されます。(☞P74)
⑦	DTMF MEMOスイッチ (DTMFメモリー送信)	DTMFメモリーの内容を送出するスイッチです。(☞P61) このスイッチを押したあと（LED2橙色点灯中)、送信したいメモリー番号を数字キー（[0] ～ [9], [A] ～ [D]）で指定します。

保守について 13

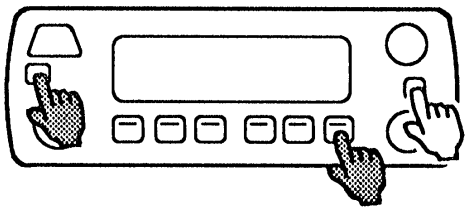
13－1　オールリセットのしかた

本機の電源を投入したとき、または運用中にCPUの誤動作や静電気の外部要因で、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。
それでも異常があれば、次のようにオールリセット操作を行ってください。
※オールリセット操作を行った場合は、すべての操作モードが初期設定値(出荷時の状態)に戻りますので、運用に必要な情報をセットしなおしてご使用ください。

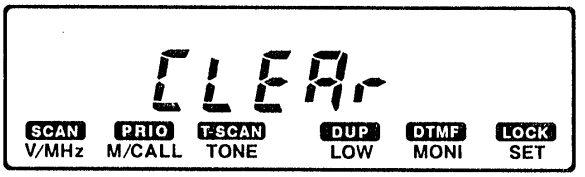
1．オールリセットのしかた

1 PWRスイッチを押し、いったん電源を切ります。

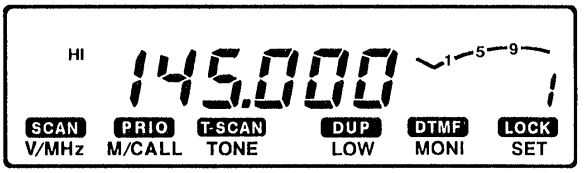
2 MWスイッチと、SETスイッチを押しながら、電源を入れます。



●約1秒間“CLEAR”を表示したあと



●初期状態の表示になる



2．初期設定値（オールリセット後の内容）

項　　目		VHF(144MHz)帯	UHF(430MHz)帯
VFO周波数(表示はVHF帯)		145.000MHz(表示)	433.000MHz
操作モード		VFOモード	VFOモード
M-CHの表示		1CH	
M-CHの周波数	1(CH)	145.000MHz	
	2(CH)	433.000MHz	
	3～150CH	ブランク	
	1A	144.000MHz	
	1b	440.000MHz	
	2A～5b	ブランク	
	CALL-CH	145.000MHz(C1)	433.000MHz(C2)
	ログメモリー	すべて消去される	
SETモードの内容		初期設定値に戻る	
イニシャルセットモードの内容		初期設定値に戻る	
送信出力		HIGHパワーになる	

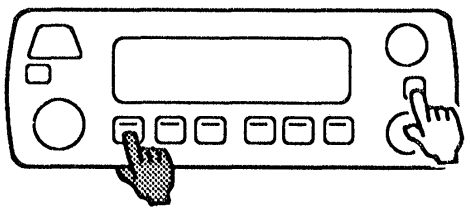
13-2 パーシャルリセットのしかた

運用モードの周波数およびSETモードの内容だけを初期値にできるリセットで、メモリーの内容（通常のM-CH、DTMFメモリー、ログメモリー）はそのまま残ります。

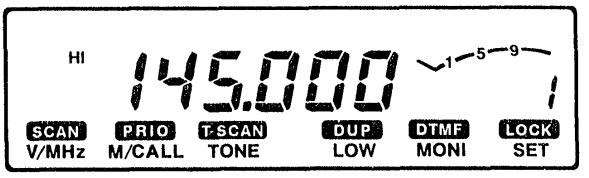
■パーシャルリセットのしかた

1 PWRスイッチを押し、いったん電源を切ります。

2 V/MHzスイッチを押しながら、電源を入れます。



●パーシャルリセット後の表示



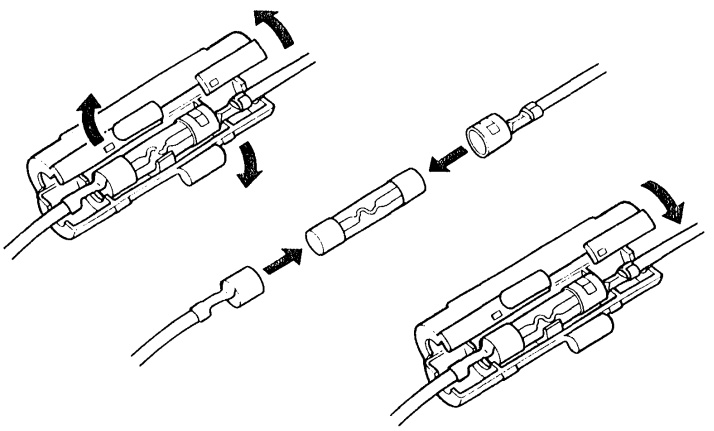
144MHz帯のVFO（145.000MHz）に戻ります。

13-3 ヒューズの交換

ヒューズが切れ、本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

①DC電源コードのヒューズホルダーは下記の図を参照して、ホルダーを開けます。
②切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズを元どおりに納めます。

■ヒューズの交換のしかた



⚠ 警告

指定以外のヒューズは絶対に使用しないでください。ヒューズのない電源コードは使用しないでください。発火、火災などの原因となります。

●ヒューズの定格
20A（IC-207D）
10A（IC-207）

免許の申請について 14

本機は技術基準適合証明を受けた「技適証明送信機」ですから、免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。

	21希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式					
	周波数帯	空中線電力	電波の型式	周波数帯	空中線電力	電波の型式
IC-207D	144M	50	F2/F3)			)
	430M	50	F2/F3)			)
IC-207	144M	20	F2/F3)			)
	430M	20	F2/F3)			)

本機の下側カバーに、技適証明マークと“K”から始まる技適証明番号が印刷されたシールを貼っています。その番号を記入してください。

●見本　技適番号

技適マーク

「技適証明送受信機」ですから、記入する必要はありません。

※付属装置（バケットなど）を付設した場合は非技適証明送受信機となりますので、右表の中から該当する事項を選んで記入してください。

使用する空中線の型式を記入してください。

	IC-207D	IC-207		
22工事設計	第1送信機	第2送信機	第3送信機	第4送信機
変更の種類	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号	技適番号を記入する	技適番号を記入する		
発射可能な電波方式、周波数の範囲	F2 144MHz帯 F3 430MHz帯	F2 144MHz帯 F3 430MHz帯		
変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調		
定格出力	144MHz帯：50W 430MHz帯：35W	144MHz帯：20W 430MHz帯：20W		
終段管 名称個数				
終段管 電圧	V	V	V	V
送信空中線の型式		周波数測定装置	A有（誤差 ） B無	
その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している。	添付図面	□送信機系統図	

1. 一　般　仕　様

・周　波　数　範　囲：144.000～146.000MHz
　　430.000～440.000MHz
・電　波　型　式：FM(F2/F3)
・アンテナインピーダンス：50Ω不平衡
・電　源　電　圧：DC13.8V±15%
・消　費　電　流：受信最大出力時　1.0A以下
　　待ち受け時　　0.8A以下
　　送信時最大

	IC-207D	IC-207
144MHz帯	12.0A以下	6.5A以下
430MHz帯	11.0A以下	6.5A以下

・使　用　温　度　範　囲：－10℃～＋60℃
・周　波　数　安　定　度：±10ppm(－10℃～＋60℃)
・外　形　寸　法：IC-207D　140(W)×40(H)×185.4(D)mm突起物を除く
　　IC-207　　140(W)×40(H)×175.8(D)mm突起物を除く
・重　量：IC-207D　約1.17kg、IC-207　約1.14kg

2. 送　信　部

・送　信　出　力：　( )内の値は430MHz帯

	LO	MID-LO	MID-HI	HI
IC-207D	約5W	約10W	約20W	50(35)W
IC-207	約2W	約5W	約10W	20W

・変　調　方　式：リアクタンス変調
・最大周波数偏移：±5.0kHz
・スプリアス発射強度：－60dB以下
・マイクロホンインピーダンス：600Ω

3. 受　信　部

・受　信　方　式：ダブルスーパーヘテロダイン
・中　間　周　波　数：第1/46.05MHz、第2/450kHz
・受　信　感　度：－16dBμ(0.16μV)以下12dB以SINAD(TYP.)
・スケルチ感度：－18dBμ(0.13μV)以下　Threshold
・選　択　度：12kHz　以上/－6dB
　　30kz　以下/－60dB
・スプリアス妨害比：60dB以上
・低　周　波　出　力：内部スピーカー　2.0W以上(8Ω負荷10%歪率時)
・低周波負荷インピーダンス：8Ω

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。
※定格、外観、仕様などは、改良のため、予告なく変更することがあります。

16 トラブルシューティング

本機の品質には万全を期しています。下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
下表にしたがって処置してもトラブルが起きるときや、他の状態のときは、弊社営業所のサービス係まで、その状況を具体的にご連絡ください。

状　態	原　因	処　置	参照
●電源が入らない	◎DC電源コードの接続不良	◉接続をやりなおす	P15
	◎電源の逆接続	◉正常に接続し、ヒューズを取り替える	P15
	◎ヒューズの断線	◉原因を取り除き、ヒューズを取り替える	P84
●スピーカーから音が出ない	◎VOLツマミが反時計方向になっている	◉VOLツマミを調整する	P21
	◎スケルチレベルが最大になっている	◉SQLツマミを調整する	P21
	◎外部スピーカーの接続不良	◉接続を点検し、正常にする	P11
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート	◉同軸ケーブルを点検し、正常にする	P16
●電波が出ないか、電波が弱い	◎同軸ケーブルの断線またはショート	◉同軸ケーブルを点検し、正常にする	P16
	◎送信出力が“LO”になっている	◉LOWスイッチを押して、“HI”にする	P24
●変調がかからない	◎マイクコネクターの接続不良	◉コネクターの接続ピンを点検する	P9
●周波数が設定できない	◎操作スイッチがロック状態になっている	◉LOCK(SET)スイッチを約1秒押し、ロック機能を解除する	P66
	◎メモリーまたはCALL－CHモードになっている	◉V/MHzスイッチを押して、VFOモードにする	P18
●プログラムスキャンが動作しない	◎スケルチが開いている	◉SQLツマミを回して、雑音の消える位置にセットする	P21
	◎メモリーまたはCALL-CHモードになっている	◉V/MHzスイッチを押して、VFOモードにする	P18
	◎プログラムスキャン用メモリー(1A/1b～5A/5b)のAとbに同じ周波数がメモリーされている	◉プログラムスキャン用メモリーのAとbをちがう周波数にする	P36
●メモリー（スキップ）スキャンが動作しない	◎スケルチが開いている	◉SQLツマミを回して、雑音の消える位置にセットする	P21
	◎VFOまたはCALL-CHモードになっている	◉M/CALLスイッチを押し、メモリーモードにする	P18
	◎1CHしかメモリーしていない(メモリーを消去した)	◉2CH以上にメモリーする（SKIPも消去と同じ）	P30

状　態	原　因	処　置	参照
●ディスプレイが異常な表示になる	◎CPUが誤動作している	◉リセット操作を行う	P83
●マイクからUP/DNができない	◎マイクのLOCK機能が動作している ◎ユーザーファンクションを設定している	◉マイクのLOCKスイッチを“OFF”にする ◉ユーザーファンクションを解除する	P9 P65
●PTTスイッチで送信しても途中で受信に戻る	◎タイムアウトタイマー機能が動作している	◉タイムアウトタイマー機能を“OFF”にする（イニシャルセットモード）	P52

アフターサービスについて

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「トラブルシューティング」にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。
修理することにより、機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させてきいただきます。

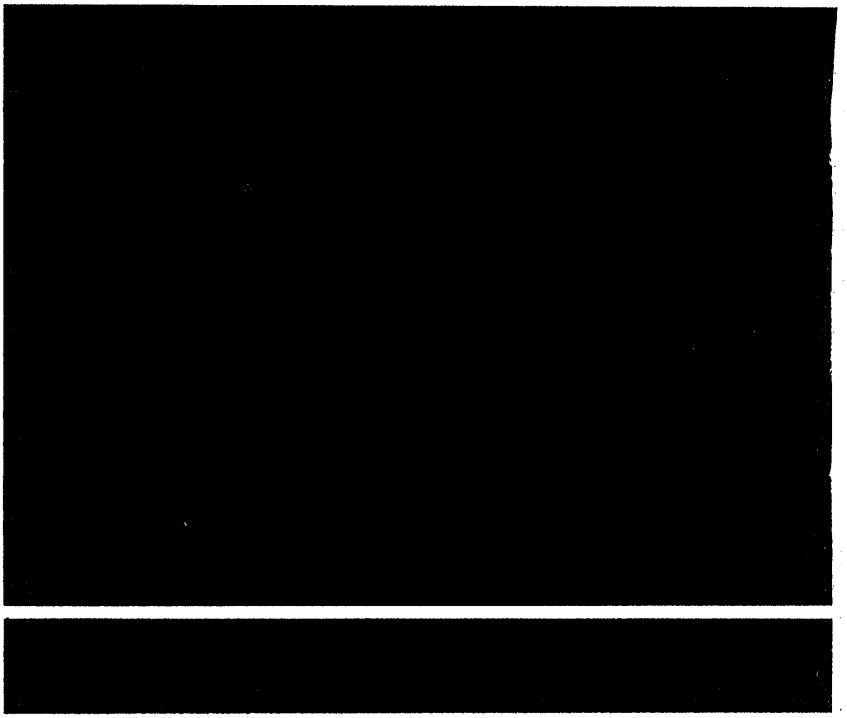
●アフターサービスについてわからないときは

アフターサービスについてわからないときは
お買い上げ販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。

IC-207シリーズのオプション一覧表

HM-90	ワイヤレスリモコンマイクロホン(別途、EX-1759が必要)
EX-1759	赤外線ワイヤレスマイク受光ユニット(HM-90用)
EX-1513	赤外線ワイヤレスマイク受光ユニット(拡張用)
BC-96	HM-90用充電スタンド
CP-13L	ノイズフィルター付シガレットライターケーブル(BC-96電源用)
OPC-288L	BC-96充電用電源コード
HM-98	多機能マイクロホン
MB-17A	ワンタッチモービルブラケット
OPC-600	コントローラー延長ケーブル [3.5m] (補修用)
OPC-601	コントローラー延長ケーブル [7m]
OPC-440	マイク延長ケーブル [5m]
OPC-647	マイク延長ケーブル [2.5m]
OPC-441	スピーカー延長ケーブル [5m]
OPC-347	DC電源コード [7m/20A]
OPC-344	DC電源コード [3m/10A] (補修用) (IC-207用)
OPC-346	DC電源コード [3m/20A] (補修用) (IC-207D用)
HM-77	DTMFメモリー付きハンドマイクロホン
HM-78	アップ/ダウンスイッチ付きハンドマイクロホン(補修用)
SP-10	外部スピーカー
SP-12	外部スピーカー(薄型)
HS-62	フレキシブルマイク(別途、HS-15SB、OPC-589が必要)
HS-15SB	HS-62用PTTスイッチボックス
OPC-589	モジュラー→8ピンマイクコネクター変換ケーブル

高品質がテーマです。



アイコム株式会社

A-5421S-1J-③ 1996 © Icom Inc.